

JS-RW5064

4K対応64ch

ネットワークビデオレコーダ

設置運用マニュアル



取扱説明書

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

取扱説明書を読む前に

本取扱説明書では、4K対応 64ch ネットワークビデオレコーダ JS-RW5064の設置および運用のための基本的な説明を記述しています。

本機をはじめてご使用になるユーザーの方はもちろん以前多くの類似装置を使用してきたユーザーの方でも、ご使用の前には必ず本取扱説明書をよく読み注意事項をご確認の上、本機を使用することをお勧めいたします。なお、安全上の警告および注意事項は製品を正しく使うことで危険や財産上の被害を防ぐことにつながるため、必ずお守りください。

お読みになった後は、いつでも確認できる場所に必ず保管してください。

- 規格品以外の製品を使用することで発生した損傷、または取扱説明書の使用方法を従わずに発生した製品の損傷は、当社で責任を負いかねますので、ご了承ください。
- Network Video Recorder(ネットワークビデオレコーダ)を初めてご使用になるか、使い方がよく分からないユーザーは、設置や使用する途中で必ず販売店までお問い合わせ頂き専門のエンジニアのサポートを受けてください。
- 機能拡張および故障修理のために装置を分解する場合は、必ず販売店までお問い合わせいただき専門家のサポートを受けてください。
- 本機は業務用として電磁波適合した装置ですので、販売者または使用者はこの点にご注意ください。もし、誤って販売または購入した場合には、家庭用のものに交換してください。
- 本製品は電気通信事業者(移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダ等)の通信回線(公衆無線LANを含む)に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルータ等を経由し接続してください。
- 予期せぬ停電による製品の損傷を防ぐため、UPS(Uninterruptible Power Supply、無停電電源供給装置)の設置をお勧めします。詳細はUPS代理店にお問い合わせください。

安全上の注意事項の表示



注意

感電の危険があるので開けない
てください。



注意:感電の危険があるのでカバーを取り外さないでください。
修理は資格のあるサービス担当者へ依頼してください。





この事項を守らない場合、死亡したり重症を負う恐れがある内容です。



この事項を守らない場合、軽症を負ったり財産の損害が発生する恐れがある内容です。

記号	規格	タイプ
	IEC60417, No.5032	交流
	IEC60417, No.5031	直流

本文での表記

アイコン	表記	意味
	注意	本機の機能や動作に関する内容で、必ず熟知しておかなければならない内容です。
	参考	本機を使用する上で役立つ内容です。

本文章の内容は予告なく変更する場合があります。

本機には一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。ライセンス政策のソース公開支援可否によって、該当ソフトウェアのソースコードを希望する場合は提供受けることができます。詳細内容は製品本体の設定メニューから「システム - 製品情報」の画面でご確認をお願いします。本製品はUniversity of California, Berkeleyが開発したソフトウェア及びOpenSSL Projectが開発したOpenSSLツールキット用のソフトウェアを含めております。また、この製品はEric Young (eay@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアとTim Hudson (tjh@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアを含めております。

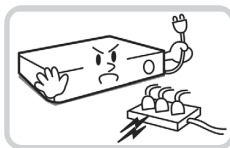
本製品は下記URLに掲載されている特許の1つ以上の請求項の権利範囲に含まれています。
patentlist.accessadvance.com

安全上の注意事項

製品を正しく使うことで使用者の安全を確保し、財産上の損害などを事前に防止するための内容であるため、必ずお守りください。

⚠ 警告 この事項を守らない場合、死亡や重症を負う恐れがある内容です。

設置について



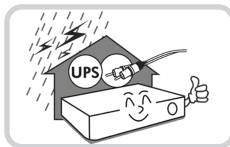
設置する前に必ず本機の電源をOFFにしてください。本機が使用するコンセントは、タコ足配線は止めてください。

異常発熱や火災、感電の原因となります。



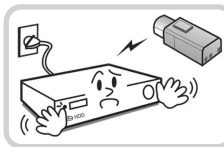
本機の内部に高電圧部分があるため、任意で蓋を開けたり分解・修理・改造したりしないでください。

異常作動により火災や感電、けがの原因となります。



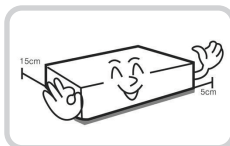
停電や落雷による被害を防ぐため、保護設備を作ってください。

火災、感電、けがの原因となります。



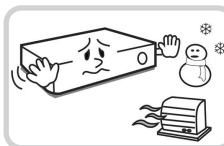
カメラの新規設置および追加工事の前には必ず本機の電源をOFFにし、製品の駆動中には絶対に信号ラインを接続しないでください。

火災、感電、けがの原因となります。



本機の後面には接続のための端子が突出しているため、壁に近すぎるとケーブルが無理に曲がったり押さえつけられたりして破損する恐れがあります。壁から15cm以上の間隔をあけて設置してください。

火災、感電、けがの原因となります。



0°C~40°Cの環境でご使用ください。温度が高すぎる場所や低いところ、湿度の高いところには設置しないでください。直射日光が当たる場所や暖房器具など熱を発する機器の近くには設置しないでください。通風孔は塞がないでください。

火災の原因となります。

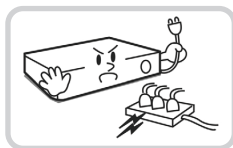


湿気、ホコリ、煤などの多いところには設置しないでください。

感電、火災の原因となります。

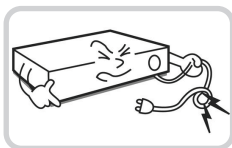
- ・ 工事は販売店に依頼してください。工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊を防ぐためにも、必ず販売店にご相談ください。

電源について



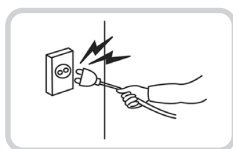
本機の使用電源はAC100Vです。専用のコンセントに接続して、消費電力の大きな機器（コピー機、電熱器具、冷蔵庫など）と一緒に使用しないでください。必要な場合に電源をOFFにできるよう、ブレーカーやコンセントがすぐわかるようにしておいてください。

異常発熱や火災、感電の原因となります。



電源ケーブルを無理に曲げたり、重い物を乗せたりして破損しないようにしてください。電源ケーブルを切ったり、プラグを改造してはいけません。電源プラグにホコリがたまると、湿気で絶縁不良になります。プラグのホコリ等は定期的に取りってください。

火災の原因となります。



電源ケーブル部分を無理に引き抜いたり、濡れた手で電源プラグに触らないでください。コンセントがゆるい場合は電源プラグを差し込まないでください。

火災、感電の恐れがあります。

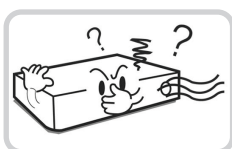
- ・アース（接地）は確実に行ってください。電源コードには感電を防ぐためのアース線があります。電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をアースに接続してください。確実にアース接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行ってください。
- ・本製品に付属の「電源コード」は本製品専用のものです。他の製品に使用することはできません。なお、他の製品への転用は保証できません。

使用について



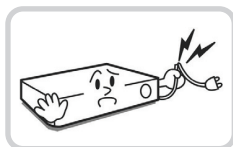
製品に水、または異物が入った場合、すぐに電源プラグを抜いて販売店までご連絡ください。

故障、火災の原因となります。



異常な音がしたり臭いがしたりする場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店までお問い合わせください。

火災、感電の恐れがあります。

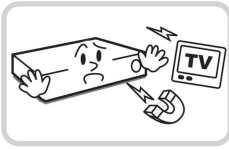


湿気のある床や接地されていない電源延長ケーブル、被覆の剥がれた電源コード、安全接地の欠如など、危険な状況を作らないように注意してください。問題が発生した場合は、販売店や施工業者にお問い合わせください。

火災、感電の恐れがあります。

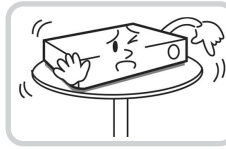
⚠ 注意 指示事項を守らない場合、軽症を負ったり、製品が破損したりする可能性があります。

設置について



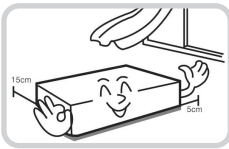
強い磁性や電波のある場所、衝撃のある場所、ラジオやテレビなどの無線機器に近い場所には設置しないでください。

磁石類や電波、振動の届かないところに設置してください。



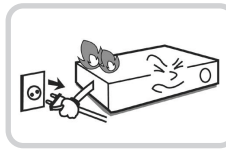
水平で安定した場所に設置し、垂直に立てたり斜めに置いて使用しないでください。

機器が倒れたり落ちたりする場合、故障したり人にけがをさせたりする恐れがあります。



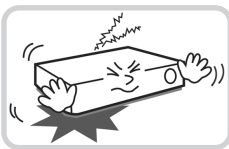
密閉されていない風通しの良い場所に設置し、室内の空気は適切に循環させてください。

周辺の環境要素により故障の原因となります。後面は15cm以上、側面は5cm以上あけて設置してください。



ユーザーが電源プラグを簡単に取り外せる場所に設置してください。

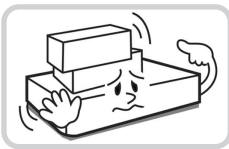
製品に深刻な異常や火災が発生した場合、電源プラグを抜いて危険要素を簡単に取り除けるようにしてください。



強い衝撃や振動のない場所に設置してください。

故障の原因となります。

使用について



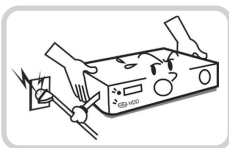
製品の上に重いものを置かないでください。

故障の原因となります。



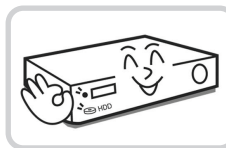
通風のためにあいている溝に導電性物体が落ちないように注意してください。

故障の原因となります。



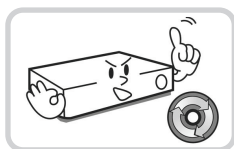
製品の駆動中には電源プラグを抜いたり、製品を動かしたりしないでください。

故障の原因となります。

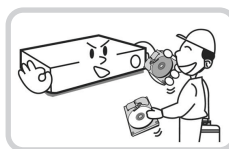


製品前面のHDD LEDが点滅し続けていれば、システムとHDDが正常に接続されていることが分かります。

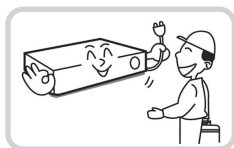
HDD LEDが点滅し続けているかどうか随時確認してください。



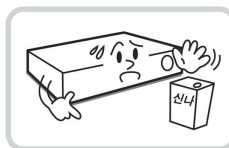
HDDの空き容量がなくなったときに録画を続けるために設定を変更して録画を続ける場合、既存のデータが削除されるため再度確認してください。



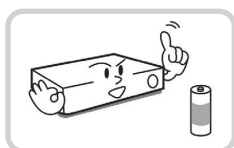
とくにシステム稼働中は、振動や衝撃を与えないでください。デジタルレコーダはハードディスクドライブに録画データを保存しています。ハードディスクはわずかに数ミクロンの隙間をディスクが高速で回転しており、システム稼働中に振動や衝撃を与えるとハードディスクが損傷し、デジタルレコーダが起動しなくなったり、録画データが読み出せなくなったりします。内蔵ハードディスク、放熱ファンは消耗品です。約30,000時間(この時間は部品の性能を保証するものではありません)を目安に交換されることをお勧めします。交換の際は購入店にご相談ください。



製品の動作状態を随時確認し、異常が見つかったときはすぐに販売店やサービスセンターにお問い合わせください。



お手入れは、安全のため電源をOFFしてから乾いた布や、薄めた中性洗剤等を染み込ませ固く絞った布で軽く拭いてください。シンナー、有機溶剤は塗装がはげたり変形したりするため、使用しないでください。



時計や設定の保存のため内蔵バックアップ電池を使用しています。全く通電を行わない場合は、3年目安あるいは必要に応じて交換をお勧めします。

目次

第1章—製品紹介	11
製品の特徴	11
付属品の確認	12
各部分の名称および機能	13
前面パネル	13
後面パネル	16
後面パネルの接続	16
第2章—設置	21
パスワード設定	21
ウィザード実行	21
カメラ登録	24
カメラ登録モードの実行	24
スキャンボタン（カメラ検索ボタン）	25
カメラ表示メニュー	26
カメラリストエリア	27
映像出力エリア	28
適用 / キャンセルボタン	29
自己診断の実行	29
ログイン	29
パスワード探し	30
リアルタイム監視	31
リアルタイム監視メニュー	31
コンテキストメニューの実行	36
拡大機能	36
PTZ制御	36
歪補正制御	37
歪補正（カメラ）	37
イベントモニタリング機能	37
カメラ非表示機能	38
画面グループの編集機能	38
ビデオ録画	38
緊急録画	38
オーディオ録音	38
保存された映像の再生	39
全チャンネル再生	39
コンテキストメニュー	39
第3章—設定	40
メニューの使い方	40
スクリーンキーボードによる文字列入力	40
テーブルで全列の値を同時に設定する	41
マウスの使用	41
システム設定	41
一般	41
日付/時刻	42
使用者	43
セキュリティ	46
HDD	47

自己診断	48
ユーザー定義の値	49
製品情報	49
録画設定	50
一般	50
高機能設定	50
スケジュール	51
プライベート	52
統計	52
イベント設定	53
システムイベント	53
カメラシステム	55
カメラシステム：オーディオ検出	55
カメラシステム：映像信号なし	55
カメラシステム：録画失敗	56
ビデオ分析	56
ビデオ分析：モーション	56
ビデオ分析：トリップゾーン	58
ビデオ分析：タンパーリング	59
AIイベント	60
AIイベント_設定	60
追加イベント	66
追加イベント_設定	67
映像解析装置	69
映像解析装置_設定	69
映像解析装置_画像解析信号なし	72
ネットワーク設定	72
一般	72
WEB Client 2	73
WAN	73
VIN	74
UCN	76
NetFS	76
RTSP	77
ファイアウォール	78
NAT	78
装置の設定	79
アラーム出力	79
アラーム出力：設定	79
アラーム出力：スケジュール	79
外部機器接続	80
遠隔制御	80
その他	80
映像解析装置	81
映像解析装置_登録	81
映像解析装置_設定	81
映像解析装置_スケジュール	87
映像解析装置_メンテナンス	87
ディスプレイ設定	87
装置	87
スクリーン	88

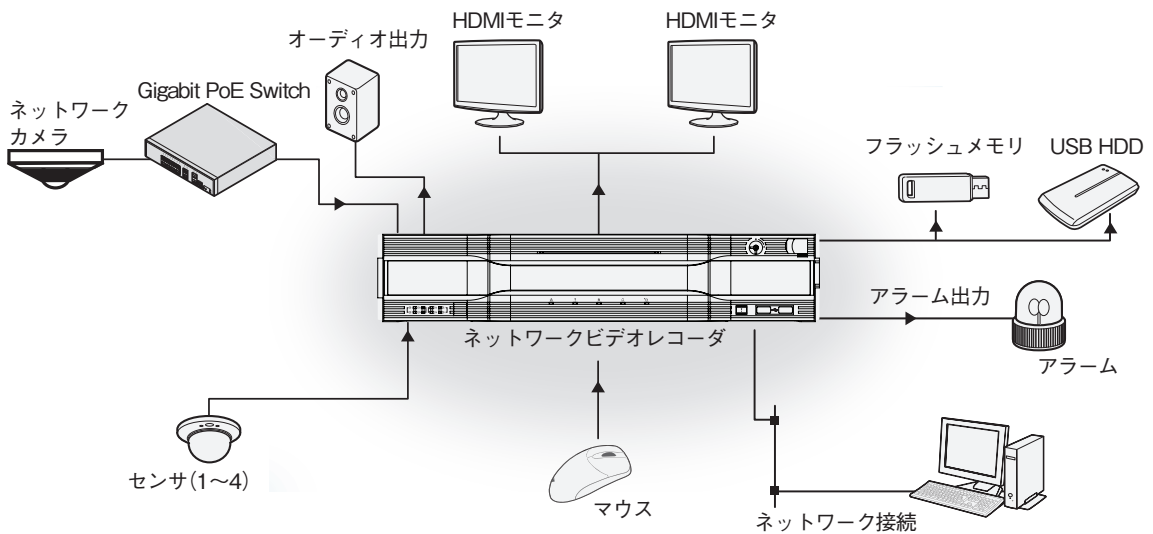
イベントモニタリング	88
自動切替	88
OSD	89
通知設定	89
スケジュール	89
コールバック	90
メール	91
Push	92
FTP通知	92
HTTP	93
カメラ設定	94
一般	94
高機能設定	94
ストリーム I	101
ストリーム II	101
オーディオ	102
メンテナンス	103
第4章—検索	104
タイムラプス検索	104
検索メニュー	105
タイムラプス検索メニュー	106
コンテキストメニュー	109
イベントログ検索	110
サムネイル検索	111
重複した時間の映像検索	111
第5章—WEB Client 2	112
WEB Client 2	112
ウェブ監視モード	113
ウェブ検索モード	115
第6章—付録	118
NAT機能の使用例	118
Web Setup 接続の方法	119
WEB Client 2接続方法	119
カメラのJSS遠隔監視システム接続	120
カメラのRTSP接続	120
システムログの種類	121
エラーコードの種類	122
故障時の確認事項	124
製品の仕様	125

第1章—製品紹介

製品の特徴


本機はネットワークカメラまたはビデオエンコーダ（以下、ネットワークカメラまたはカメラという）の映像監視、録画及び再生機能を持つネットワークビデオレコーダ（以下、NVRという）で、次のような特徴があります。

- 64チャンネルのリアルタイム監視に対応
- H.265に対応
- UHDの解像度に対応
- 最大UHD 1920ips録画
- 2 HDMI映像同時出力
- 高速で簡単な検索モードを提供（タイムラプス、イベントログ、サムネイル、テキストイン）
- リアルタイム監視、録画、再生、遠隔転送機能のマルチタスクが可能
- ユーザー中心のグラフィックユーザーインターフェース（GUI）と多国語をサポート
- さまざまな録画モード（スケジュール、イベント、プリイベント、緊急）
- USB2.0端子×2、USB3.0端子×1（マウス、S/Wアップデートおよび記録映像の保存）
- 内部SATA3 HDD 8BAY対応
- 録画データを2つのディスクに同時に記録するミラーリングに対応（RAID 1、5、10）
- 双方向オーディオ機能に対応
- ネットワークカメラからのオーディオ録音、および1チャンネルオーディオの再生に対応
- 4アラーム入力、1アラーム出力、1アラームリセットに対応
- 自己診断機能、HDD状態などシステムの状況をシステムイベントで知らせる機能。（HDD状態はS.M.A.R.T.プロトコル使用）
- 設定、ログ、イベントクリップおよびバックアップファイルをネットワークにエクスポートする機能に対応



付属品の確認

製品の梱包を開けて、下記の付属品がすべて含まれているか確認してください。

			
ネットワークビデオレコーダ	電源ケーブル	簡易マニュアル	HDMIケーブル
			
ドアロックキー	マウス	ケーブルクランプ	保証書



本資料を含め、下記の各種取扱説明書およびソフトウェアは、WEBサイトから入手可能です。
購入先までお問い合わせください。

【取扱説明書】設置運用マニュアル(js-rw5064_im·om_verX.XX.pdf)

【取扱説明書】簡易マニュアル(js-rw5064_qg_verX.XX.pdf)

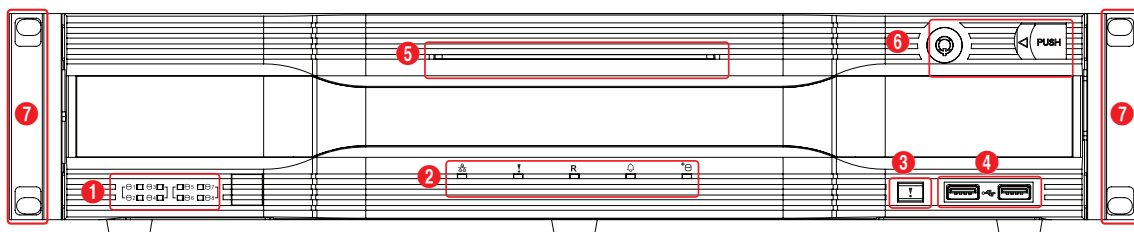
【取扱説明書】JSS遠隔監視システム(JSS-RMS_manual_verX.XX.pdf)

【ソフトウェア】JSS遠隔監視システム(JSS-RMS)

※取扱説明書はPDFファイルのため、Adobe Acrobat Readerが必要です。

各部分の名称および機能

前面パネル



①	HDD LED	②	状態LED	③	緊急録画ボタン	④	USB端子
⑤	電源LED	⑥	前面パネルロック装置	⑦	ラックマウント取付部		



- ・家庭用PCのように、USBマウスを利用して各設定ウィンドウやメニューに移動することができます。
- ・システム設定を円滑に行うため、USBマウスの使用をお勧めします。

① HDD LED

- RAIDモードまたはHDDの状態を表示します。


LED	HDD状態
緑色点灯	SATA HDD装着
緑色点滅	データの入出力発生
赤色点灯	RAID破損
赤色点滅	RAIDの再構築を行う
緑色/赤色点灯	HDD/RAIDエラー発生
消灯	SATA HDD未装着

② 状態LED

- ・ **ネットワークLED**：本機はイーサネットによりネットワークから接続されているときに点滅します。
- ・ **! PANIC LED**：緊急録画中には赤いLEDが点灯します。（緊急録画ボタンLED）
- ・ **R LED**：RAID構成が正しい場合には赤色のLEDは点灯、RAID構成が正しくない場合には赤色のLEDが点滅します。
- ・ **ALARM LED**：アラームイベントが発生すると、赤いLEDが点灯します。

- ・ **eSATA LED**：eSATAは本機に接続されているときに点灯します。

③ 緊急録画ボタン

緊急録画  ボタンを押すと、**!**が表示され、現在のスケジュールに関わらず映像録画を始めます。ボタンをもう一度押すと、緊急録画モードが解除されます。（設定で、緊急録画使用を有効にしている場合に使用できます。）

④ USB端子

(USB2.0対応)

・ HDD接続

USB端子にUSB外付けハードディスクやフラッシュメモリを接続してバックアップに使用することができます。外付けハードディスクはなるべくNVRに近いところで接続してください。通常180cmを超えないケーブルで接続することをお勧めします。外付けハードディスクと一緒に提供されたUSBケーブルでNVRのUSB端子に接続してください。

・ 外部機器の接続(マウス等)

USB端子にUSBマウスを接続することができます。また、USB⇄シリアルコンバーターを接続し、テキストインデバイスをいくつか接続するのに使用できます。

- USBフラッシュメモリはFAT32フォーマットのみに対応します。

5 電源LED

- ・ 本体が動作中に点灯します。

6 前面パネルロック装置

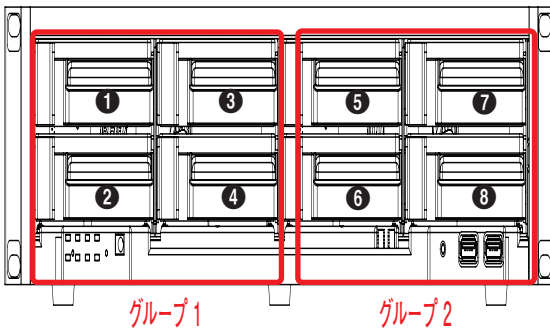
ハードディスクを交換する際に使用します。ハードディスクの交換方法についての詳細情報は下図をご参照ください。

7 ラックマウント取付部

ラックマウントへの取付け時に使用します。

ハードディスクの手順案内

前面パネルを開けたとき、ハードディスクは下記のように番号で管理されます。



グループ2 (5~8)	
ハードディスクポート	内部SATAポート 5, 6, 7, 8
	eSATAポート 2, 4
録画ビデオ入力チャンネル	偶数

ハードディスクを設置する際の注意事項(2)

RAIDとして使用したハードディスクはRAIDを構成したセットからRAIDを削除するか、ローレベルフォーマットを行ってから使用する必要があります。そうでない場合、RAIDエラーとして認識され接続されたすべてのハードディスクデータが削除されるおそれがあります。ハードディスクの追加、除去、交換は電源をオフにしてから行ってください。

- 製品はHDDを2つ搭載した状態で出荷していません。HDDを3つ以上搭載した状態での輸送は製品にダメージを与える可能性がありますので行わないでください。
- ・ HDDは偶数個の搭載が必要です。
- ・ HDDの追加、交換、設定には専門の知識と技術が必要ですので、必ず販売店までご連絡いただき専門のエンジニアにご依頼ください。
- ・ RAID使用する場合は、最低4つ以上のHDD搭載が必要です。

ハードディスクを設置する際の注意事項(1)

ハードディスクは接続されるポートによって、下記のように二つのグループに分かれて二つのグループがビデオ入力を分けて録画します。

グループ1 (1~4)	
ハードディスクポート	内部SATAポート 1, 2, 3, 4
	eSATAポート 1, 3
録画ビデオ入力チャンネル	奇数

RAID構成する際の注意事項

連続しているハードディスクで奇数番目を代表としてRAID構成できます。

下記の条件を満たすと、様々な組み合わせのRAIDを構成することができます。

- **RAID 1** : 2つのハードディスクを連続して装着(1、3、5、7番のハードディスクを代表としてRAID構成可能)
- **RAID 1** : HDD1-2、3-4、5-6、7-8と連続した2つのハードディスクをそれぞれ1組のRAID1ボリュームとして合計4つのボリュームをもつことが可能。
- **RAID 5、RAID 10** : HDD1~4、HDD5~8と連続した4つのハードディスクをそれぞれ1組のRAID5 (またはRAID10) ボリュームとして合計2つのボリュームをもつことが可能。



RAIDを構成するには同一型番、容量のハードディスクを使用する必要があります。

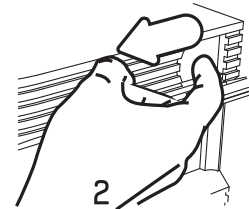
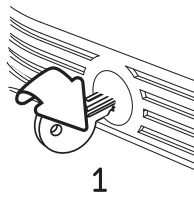
リビルド中は当該RAIDを構成するハードディスクを除去しないでください。RAID構成が解除されると接続されたすべてのハードディスクデータが消去されるおそれがあります。

フロントドアの開き方

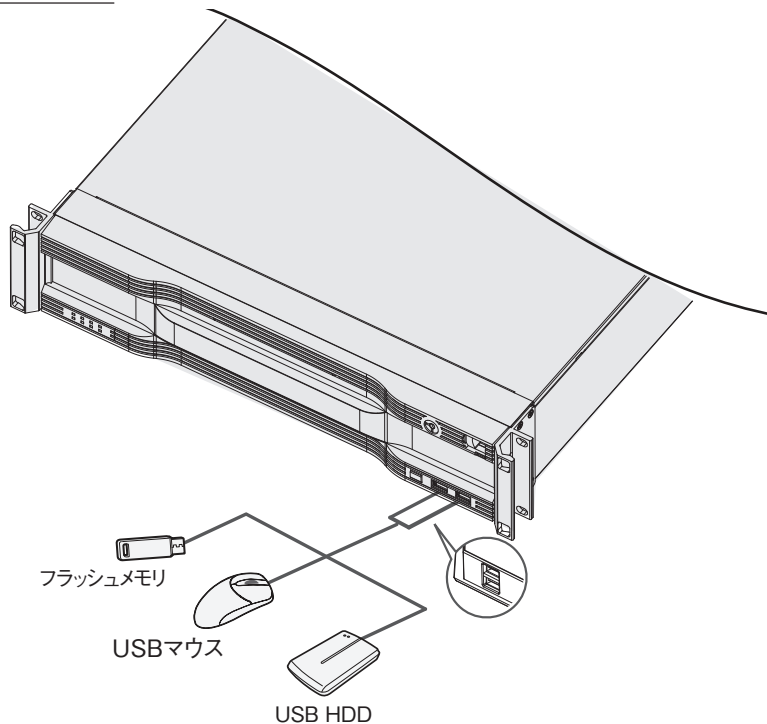


- 1 同封のドアロックキーを挿入し、時計回りに回します。
- 2 左側のドアを開くボタンを押します。
- 3 フロントパネルが取り外され、HDDを交換できます。

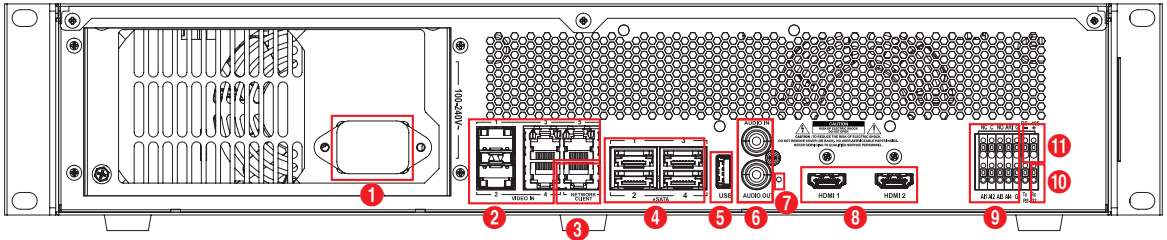
DOOR OPEN



前面パネルの接続図



後面パネル



①	電源入力端子	②	ビデオ入力端子 -SFP(1~2)/RJ45(3~5)	③	ネットワーク端子	④	eSATA端子
⑤	USB 3.0 端子	⑥	オーディオ入出力端子	⑦	ファクトリーリセットボタン	⑧	HDMI出力端子
⑨	アラーム接続端子	⑩	RS232端子	⑪	RS485端子		

HDMI端子使用時の注意事項

- ・ HDMIを使用する場合は、HDMIのロゴが表示された認証済みのケーブルを使用する必要があります。認証済みのHDMIケーブルを使用しない場合、画面が見えなかったり接続エラーが発生することがあります。
- ・ 次のようなHDMIケーブルのタイプをお勧めします。
 - 高速HDMIケーブル(High Speed HDMI Cable)
 - イーサネット対応高速HDMIケーブル(High Speed HDMI Cable with Ethernet)

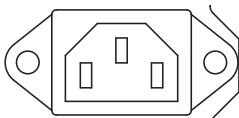
ラックマウント設置時の注意事項

- ・ ユーザーは必ず設置しようとするラックの設置マニュアルの通りご設置をお願いします。
- ・ ラックに使用するネジは当該ラックで提供されるネジ若しくは設置マニュアルに記載されている寸法のネジだけ使ってください。
- ・ ラックに設置する時には、必ず熟練した技術者が設置する必要があります。

後面パネルの接続

電源入力端子

電源コードを接続します。本NVRは電源ボタンがないため、電源を接続するとすぐに起動します。



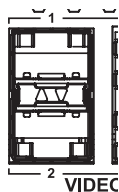
- ☑ 電源コードはきれいに配線し、足に引っかかったり、家具などによって被覆が剥がれないように注意してください。また、電源コードはカーペットの下を通さないでください。
- ・ 電源コードにはアース用端子があります。コンセントにアース端子が無い場合でも、プラグを変形させないでください。
- ・ タコ足配線は危険ですので、お止めください。

	注意 - 感電の危険
	すべての電源をオフにします

ビデオ入力端子

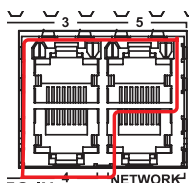
SFP (1~2)

光ケーブルを利用して、遠距離にある上位の装置と接続するときに使用するポートです。それぞれのポートには外付けハブを利用してネットワークを構成することができます。JSS2プロトコルに対応したネットワークカメラを使用すると、NVRが自動的に接続設定をします。



- ✓ 各ポートはFull Duplexモードで動作します。
- ✓ 接続されたネットワークが正常に接続されるとLEDが点灯し、データを送受信する際にはLEDが点滅されます。
- SFPポートに使用できるSFPモジュール(SFPトランシーバー(Transceiver)モジュールについては、代理店にお問い合わせください。)

• RJ45 (3~5)



RJ-45プラグを使用するCat5e/Cat6ケーブルを利用してネットワークカメラまたはビデオエンコーダーを接続します。各々の端子にはカメラだけではなく、外付けハブを接続することも可能です。JSS2プロトコルに対応したネットワークカメラを使用すると、NVRが自動的に接続設定をします。

- ✓ 接続されたネットワークが1000 Base-Tである場合は右側に緑色のLEDが点灯し、Linkされると左側にオレンジ色のLEDが点滅します。
- 安定的なビデオ送信のために一つのVIDEO INポートにネットワークカメラまたはビデオエンコーダーを32個以下に接続することをお勧めします。

ネットワーク端子



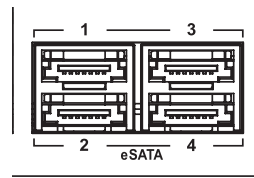
本NVRはイーサネットコネクタを利用してネットワークに接続することができます。NVRコネクタにRJ-45プラグを使用するCat5e/Cat6ケーブルを接続します。NVRは遠隔地から監視、検索、制御およびソフトウェアのアップデートができます。

- ✓ NVRの機種によっては、コネクタの方向が異なることがあります。
- 接続されたネットワークが1000 Base-Tである場合は右側に緑色のLEDが点灯し、Linkされると左側にオレンジ色のLEDが点滅します。

- ⚠ ネットワーク設定では、VINとWANのIPに同じセグメントのIPを設定しないでください。

eSATA端子

外付けハードディスクを接続できます。



- ⚠ NVRの電源が入ったままの状態、eSATA機器を接続したり、取り外したりしないでください。eSATA機器を接続する場合、まずNVRを終了し電源ケーブルを外してください。その後、eSATA機器とNVRをeSATAケーブルで接続し、eSATA装備の電源を入れた後、NVRの電源を入れてください。eSATA機器を取り外す場合、まずNVRを終了し電源ケーブルを外してから、eSATA機器の電源をOFFにした後、eSATA接続ケーブルを取り外してください。

USB 3.0 端子



USB

HDD接続

USB端子にUSB外付けハードディスクやフラッシュメモリを接続してバックアップに使用することができます。外付けハードディスクはなるべくNVRに近いところで接続してください。通常180cmを超えないケーブルで接続することをお勧めします。外付けハードディスクと一緒に提供されたUSBケーブルでNVRのUSB端子に接続してください。ビデオバックアップに関する内容は、[第4章－検索－タイムラプス検索メニュー](#)－[⑤バックアップ](#)を参照ください。

外部機器の接続(マウス等)

USB端子USBマウスを接続することができます。
また、USB⇄シリアルコンバータを接続し、テキストインデバイスをいくつか接続するのに使用できます。

- USBフラッシュメモリはFAT32フォーマットのみに対応します。

オーディオ入出力端子

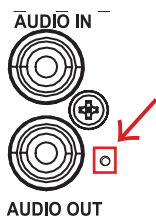


オーディオ機器を**AUDIO IN**(オーディオ入力)に接続し、アンプが内蔵されたスピーカーを**AUDIO OUT**(オーディオ出力)に接続してください。**AUDIO OUT**端子に接続すると、ネットワークカメラからの音声を聞くことができます。

AUDIO IN(オーディオ入力)端子を利用すれば、カメラとの双方向通信ができます。

- NVRはオーディオ出力アンプを実装していないため、ユーザーはアンプとスピーカーを用意する必要があります。オーディオ入力は増幅されたカメラからの音声を接続することができますが、内蔵アンプがないマイクを直接接続しても正常に作動しません。こういった場合は、別途アンプを介して接続してください。
- 録音することが許容されているか、当該地域の法律を確認してください。

ファクトリーリセット



装置の後面のオーディオ出力端子の右側にあるファクトリーリセットスイッチは、NVRを工場出荷時の初期設定に戻すときにのみご使用ください。

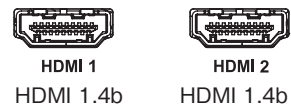
- ⚠️ ファクトリーリセットを使用する場合、ユーザーが保存したNVRのすべての設定値が失われます。

- ファクトリーリセットを行うためには、まっすぐ伸ばしたクリップが必要です。

- 1 NVRの電源をオフしてください。
- 2 まっすぐ伸ばしたクリップをファクトリーリセットスイッチの穴に差し込んでスイッチを押したままNVRの電源を接続してください。
- 3 NVRの内部ブザーが鳴ってからスイッチを外すと、Factory Resetのシグナルを認識します。
- 4 シグナルが認識されると、改めてブザーが鳴り、NVRのすべての設定は工場出荷時の初期設定の状態に戻り、再起動します。

HDMI出力端子

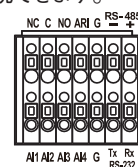
HDMI端子にモニターを接続することができます。



- ⚠️ HDMIを使用する場合は、HDMIのロゴが表示された認証済みのケーブルを使用する必要があります。認証済みのHDMIケーブルを使用しない場合、画面が見えなかったり接続エラーが発生することがあります。
- 次のようなHDMIケーブルのタイプをお勧めします。
 - 高速HDMIケーブル(High Speed HDMI Cable)
 - イーサネット対応高速HDMIケーブル(High Speed HDMI Cable with Ethernet)

アラーム接続端子

アラーム信号線を接続できます。



アラーム信号線を接続するには、ボタンを押したままボタンの下の穴に信号線を差し込みます。確実に接続しているか確認するため、ボタンを離して信号線を軽く引っ張ってみてください。信号線を外すには、上のボタンを押したまま信号線を引っ張ってください。

・ アラーム入力1～4

外部機器を利用し、イベントが発生したらNVRから信号を送ることができます。機械的または電気的スイッチをAI1～AI4 (アラーム入力) とG (接地) 端子に接続します。アラーム入力を検知するためには、0.3V以下 (NO (Normally Open) タイプ) の電圧が少なくとも0.5秒間維持される必要があります。アラーム入力の電圧範囲は0～5Vです。

・ G(接地)

アラームの入力または出力の接地側をG端子に接続します。

Gが表示されているすべてのコネクタは共通です。

・ NC/NO (リレーアラーム出力)

本NVRはブザーや電灯などの外部の装置をON/OFFすることができます。動作仕様は、NC (Normally Closed) またはNO (Normally Open) タイプから選択できます。機械的または電気的スイッチをNCとC、またはNOとCコネクタに接続します。電気的仕様は125V ACで2A、30V DCで1Aです。

・ ARI (アラームリセット)

アラームリセットコネクタから入力される外部の信号からアラームアウトと内部ブザーをリセットできます。機械的、または電気的スイッチをARI (アラームリセット入力) とGコネクタに接続できます。アラームリセットを検知するためには、0.3V以下の電圧が少なくとも0.5秒間維持される必要があります。

・ コネクタ配置

AI1～AI4	アラーム入力1～4
G	接地
C	リレーCommon
NO/NC	リレーアラーム出力 (Normally Open)、(Normally Close) (C端子との接続)

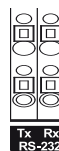
RS485端子

RS485 half-duplexシリアル通信信号を利用し、POSのようなデバイスと接続することができます。

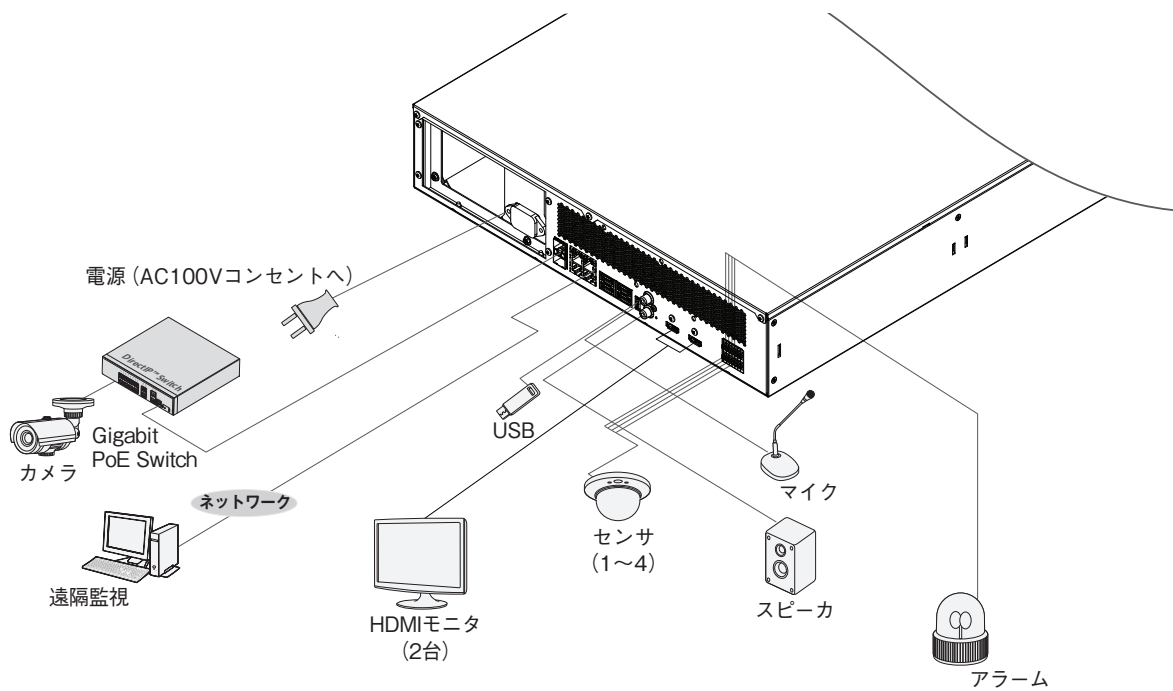


RS232端子

UPSのようなデバイスを接続することができます。



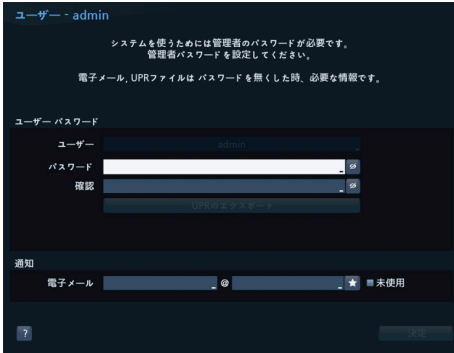
後面パネルの接続図



第2章—設置

パスワード設定

- 1 システムを初めて稼働する場合、adminユーザーアカウントのパスワード設定が求められます。



- ✓ 工場出荷初期パスワードはありません。
- ✓ 初回ログイン時に運用パスワード登録が必ず必要です。パスワードなしでシステムを使用することはできません。
- 左下の「?」ボタンを押すと表示されるパスワード設定に関するガイドラインをお読みください。
- 電子メールアドレスとUPRファイルはパスワード紛失の際に確認用の情報として使用することがあります。当該情報を正確に入力しなかったり任意の情報が入力された場合、パスワードを探せない場合もあります。
- 電子メールアドレスの設定あるいはUPRのエクスポートいずれかを行わないと、決定ボタンが押せません。
- または✕ボタンを押すことで、パスワードの表示／非表示を切り替えることができます。

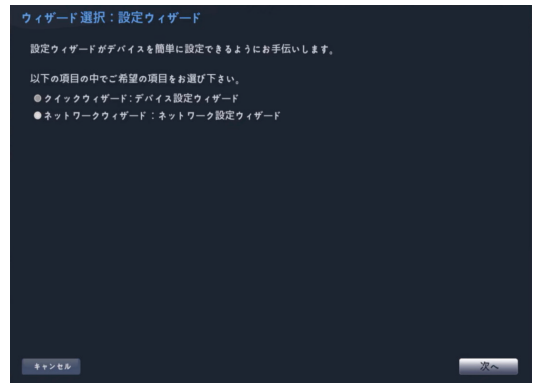
- ✓ パスワードは、8～16文字で英大文字、英小文字、数字、特殊記号の内、3種類以上の文字の組み合わせが必要です。
(例: jA38v2c4, a1##sb32)
- 次の文字列は使用できません。
 - * IDと同じ文字列
 - * 3文字以上の連続した数字が含まれる文字列
(例: 123, 321)
 - * 3文字以上の連続した英字が含まれる文字列
(例: abc, cba, aBC)
 - * 3文字以上の文字が繰り返されている文字列
(例: 111, aaa, aAA)

ウィザード実行

設定ウィザードを利用し、システム運用に必要な初期設定を行うことができます。

- ✓ 設定ウィザードは管理者アカウントでログインすると、リアルタイム監視メニューのウィザードメニューから実行できます。

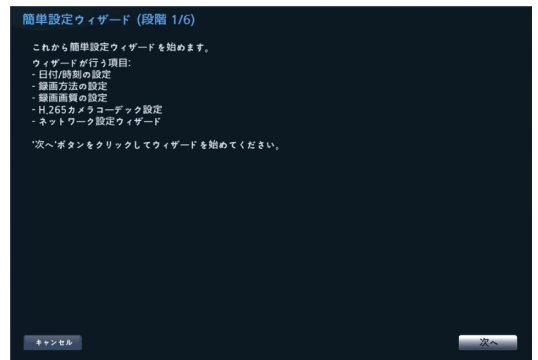
- 1 設定ウィザードのオプションを選択した後、次ボタンをクリックして設定ウィザードを起動させます。



- ✓ ウィザード画面全体でキャンセルを選択すると、変更された設定を取り消してメイン設定メニュー画面に戻ります。

クイック設定ウィザード

- 1 クイック設定ウィザードを始めます。

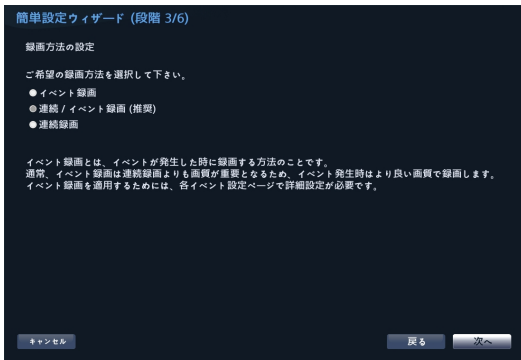


2 日付や時刻を設定した後、次へをクリックしてください。

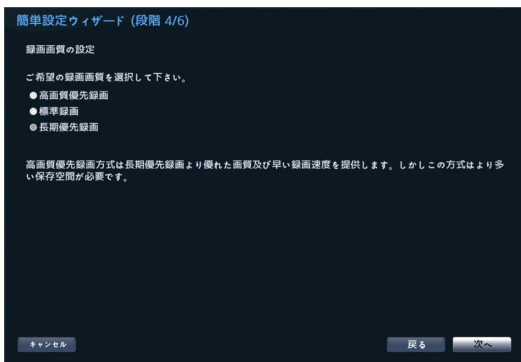


- ✓ 変更された日付/時刻の設定値は、次へをクリックすると適用されます。
- 日付/時刻設定に関する詳細は、**第3章 設定 — システム設定 — 日付/時刻**を参照ください。

3 設定したい録画方式を選択した後、次へをクリックしてください。



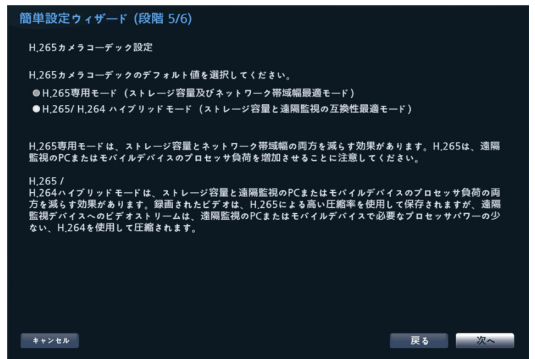
4 設定したい録画画質を選択した後、次へをクリックしてください。



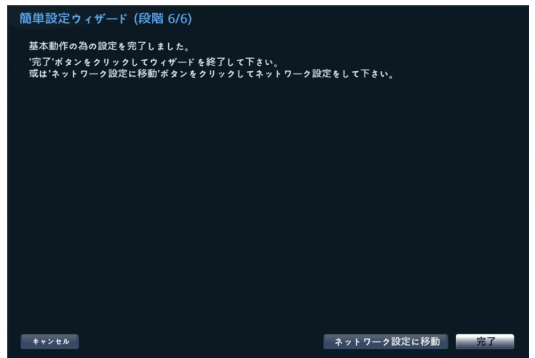
- ✓ 高画質を選択するほど、ハードディスクで使用される容量は大きくなります。
- 選択した録画画質によってビデオプロファイルが決まります。
 - 高画質優先録画：最高画質
 - 標準録画：高画質
 - 長時間優先録画：標準画質
- 選択した録画方式および画質によるビデオプロファイルは次の通りです。

	高画質優先録画	標準録画	長時間優先録画
モーション検知録画	プロファイル 1	プロファイル 2	プロファイル 3
連続/モーション検知録画	プロファイル 2 (連続) / プロファイル 1 (モーション)	プロファイル 3 (連続) / プロファイル 2 (モーション)	プロファイル 4 (連続) / プロファイル 3 (モーション)
連続録画	プロファイル 1	プロファイル 2	プロファイル 4

5 コーデック方式設定
H.265ネットワークカメラのコーデックデフォルト値を選択します。



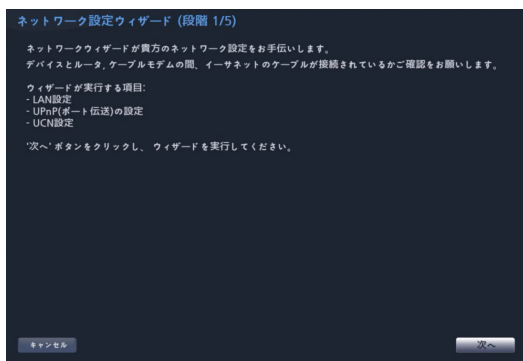
6 完了をクリックすると、クイック設定ウィザードが終了します。



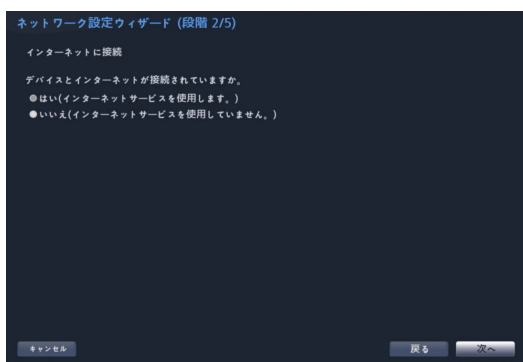
ネットワークウィザード

- クイック設定ウィザードが完了した後に**ネットワーク設定へ**をクリックすると、ネットワーク設定ウィザードを始めることができます。

1 ネットワーク設定ウィザードを始めます。

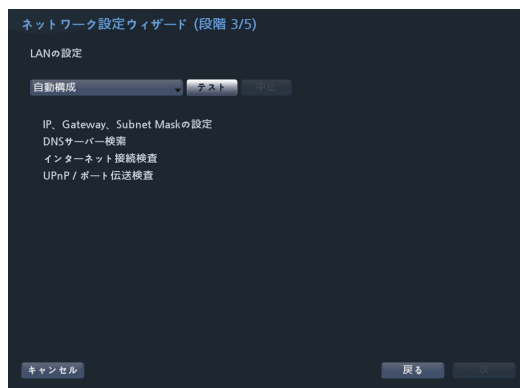


2 システムが外部のインターネットに接続されているかを選択し、**次**をクリックしてください。



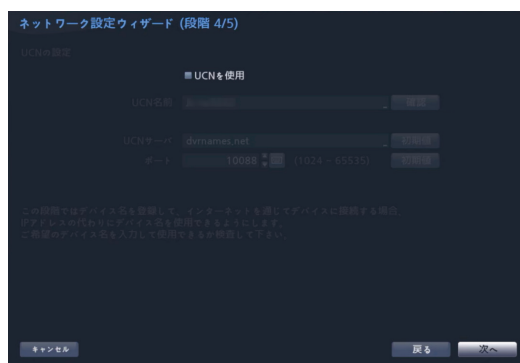
- インターネット接続選択で**いいえ**を選択した場合、テストが完了してから**完了**を押すと、ネットワーク設定ウィザードが終了できます。

3 ネットワーク構成を選択し、**次**をクリックしてください。自動構成または手動構成から設定したいネットワーク構成を選択した後、**テスト**をクリックすると、現在のシステムのネットワーク構成が使えるかどうかを確認できます。



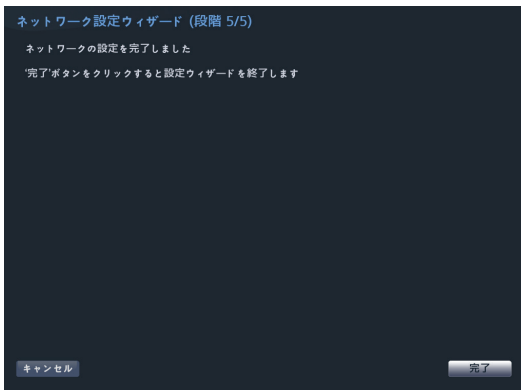
- テストを完了しないと、次の段階には進めません。
- DHCPサーバのあるネットワークにNVRが接続されている場合、**自動構成**を選択するとIPアドレスやDNSアドレス等のLAN設定値が自動で割り当てられます。**手動構成**を選択すると、IPに関する設定をユーザーが任意でできます。
 - UPnPを支援するデバイスがありません。**というエラーメッセージが表示されたら、使用するIPルータ(あるいはNAT)がUPnP機能に対応しているか、もし対応しているなら使用可能になっているか確認してください。IPルータがUPnP機能に対応しているかは、ご使用中のIPルータのマニュアルをご覧ください。

4 UCNサーバに登録されるNVRの名前を**デバイス名**に入力した後、**確認**をクリックし、入力している名前が使用可能であるか確認できます。



- ☑ UCNサーバに登録されるデバイスの名前は、NVRの固有の名前です。JSS遠隔監視システムなどのClientからNVRのデバイス名でシステムに簡単に接続することができます。確認後正常に登録されたら、終了が活性化されます。
- NVRの名前を入力しなかったりUCNサーバにすでに登録されている名前を入力したりすると、エラーメッセージが表示されます。
- ユーザーのネットワーク環境によってはUCNサービスが作動せず、ネットワークに接続できない場合があります。この場合、ポートを手動で設定する必要があります。ポート設定に対する詳細は、ネットワーク設定を参照ください。

5 **完了**をクリックして、ネットワーク設定ウィザードを終了してください。



カメラ登録

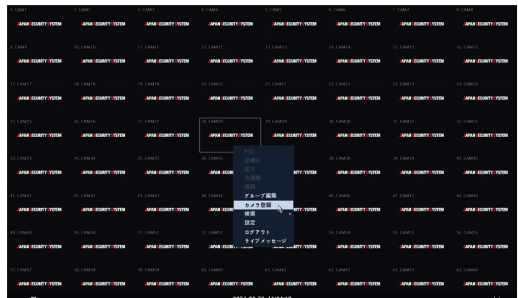
セットアップウィザードが完了すると、リアルタイム監視モード画面が表示されます。マウスを右クリックし、**[カメラ登録]**を選択すると、NVRに接続されているカメラをスキャンして登録あるいは削除ができるカメラ登録モードに入ることができます。

- ☑ NVRにカメラを登録して使用する場合、カメラ登録時にカメラ設定の大部分はNVR規定値に変更されます。登録するカメラは、初期化してであると安心です。カメラ登録後のカメラ設定変更はNVRから行い、PCなどからカメラに直接接続して設定変更を行わないでください。設定を変更した場合、誤動作することがあります。

- ☑ 本製品は、当社JSSプロトコル、JSS2プロトコルのカメラ接続運用を基本としています。

カメラ登録モードの実行

リアルタイム監視モードでマウスの右ボタンをクリックし、**カメラ登録**をクリックしてください。



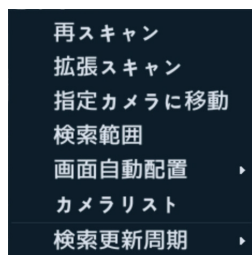
①	スキャンボタン(カメラ検索ボタン)
②	カメラ表示メニュー
③	カメラリストエリア
④	映像出力エリア
⑤	適用/キャンセルボタン

- ☑ 遠隔プログラムからもNVRにカメラを登録することができます。詳しい内容は**第3章—カメラ設定—カメラ登録**を参照ください。

■ スキャンボタン(カメラ検索ボタン)

自動で検出できなかったカメラも、いろいろな方法で検索して登録することができます。

スキャンボタンを押すと、次のようなメニューが表示されます。



再スキャン

自動的に検出できなかったJSS2プロトコルのカメラを検出することができます。

拡張スキャン

自動スキャンに対応しないカメラを手動で検出します。

- ☑ 他社のカメラはプロトコルおよびカメラのモデルによって、一部の動作に対応しない場合があります。
- 登録するデバイスは、IPアドレスが異なる必要があります。そうでない場合は、接続が失敗することがあります。
- ☑ このシステムは、当社製カメラとの組合せに最適化されています。他社のカメラを登録する際に、関連するカメラのビデオ設定が本システムの能力を超えていたりすると、特定機能に制約を受けたり、録画性能の保証ができなくなることがあります。その場合、設定調整などにより性能が最適化されるよう調整してください。



- **プロトコル**：検索したいカメラのプロトコルを選択してください。

- ☑
 - NVRに対応するプロトコルでも、カメラのモデルによってはデバイス登録ができなかったり、機能が使えなかったりする場合があります。対応するカメラのモデルに関する詳しい内容は、代理店までお問い合わせください。
 - 本システムは当社製カメラとの組合せに最適化されています。他社のカメラを登録すると、Video設定がシステムの性能を超える場合、録画性能が保証できず、特定の機能が制約される場合があります。この場合、設定変更により、最適化した性能を発揮できるように変更してください。

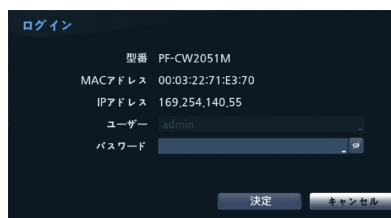
- **モード**：検索モードを選択してください。
 - **自動検索 (LAN)**：ローカルネットにあるカメラを検索します。**自動検索 (LAN)** モードで検索出来ないカメラは**IPアドレスで検索**してみてください。
 - **IPアドレス**：カメラのIPアドレスを入力して検索します。2つ以上のカメラを登録する場合、IPアドレスの範囲を入力して一度に検索することもできます。IPアドレス設定時のポート設定を選択すると、遠隔監視に使用するポート番号を設定することができます。カメラのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境の変化によって、デバイスが正しく接続されないことがあります。

1 スキャンボタンを押して検索してください。

- ☑ VIDEO IN端子に接続されているカメラのみ検索・登録できます。

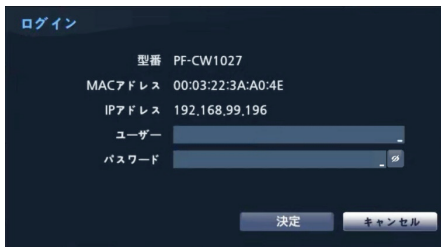
2 検索されたカメラをリストから選択した後、カメラ追加を選択すると、デバイスログインウィンドウが表示されます。

3 登録したいカメラのユーザーIDとパスワードを入力します。



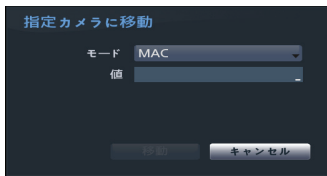
カメラのパスワード再設定

カメラのパスワード変更及び検索機能に対応するJSSおよびJSS2プロトコルカメラの場合、最初にカメラを登録するときにカメラのパスワードを設定する必要があります。なお電子メール情報を求められる機種の場合には、カメラパスワード変更や検索のために使用されます。



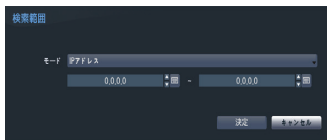
指定カメラに移動

カメラリストエリアに存在するカメラのリストからカメラのMACアドレスを使用し、そのカメラに自動的に移動します。



検索範囲

検索範囲の設定によってカメラリストエリアに存在するカメラをフィルタリングすることができます。

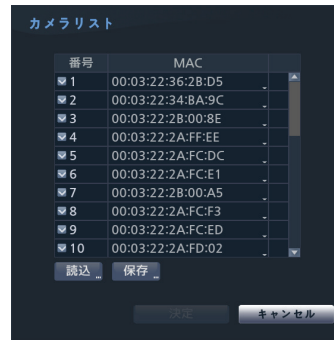


画面自動配置

検出されたカメラを映像出力エリアに自動的に配置するとき使用されます。

カメラリスト

カメラの情報ファイル (.csv) を利用し、ユーザーがより簡単にカメラを登録することができます。



- **保存** : カメラリストにあるカメラ情報を.csvファイルの形式でUSBまたはNetFSに保存します。
- **読み込** : カメラ情報が保存されている.csvファイルを読み込みます。.csvファイルがユーザーが直接修正することができます。

- csvファイルで、A列はカメラの番号、B列はカメラのMACアドレス、C列はエンコーダーのビデオ入力ポートを表しています。
 - 当該機能を使用する前には、必ずスキャンを行わなければなりません。登録したいカメラがスキャンリストに存在しない場合、カメラを登録することはできません。
 - 他社のカメラ、当社の一部のカメラは本機能に対応していません。


検索更新周期

カメラ検索の更新周期を設定します。更新周期を短く設定すると、カメラ検索結果のアップデートがより頻繁に更新されます。更新周期を長く設定すると、広いネットワーク網でのカメラ検索が可能です。

カメラ表示メニュー


- **整列** ボタン：映像出力エリアに表示されるカメラの画面をビデオイン端子に接続されたカメラの位置の順に再整列します。
- **リセット** ボタン：カメラ映像出力画面およびカメラリストエリアに表記されているすべてのカメラを初期化して再スキャンします。

- **リセット** を選択する場合、リストから検索されたすべてのデバイス情報が削除されます。

- ・ **ビットレート**  ボタン：各チャンネルの性能割り当てを変更することができる窓は下記のように現れます。



NVR全体の性能を各チャンネルに割り当てすることができます。カメラ登録時にチャンネルに割り当てられた性能までストリームの設定が可能です。従って、カメラに性能を十分に割り当てしないとQuality、IPS、解像度が低く設定される可能性があります。カメラが登録されたチャンネルの場合、現在のストリーム設定より小さいビットレートは割り当てできません。左下にある+を選択すると、ビットレートを一括変更できます。登録されているチャンネル(*)を選択すると、登録されているカメラのビットレートのみ変更できます。

- ・ **ツール**  ボタン：カメラ関連の動作を実行することができるネットワークカメラのツールウィンドウが表示され、カメラの認証、画面配置およびプロトコルを変更することができます。

- 1 実行する**動作**を選択してください。
- 2 カメラをリストから選択した後、**適用**ボタンを押してください。



- JSS2プロトコルカメラの場合、カメラ登録モードで自動的に認識されます。JSSプロトコルカメラの場合は自動で認識されません。

JSS2プロトコルカメラの場合は、設定変更しないことを推奨します。

プロトコルを変更するとカメラが再起動され、そのカメラをNVRに登録して使用することができます。詳しい設定方法は当該ネットワークカメラの取扱説明書を参照してください。

カメラリストエリア



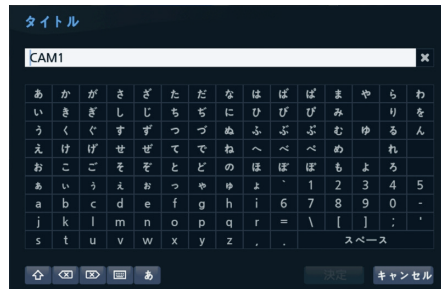
- ① **画面位置/登録可否**：映像出力エリアにあるカメラの画面位置が表示されます。登録可能なカメラは青い背景で表示され、すでに登録済みのカメラは灰色の背景で表示されます。他のNVRに登録されているカメラは黒い背景で表示されます。
- ② **型番**：カメラのモデル名が表示されます。
- ③ **MAC**：カメラのMAC情報のうち、後ろ12桁の数字が表示されます。
- ④ **タイトル**：カメラの名前が表示されます。映像出力エリアに変更した名前が適用されます。

カメラリストの各項目にマウスの右ボタンをクリックすると、下記の機能が実行できます。

- ・ **カメラ追加 / 削除**：リストにあるカメラを追加したり、追加されたカメラを削除したりすることができ

きます。カメラの追加オプションが登録されている場合には無効です。

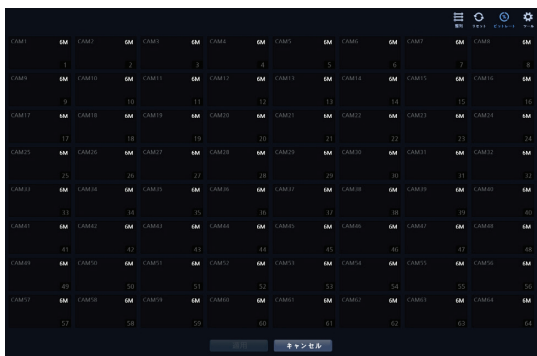
- ・ **認証**：カメラにログインするための情報を入力します。自動で検出され、パスワード不要なカメラは省略されます。
- ・ **情報**：カメラの情報（製品名、バージョン、MACアドレス、IPアドレスなど）と接続ポートを表示します。



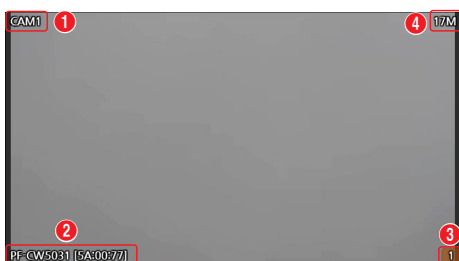
映像出力エリア

映像出力エリアでマウスの左ボタンをクリックすると、分割画面表示と単一画面表示を切り替えることができます。

映像出力エリアに表示されるカメラ画面はマウスをドラッグして表示位置を調整することができます。



カメラ画面の構成



① カメラタイトル

カメラのタイトルを表示します。カメラのタイトルのところでマウスの左ボタンをクリックすると、カメラのタイトルを編集することができます。

② MACアドレス

NVRに登録されていないカメラの場合、カメラのモデル名とMACアドレスが表示されます。

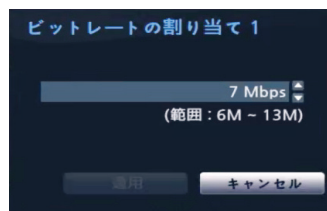
③ 画面の位置/登録情報

NVRに登録されていないカメラの場合、オレンジ色が点滅します。

- NVRにすでに登録されているカメラは、画面の下端に情報が表示されず、**画面の位置/登録情報**の背景が黒色で表示されます。
- 他のNVRに登録されているカメラは**画面位置/登録情報**の背景色がオレンジ色に固定され、画面は灰色に表示されます。

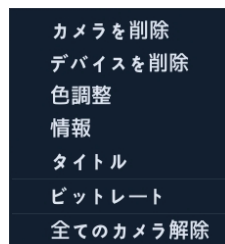
④ ビットレートの割り当て

チャンネルに割り当てられた性能(ビットレート)を表示します。表示されたところでマウスの左ボタンをクリックしてビットレートを変更することができます。



実行メニュー

映像出力エリアでマウスの右クリックボタンをクリックすると、実行できるメニューが表示されます。



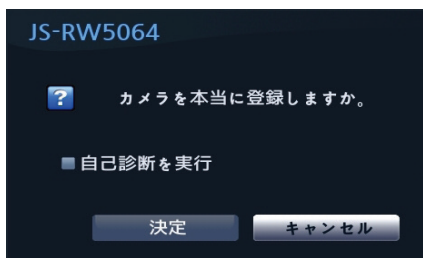
- ・ **カメラを削除**：登録されているカメラを削除します。
- ・ **デバイスを削除**：登録されているエンコーダーを削除します。
- ・ **色調整**：カメラの色合いを調節します。
- ・ **情報**：カメラの基本情報を表示します。
- ・ **タイトル**：カメラのタイトルを編集することができます。
- ・ **ビットレート**：チャンネルごとの割り当てビットレートを変更することができます。
- ・ **全てのカメラ解除**：登録されているカメラをすべて削除します。

- カメラの追加や削除は、マウスのドラッグ&ドロップ機能で行うことができます。

適用 / キャンセルボタン

カメラ登録モードでのすべての変更事項をNVRに登録するためには、**適用**ボタンを押してください。

適用ボタンを押すと、次のようなメッセージウィンドウが表示され、実行するか、しないかを選択できます。



キャンセルボタンを押すと変更内容を取り消し、カメラ登録モードを終了します。

- 他のNVRに登録されているカメラは登録できません。

自己診断の実行

自己診断を選択してNVRのカメラ登録を完了すると、自動的に自己診断を実行します。自己診断を実行中の場合、自己診断の実行中というメッセージが表示されます。



自己診断に失敗した場合、自己診断実行必要というメッセージが表示されます。自己診断に失敗した場合、手動で自己診断を実行します。自己診断に関する詳しい内容は、**第3章－設定－システム設定－一般－自己診断**をお読みください。



ログイン

環境設定や検索など、NVRの様々な機能を使用するためには、その権限を有するユーザーでログインしなければなりません。

- 1 監視モードで、マウスを右クリックして**ログイン**をクリックしてください。

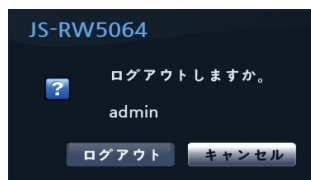


- 2 ユーザーを選択してパスワードを入力したら、**決定**ボタンを押してください。

- マウスでパスワード入力項目をクリックすると、スクリーンキーボードでパスワードを入力することができます。スクリーンキーボード使用に関する内容は、**第3章－設定－メニューの使い方－スクリーンキーボードによる文字列入力**を参照ください。

- ・ または ボタンを押すことで、パスワードの表示 / 非表示を切り替えることができます。

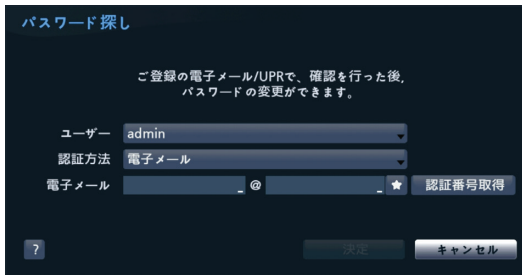
- 3 ログアウトするには、マウスを右クリックしてログアウトをクリックしてください。



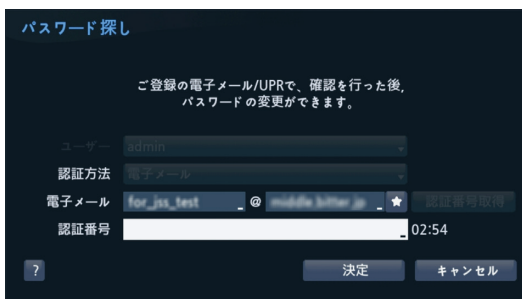
パスワード探し

パスワードを忘れた場合パスワード探しボタンを押すと、新しいパスワードが設定できます。

- 1 ユーザー登録の段階で設定したユーザーおよび登録した電子メールアドレスを入力した後、**認証番号取得**ボタンを押してください。UPR (User Password Reset) 認証方法を使う場合、UPR認証方法を選択してください。

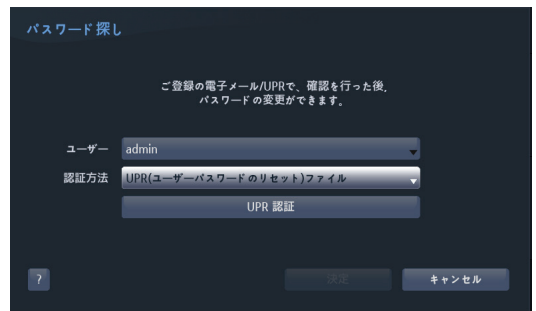


- 2 取得した認証番号を入力し、**決定**ボタンを押してください。

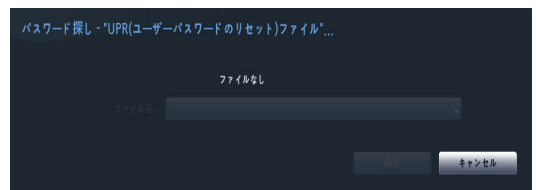


- ✓ 左下の「?」ボタンを押すと表示されるパスワード設定に関するガイドラインをお読みください。
- パスワード設定は必ずスクリーンキーボードで入力してください。
- パスワード探し機能を電子メールを利用して使用するためには、SSL/TLSに対応するメールサーバを使用できるように設定する必要があります。

- 3 UPR (User Password Reset) 認証を入力し、UPR認証ボタンを押してください。

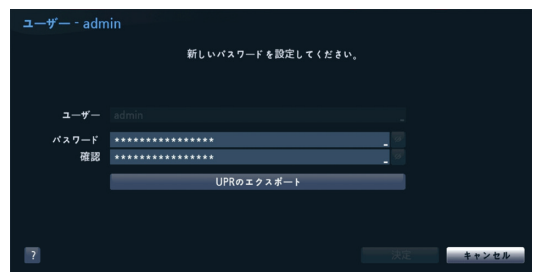


- 4 事前に保存したUPR (User Password Reset) ファイルを選択して読み込みボタンを押してください。



- ✓ UPR機能を使用するためには、事前にUPRファイルを保存しなければなりません。
- オフラインパスワード検索機能とは、事前に保存した一種の暗号化されたUPR (User Password Reset; 拡張子*.upr) ファイルを利用してパスワードを再設定できる機能です。
- ローカルにおいてUSBフラッシュドライブとして使用できませんが遠隔からは使用できません。
- 同じ機器からエクスポートしたファイルのみ使用することができます。
- UPRファイルを無くした場合、NVRの当該アカウントのパスワードを変更すると無くしたUPRファイルは使えなくなります。

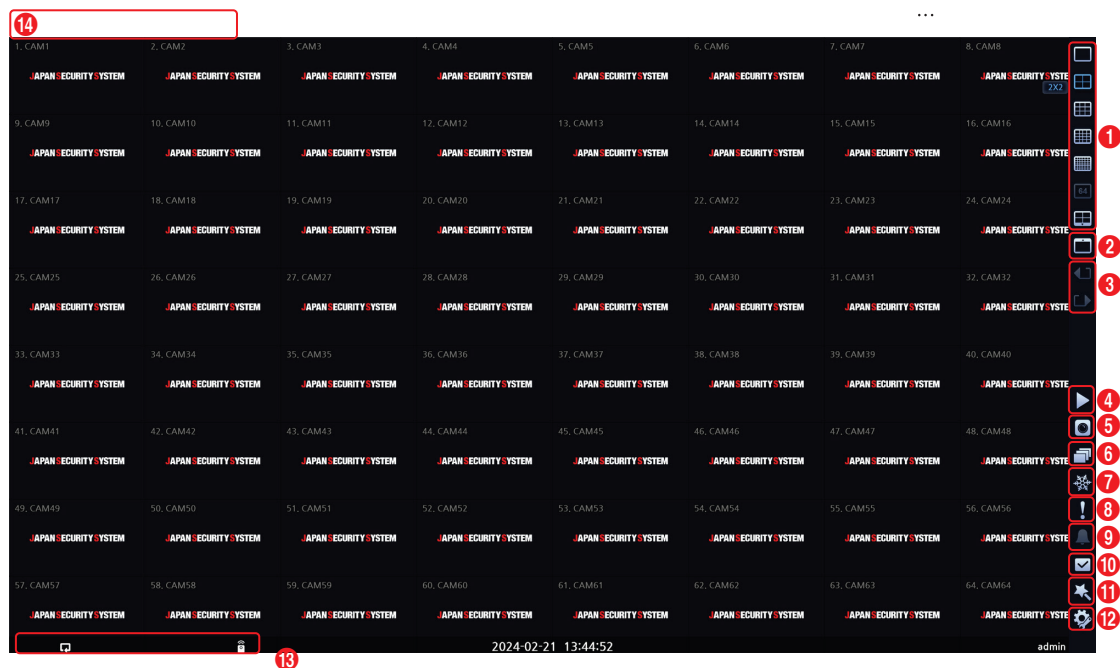
- 5 新しいパスワードを設定してください。左下の?ボタンを押すと表示される規則に従って設定してください。



リアルタイム監視

リアルタイム監視メニュー

リアルタイム監視モードでマウスポインタを画面右端に近づけると、画面の右側にリアルタイム監視メニューが表示されます。各メニューの上でマウスのボタンを押すと、メニューを選択することができます。



1	レイアウト	2	ディスプレイ	3	前画面グループ、 次画面グループ	4	検索モード
5	カメラ選択	6	自動切替	7	フリーズ	8	緊急録画
9	アラーム	10	状態	11	ウィザード	12	設定
13	ステータス情報ウィ ンドウ	14	ライブメッセージ				

1 レイアウト

画面のレイアウトを単一画面、1×2画面、1×3画面(コリドーフォーマット)、4画面、1+5画面、1+7画面、9画面、1+12画面、16画面、25画面、36画面、49画面、64画面に切り替えます。

2 ディスプレー

- **フルスクリーン オン/オフ**：全体画面モードを設定します。
- **カメラ OSD オン/オフ**：カメラOSD機能を表示あるいは消去します。
- **状態 OSD オン/オフ**：状態OSD機能を表示あるいは消去します。
- **比率維持 オン/オフ**：比率維持オン設定するとオリジナル映像比率でカメラの領域に合わせて映像を出力させます。

3 前画面グループ/次画面グループ

現在の画面グループから前画面グループ、または次画面グループに移動します。


4 検索モード

- **タイムラプス検索**：検索モード>タイムラプス検索を選択すると、保存されたデータを録画テーブルから検索または再生することができます。
- **イベントログ検索**：検索モード>イベントログ検索を選択すると、イベントログを検索し保存されたイベントを検索または再生することができます。
- **サムネイル検索**：検索モード>サムネイル検索を選択すると、単位時間毎のカメラ映像を並べて検索することができます。

5 カメラ選択

選択したカメラを単一画面で見ることができます。

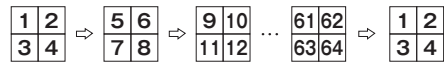
6 自動切替

自動切替が始まります。自動切替を止めたい時はもう一度**自動切替**を選択してください。自動切替中には、画面の右上のシステムステータス情報のところに  が表示されます。

フル切替

監視モードの全体画面および画面分割ですべてのチャンネルが順次に切り替わって表示されます。フル切替機能を使用するためには、ディスプレイ設定-メインモニタの自動切替設定で**フル切替**を選択する必要があります。

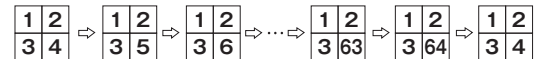
Ex> フル切替



切替

切替モードでは監視モードの画面分割で右下の一つの画面だけが自動的に切り替わります。**切替**機能を使用するためには、ディスプレイ設定-メインモニタの自動切替設定で**切替**を選択する必要があります。

Ex> 4分割画面で切替



- **フル切替**での動作中には、画面左下のシステムステータス表示部分には自動切替の表示の隣にページ番号が表示されます。
- 次の場合はそのページをスキップします。
 - ページを構成しているすべてのカメラが無効状態の場合
 - 映像信号がない場合
 - ロックされたカメラの場合
 - カメラにアクセスできる権限のないIDでログインした場合

7 フリーズ

画面が停止されます。再び**フリーズ**を選択するとフリーズ状態が解除されます。

8 緊急録画

緊急録画機能を使用/解除します。(設定で、緊急録画使用を有効にしている場合に使えます。)

9 アラーム

アラーム出力中に押して、内部ブザーやアラーム出力をリセットします。

10 状態

カメラ

全てのカメラのイベントの状態を確認することができます。イベントが発生したチャンネルは5秒間点滅します。

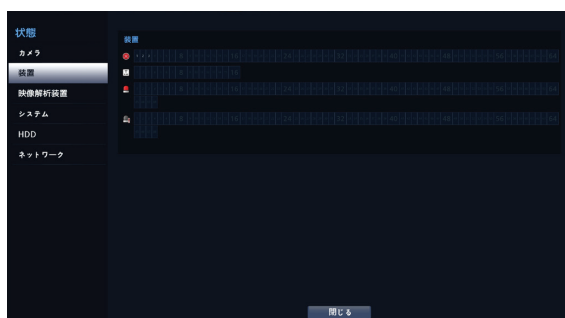


・ イベント項目

	モーション		トリップゾーン
	タンパーリング		映像信号なし
	オーディオ検出		顔検出
	滞留検出		ラインクロス検出
	物体検出		侵入検出
	インターコム		タンパリングスイッチ
	転倒検出		置き去り検出
	持ち去り検出		混雑検出

装置

全ての装置のイベントの状態を確認することができます。イベントが発生したチャンネルは5秒間点滅します。



・ イベント項目

	録画失敗		テキストイン
	アラーム入力		アラームインを確認

映像解析装置

全ての映像解析装置のイベントの状態を確認することができます。イベントが発生したチャンネルは黄色いハイ

ライトで5秒間点滅します。



・ イベント項目

	定員超過		ソーシャルディスタンス
	マスク検出		行列混雑
	画像解析信号なし		車両カウント

システム

全てのシステムのイベントの状態を確認することができます。イベントが発生したチャンネルは5秒間点滅します。



- ・ **緊急録画**：現在緊急録画の使用状況によってイベント状態が表示されます。
- ・ **録画を確認**：この項目はシステム監視設定によってイベント状態が表示されます。詳しい内容は**第3章－設定－イベント設定－システムイベント**を参照ください。
- ・ **ディスクフル警告/ディスクフル**：HDDが上書きの状態ではない場合、**システム監視設定**で指定したディスクの割合に達したとき、更に100%になったときにイベント状態が表示されます。詳しい内容は**第3章－設定－イベント設定－システムイベント**を参照ください。
- ・ **ファンエラー**：クーリングファンの回転数が一定のレベルに達しなかったり、約50秒以上作動しない場

合、イベント状態が表示されます。

- **ストレージオフ**：ストレージが運用中に接続解除された場合、イベント状態が表示されます。
- **ディスク構成変更**：HDDを交換してNVRを再起動した時に表示されます。
- **保存デバイスなし**：録画可能なHDDが存在しない場合に発生するイベントです。
- **RAID破損**：ミラーリング構成が崩れた場合に発生するイベントです。
- **RAID HDD 抜け**：ミラーリング構成中のHDDの一部にエラーが生じた場合に発生するイベントです。
- **ファンエラー**：クーリングファンの回転数が一定のレベルに達しなかったり、約50秒以上作動しない場合、イベント状態が表示されます。

HDD

各ディスクの状態を表示します。



• ディスクエラー

初期化されていません	使用したことのないディスク
良好	<ul style="list-style-type: none"> • 正常に動作しているディスク • HDDの一部が損傷しているとき、その割合が表示される
エラー	<ul style="list-style-type: none"> • HDDの損傷の割合がユーザーの設定した割合より多い場合 • システムイベント発生

• 温度

N/A	温度が感知できないディスク
良好	正常な温度の場合は温度が表示される
不良	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーが設定した温度以上の場合 • システムイベント発生

• S.M.A.R.T.

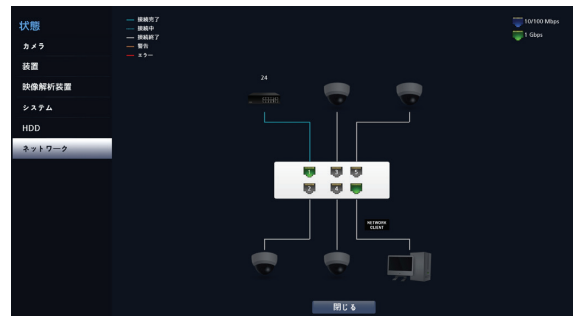
N/A	S.M.A.R.T.機能に対応しないディスク
良好	S.M.A.R.T.状態が正常な場合
不良	S.M.A.R.T.状態が異常であり、ディスクが24時間以内に損傷する可能性がある場合






- **設定>システム>モニタリング**でディスクエラー、ディスク温度設定を行うことができます。
- 温度をクリックすると、各HDDのS.M.A.R.T.情報を確認できます。









ネットワーク

ネットワーク全体の状態をリアルタイムで表示するメニューは、次の通りです。



表示される情報は、カメラ接続の有無、LANポートリンクの状態、電力使用量、接続されているクライアントの台数、ネットワーク情報の詳細な説明は次の通りです。

カメラ接続有無	カメラが接続されている場合には  、接続がされていない場合には  で表示されます。イメージをクリックすると、カメラのチャンネル番号を確認することができます。NVRに接続されているデバイスのステータス情報が確認できます。
ネットワークスイッチ接続有無	LANポートにネットワークスイッチが装着されている場合には  と表示され、接続されているカメラの総数も表示されます。イメージをクリックすると、カメラのチャンネル番号を確認することができます。NVRに接続されているデバイスのステータス情報が確認できます。

ビデオエンコーダー 接続有無	LANポートにビデオエンコーダーが接続されている場合には、  と表示され、接続されているカメラの総数も表示されます。イメージをクリックすると、接続されているカメラのチャンネル番号を確認することができます。NVRに接続されているデバイスのステータス情報が確認できます。
LAN ポートリンク の状態	接続されたカメラ、あるいはネットワークスイッチのない場合には、  、接続されている場合に、  が表示されます。1Gbpsで接続された場合には、  、10/100Mbpsに接続された場合に、  が表示されます。
接続されて いる クライアント の台数	クライアントがネットワークを使ってNVRに接続されているかどうか、接続されている場合何台のクライアントが接続されているかを表示します。 クライアントが接続される場合には、  、接続されていない場合には、  で表示されます。
ネットワーク 情報	<p>現在ネットワークに接続されているか、接続中であるか、接続が解除されているか、エラーが発生しているかの情報を下図のような色で区分して表示します。</p>  <ul style="list-style-type: none"> — 接続完了 --- 接続中 — 接続終了 — 警告 — エラー <p>* (警告：ネットワークにスイッチを接続したとき、ネットワーク帯域幅が100Mbps以下の場合)</p> <p>* (エラー：ネットワークにスイッチを接続したとき、ネットワーク帯域幅が10Mbps以下の場合)</p>

11 ウィザード

ウィザードを起動し、システム運営に必要な初期設定を簡単に行うことができます。

12 設定

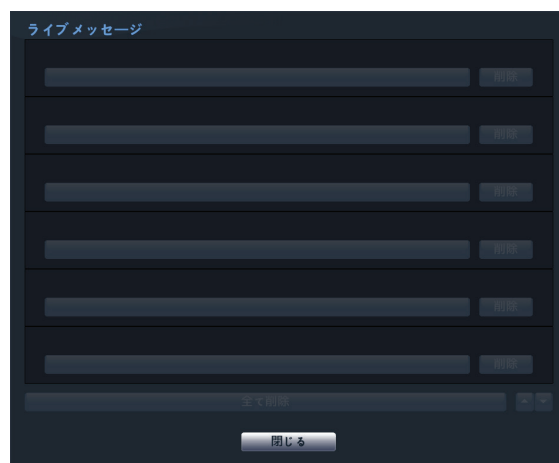
設定メニューに入ることができます。

13 ステータス情報ウィンドウ**ステータス情報ウィンドウ**

	遠隔プログラムでNVRに接続した場合、このアイコンが表示されます。
	NVRとcamera間がオーディオ接続されている場合、このアイコンが表示されます。
	NVRとPC間がオーディオ接続されている場合、このアイコンが表示されます。
	NVRとcamera間及び、NVRとPC間がオーディオ接続されている場合、このアイコンが表示されます。
	映像拡大機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
	フリーズ機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
	自動切替機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
1/4	全体画面モードではない場合、現在の画面が属しているグループを表示します。
	イベントモニタリング中の場合、このアイコンが表示されます。
	Dewarping (歪み補正) 機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
	HDD録画状態を表示します。上書の場合、このアイコンが表示されます。上書を使用しない場合、残っているHDDの容量が%で表示されます。

14 ライブメッセージ

リアルタイムで発生するイベントおよびシステム情報をユーザーが認識しやすいようにメッセージ表示します。



コンテキストメニューの実行

監視モードでボタンを押すと、コンテキストメニューが表示されます。

- **PTZ**：PTZ制御機能が行えます。
- **歪補正(カメラ)**：カメラで魚眼映像をDewarpingします。(一部製品のみ)
- **拡大**：映像を拡大することができます。
- **オーディオ**：オーディオ出力をON/OFFできます(この機能は単一画面のみに対応します)。
- **マイク**：マイクでオーディオを伝送することができます。

NVRとカメラ間において双方向オーディオが作動していても遠隔地でマイクをONにすると、遠隔地のマイクが優先され、NVRに接続されているマイクは自動的にOFFになります。

- **色調整**：色を調整したいカメラのチャンネルを選択すると色調整ウィンドウが表示されます。各カメラの明るさ、コントラスト、色の濃さ、色あいが調整できます。
- **自主調整ビデオモード**：映像プリセットをナチュラル、鮮やかさ、ノイズ減少の中から選ぶことができます。
- **情報**：ネットワークカメラチャンネルを選択すると、選択したチャンネルに関するデバイス情報が確認できます。
- **グループ編集**：グループ編集では分割画面上にカメラの位置を変更できます。
- **カメラ登録**：カメラ登録モードを実行します。
- **検索**：検索モードに移ることができます。
- **設定**：設定モードに入ることができます。
- **ログイン／ログアウト**：ログインまたはログアウトができます。
- **ライブメッセージ**：リアルタイムのメッセージ情報を確認できます。

拡大機能

マウス右クリックから、拡大を選択してください。マウス左ボタンを押したままドラッグすることで、拡大する位置を動かすことができます。マウス右クリックから映像の拡大率が選択できます。映像拡大機能を使用する場合、システムの左下のステータス表示ウィンドウに拡大 Q アイコンが表示されます。

-
- 全体画面モードでは、拡大するカメラを選択するとき現在の画面が自動的に選択されます。
 - 拡大画面を終了するときは、マウス右クリックから画面拡大終了を選択します。

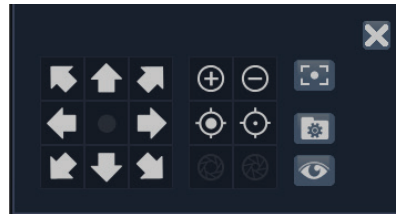
PTZ制御

監視モードでカメラを右クリックすると表示されるコンテキストメニューからPTZを選択すると、選択されたカメラのOSDウィンドウで P アイコンが点滅します。

マウスの左ボタンでドラッグして方向を移動することができます。

マウスのホイールで映像を拡大/縮小することができます。

PTZモードでマウスポインタを画面の下段に合わせると、PTZのコントロールボックスが現れます。



	PTZカメラの移動
	ズームイン/アウト
	近距離/遠距離フォーカス
	しぼりを開く/閉じる
	自動フォーカス実行
	プリセット設定/移動
	カメラのデバイスメニュー

PTZプリセット設定

現在の位置をプリセット番号を指定して保存することができます。

PTZプリセット移動

プリセット番号を選択して、その番号に保存された位置にPTZカメラをすぐに移動させることができます。

詳細設定

PTZモードでマウス右ボタンを押すと、下記のようなPTZの詳細メニューが表示されます。**速度**、**オートパン**など、そのPTZカメラが対応する拡張機能が使用できます。また、ポイント移動を利用し、ユーザーがマウスでクリックした地点にPTZカメラを移動させる機能を使用することができます。そのPTZカメラが対応しない機能は非活性化されます。



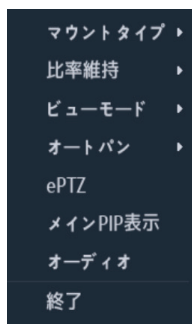
- PTZカメラを調整するためには、**PTZ制御権限**を有するユーザーでログインしなければなりません。
- PTZモードを終了するためには、PTZ詳細メニューの**PTZ終了**を選択します。

- PTZカメラをNVRで使うためにはカメラが対応するPTZプロトコルを正しく設定する必要があります。
- PTZのコントロールボックスをドラッグして位置を変えることができます。
- アイコンをクリックするとPTZのコントロールボックスが消えます。

歪補正制御

NVRで魚眼映像を展開表示します。

監視モードまたは検索モードでカメラを右クリックした後、コンテキストメニューからDewarpingを選択すると当該モードに画面が変わります。画面切り替え後、右クリックしてコンテキストメニューを使うことができます。



- マウントタイプ**：カメラの設置位置を設定します。この設定により設定可能な画面形態が変わります。
- 比率維持**：映像出力画面の比率を設定します。

- ビューモード**：メインビュー、メイン+1、3、5メインビューモードとパノラマビューモードを設定します。
- オートパン**：自動で回転するように設定します。+、-は方向を決定し、数字は速度を決定します。
- ePTZ**：Pan, Tilt, Zoom 動作を実行します。マウスをドラッグする際、マウスカーソルのドラッグ量が動作速度を決定します。
 - マウス左ボタンでドラッグ：左/右(Pan 制御)、上/下(Tilt 制御)
 - マウス中央ホイール回転：Zoom 制御
- メイン PiP表示**：映像内部の領域指定を容易にするPIPビューを実行します。

- PIPとはPicture in Pictureの略語で、画面内に表示される小さい画面を指します。

- オーディオ**：オーディオ再生をON/OFFできます。録音されたオーディオの再生は、単画面で再生したときだけ可能です。

歪補正 (カメラ)

監視モードでカメラを右クリックした後、コンテキストメニューから歪み補正 (カメラ) を選択すると、当該カメラのウィンドウの**Ⓧ**アイコンが点滅します。マウスをドラッグして方向を移動することができます。**カメラ > 高機能設定**からビデオ項目を選択してビューモードにて種類およびモードを選択することができます。

- 当該機能はカメラの歪補正機能を行います。
- 当該機能は魚眼映像カメラの場合にのみ対応しています。
- 当該機能を使用するためには、歪み補正制御権限を持つユーザーがログインしなければなりません。

イベントモニタリング機能

イベントが発生すると、イベント連動録画が始まるカメラ画面へ自動的に切り替わり、左下のシステムステータスエリアに**Ⓧ**アイコンが表示されます。イベントモニタリング機能を使用するには、**ディスプレイ設定 > メインモニターでイベントモニタリング**を設定してください。イベントモニタリングは、**出力時間**にて設定した時間だけその機能が維持されます。その後、新しいイベントが発生しなければ前画面に戻ります。**出力時間**が終了する前に画面をマウスでクリックすると、通常監視画面に切り替わります。

カメラ非表示機能

ユーザーがログインしていないか、**隠しカメラビュー**の権限のないユーザーでログインした場合、指定したカメラは表示されないように制限します。

カメラ設定>**一般**で特定のカメラを**隠し1**または**隠し2**に設定することができます。

- ・ **隠し1**：監視画面で指定したカメラの映像は見えないが、そのカメラのタイトルや現在の状態を表すアイコンは通常通りに表示されます。
- ・ **隠し2**：指定したカメラの映像が映らず様々な状態を表すアイコンも表示されません。

隠しカメラビュー権限を有するユーザーがログインした場合、カメラが**隠し1**や**隠し2**に設定されていてもカメラ非表示機能は作動せず映像や状態アイコンがすべて表示されます。

画面グループの編集機能

画面グループ編集モードは監視および検索モードの画面分割で望みの位置にカメラ映像を並べ替える機能です。

- 1 画面分割でマウス右ボタンコンテキストメニューの**グループ編集**を選択してください。編集するカメラ画面の縁に黄色い枠が表示されます。
- 2 黄色い枠が表示された画面でマウス右ボタンでカメラを選択してください。選択されたカメラがその画面位置に移動します。各画面にカメラ番号を並べ替えることができます。
- 3 マウス右ボタンを押して**グループ編集終了**を選択し、グループ編集モードを終了することができます。

画面グループ編集モードは連続動作がない場合およそ15秒ほどで終了します。

ビデオ録画

第3章設定を参考にし、NVRを正しく設置すると録画が始まります。

ビデオ録画設定に関する内容は、**第3章 ー 設定 ー 録画設定**を参照ください。

緊急録画

リアルタイム監視メニュー、または**検索**メニューで緊急録画**!**アイコンを選択すると、登録されているすべてのカメラで緊急録画を始めます。

緊急録画を中止するには、もう一度緊急録画**!**アイコンを選択してください。**録画設定**>**一般**で**緊急録画時間**が設定されている場合は、設定された時間だけ緊急録画をしたあと自動的に終了します。詳しい内容は**第3章 ー 設定 ー 録画設定**を参照ください。

- 緊急録画はユーザーが設定した録画スケジュールに関わらず行われます。
- ・ **録画設定 ー 一般**で緊急録画のために設定されたビデオプロフィールで録画されます。

録画モードが**上書**状態ではない場合、HDDが100%になると緊急録画は実行されません。

オーディオ録音

録画設定>**一般**でオーディオ録音設定がされている場合、カメラのビデオが録画されるとき音声も録音されます。詳しい内容は**第3章 ー カメラ設定 ー オーディオ**、**第3章 ー 録画設定**を参照ください。

設置地域内の法律が録音を許可しているか確認してください。法律違反による責任はすべてユーザーにあります。

保存された映像の再生

マウスを使用して、映像を再生することができます。



- 保存された映像を再生するためには、検索権限を有するユーザーでログインする必要があります。
- 検索モードでの初期再生位置は、前回最後に再生した部分または保存された部分のいちばん最後の部分になります。
- 録音されたオーディオの再生は、全体画面で再生したときのみ可能です。
- 隠しカメラ設定がされたカメラがある場合、隠しカメラ機能が再生モードでも同様に適用されます。

全チャンネル再生

- 1 画面右側の**リアルタイム監視**メニューを表示させてください。
- 2 検索モード▶アイコンを選択し、**タイムラプス検索**または**イベントログ検索**を選択してください。
- 3 録画データ検索またはイベントログ検索モードに切り替わります。

データ検索に関する詳しい説明は**第4章 — 検索編**をお読みください。

コンテキストメニュー

検索モードでマウスの右クリックをすると、コンテキストメニューウィンドウが表示されます。










- **拡大**：映像を拡大することができます。
- **オーディオ**：オーディオ出力を**ON/OFF**できます(この機能は単一画面のみに対応します)。
- **グループ編集**：グループ編集では分割画面上にカメラの位置を変更できます。

第3章 設定

メニューの使い方

第3章設定編で取り扱う内容のすべては、**メニューの使い方**をご参照ください。

メニューアイコン

	スクリーンキーボードによるテキスト入力
	テキスト入力項目
	ドロップダウンメニュー
	削除
	テーブル項目の手順を変更
	値の範囲を変更
	新規項目を追加または新規作業追加
	使用の利便性のためにすでに定義した項目がある
	下位メニューまたはポップアップが存在するため、現在の画面を非表示にしたり移動する必要がある(情報、警告、エラーメッセージを除く)

設定メニューに入るためには、メニュー設定の権限を有するユーザーでログインする必要があります。

- リアルタイム監視画面で、マウス右クリックのコンテキストメニューから設定を選択するか、マウスで画面右端のリアルタイム監視メニューの設定を選択してください。



1	システム設定	5	装置設定
2	録画設定	6	ディスプレイ設定
3	イベント設定	7	通知設定
4	ネットワーク設定	8	カメラ設定

- マウスを設定したい項目に移動し左ボタンをクリックしてください。






- 設定変更が終わったら、**適用**または**決定**ボタンを押して変更した設定を保存してください。


設定ウィンドウ左下の**初期値**ボタンを選択すると、設定値が初期値に変わります。

スクリーンキーボードによる文字列入力

マウスを使って文字を入力することができます。



	大文字と小文字を選択します。
	カーソルの前の文字を削除します。
	カーソルの後ろの文字を削除します。
	文字列キーボード入力を変更します。
	キーボードの種類を切り換えます。

- ・ **システムログ表示**：最近の50,000件までのシステムログを検索することができます。システムログの種類は第6章 - 付録 - システムログの種類を参照ください。遠隔接続したログの場合、右側に  アイコンが表示されます。画面下の**保存**を押すと、ファイル名を指定してUSBに接続されている保存デバイスまたはNetF/Sに保存することができます。



保存されたシステムログ.txtファイルの内容を確認するためには、適切な文字コードに設定して固定幅のフォントを使用する必要があります。

- ・ **全てのデータ削除**：録画されている全てのデータを削除します。**全てのデータ削除**を押すとダイアログボックスが表示され、そこから**削除**を押すと録画されている全てのデータが削除されます。

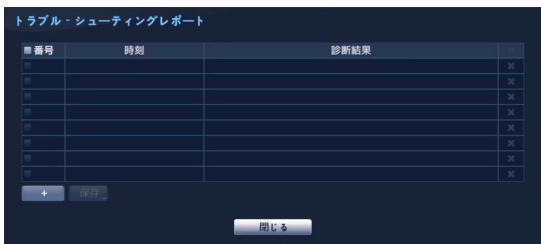
全てのデータ削除を実行する前に、削除しても良いデータであるか必ず確認してください。一度削除されたデータは復元できません。

・ **全てのデータ削除**をしてもシステムログは残り、**全てのデータ削除**というシステムログが追加されます。

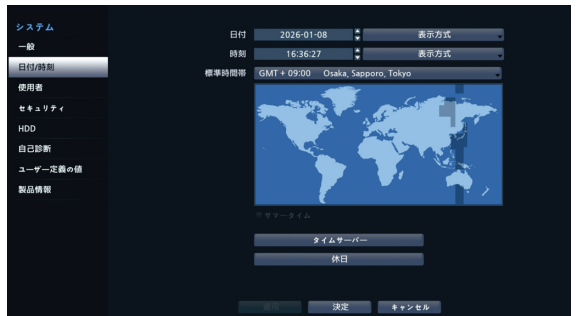
- ・ **システム終了**：システムを終了します。ダイアログボックスが表示されたらもう一度**システム終了**を押してください。

チャンネルモードが変わるとシステムは再起動します。

- ・ **トラブル - シューティングレポート**：製品に問題が発生した場合、その問題を解決するためのレポートを生成します。



日付/時刻




- ・ **日付**：日付を変更することができます。
- ・ **時刻**：時刻を変更することができます。
- ・ **日付形式/時刻形式**：日付や時刻の表示方式を変更することができます。
- ・ **標準時間帯**：標準時間帯を設定することができます。

画面に表示されている地図をマウスでクリックすることで標準時間帯を選択することができます。

- ・ **サマータイム使用**：サマータイムを適用できます。
- ・ **タイムサーバ**：タイムサーバを選択し、時間を同期化することができます。



- 1 自動調整項目を選択してください。
- 2 **タイムサーバ**のIPアドレスまたはドメイン名を入力するか、 を選択して登録されたタイムサーバのリストから適切なタイムサーバを選択してください。
- 3 サーバと時間を同期化する**調整間隔**を選択してください。
- 4 **決定**ボタンを押して設定を終了してください。

ネットワーク-WAN設定で**DNSサーバ**を設定した場合、タイムサーバ項目にタイムサーバのIPアドレスの代わりにドメイン名を入力することができます。

・ **サーバとして動作する**を選択すると、本機がタイムサーバとして動作することになり、他のデバイスがこのサーバの時間情報を使って同期化することができます。

- **休日**：休日を追加/削除できます。設定された休日には、録画スケジュール設定で設定した休日のスケジュールに従って録画されます。

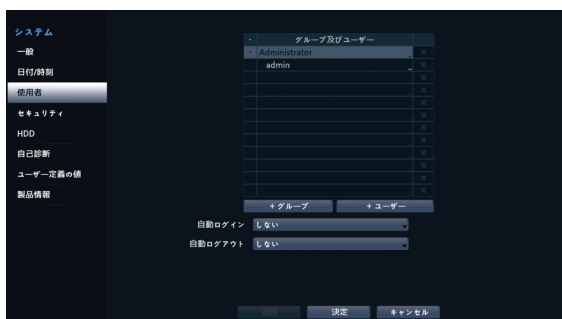
- 1 設定ウィンドウの下の+ボタンを選択してください。
- 2 休日に指定したい日付を入力してください。
- 3 **決定**ボタンを押して設定を終了してください。



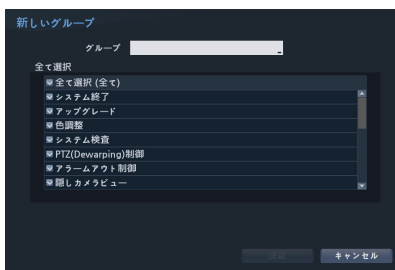
- 各項目の右側の✕アイコンを押すと、設定された休日を削除することができます。

使用者

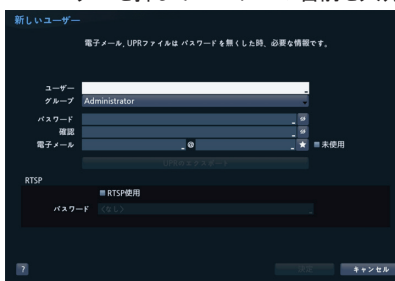
ユーザーを登録し、権限を与えて管理させることができます。



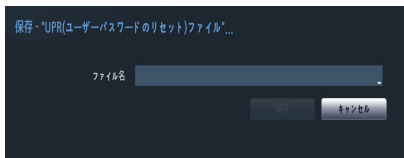
- 1 **+グループ**を押してグループの名前を入力してください。グループ名は最大15文字まで入力できます。
- 2 選択したグループの権限を選択してください。設定できる権限の種類は**第3章－設定－システム設定－使用者－グループ設定表**を参照ください。



- 3 **+ユーザー**を押してユーザーの名前を入力してください。



- 4 UPRエクスポートボタンを押すとUPR (User Password Reset) ファイルを生成することができます。UPRファイルはオフラインでパスワードを探す場合に使用されます。UPRファイルを保存する場所を選択した後、ファイル名を入力してください。



- 5 ユーザーが属するグループを指定し、パスワードを入力してください。パスワードは、文字・特殊文字・数字を混ぜて16文字以内に指定してください。
- 6 RTSPを使用するためのパスワードを設定してください。セキュリティ上の理由により、RTSP接続パスワードとユーザーパスワードをそれぞれ設定することをお勧めします。RTSPの使い方は第3章－設定－ネットワーク設定－RTSPを参照ください。
- 7 **自動ログイン**項目と**自動ログアウト**項目を選択してください。
- 8 **適用**または**決定**ボタンを押して設定を終了してください。



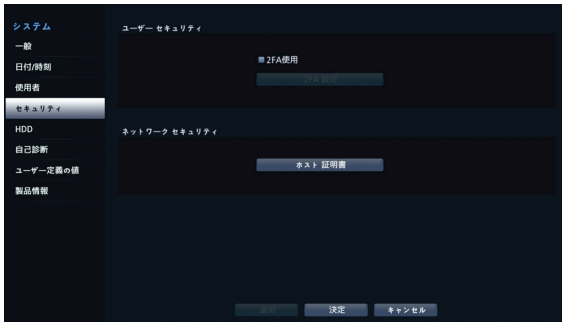
- ・グループ名、ユーザー名、パスワードはスクリーンキーボードでも入力することができます。スクリーンキーボードの使い方は第3章－設定－メニューの使い方－スクリーンキーボードによる文字列入力を参照ください。
- ・登録されたユーザーとグループを削除するには、各項目の右側にある☒アイコンを押してください。**グループAdministrator**とユーザーadminは削除できません。
- ・画面上段のユーザーおよびグループ名の右側にある☒アイコンを押すと、**グループAdministrator**と**ユーザーadmin**を除く全てのグループやユーザーを一度に削除することができます。
- ・すでに作られたグループやユーザーの設定値を変更するにはパスワードを入力する必要があります。
- ・**グループAdministrator**の権限オプションは変更できません。
- ・**ユーザーadmin**を選択したとき、パスワード以外の情報は変更することができません。
- ・システムが起動されると、**自動ログイン**項目で選択したアカウントに自動ログインされます。
- ・**自動ログアウト**設定された時間の間にシステムを操作しない状態が続くと自動的にログアウトされます。
- ・ユーザー名を変更するためには**グループAdministrator**から他のアカウントで接続してください。

グループ設定表

システム終了		システムメニューでシステムを終了することができます。
アップグレード		システムメニューでシステム情報設定をアップデートすることができます。
色調整		各カメラの明るさ、コントラスト、色の濃さ、色あいが調整できます。
システム検査		システム検査の結果であるシステムの状態が確認できます。
PTZ (Dewarping) 制御		PTZと歪補正カメラを制御することができます。
アラームアウト制御		アラーム出力発生時にリセットすることができます。 遠隔プログラムの アラームアウト制御 ボタンを押して、アラーム出力をリセットすることができます。
隠しカメラビュー		監視モードや検索モードで隠しカメラに設定されたカメラを表示することができます。
オーディオ		遠隔プログラムとローカル(NVR)からカメラオーディオ機能を使うことができます。
ファクトリーリセット		NVRを工場出荷時の初期設定に戻すことができます。
検索	バックアップ	バックアップ権限のある場合、検索および映像保存ができます。バックアップ権限がない場合、検索のみできます
設定	カメラの設定	カメラの設定を行うことができます。
	PTZ設定	PTZに関する設定を行うことができます。
	隠しカメラ設定	隠しカメラの設定を行うことができます。
	映像解析装置の設定	映像解析装置の設定を行うことができます。
	システム時間変更	システムの日付/時刻を変更することができます。
	データ削除/保護	システムの保存データを消したり削除されないように保護することができます。
	アラームアウト設定	アラームアウトの設定を行うことができます。
	録画設定	録画設定に関する環境設定を行うことができます。
	DirectNDC設定	DirectNDCの設定を行うことができます。
	イベントアップロード	イベント感知時のビデオクリップをアップロードすることができます。
	自己診断	現在のNVRの状態を自己診断することができます。
	設定読込	以前に保存したNVR設定を読み込むことができます。
設定保存	現在のNVR設定を保存することができます。	

セキュリティ

セキュリティ設定を行うことができます。



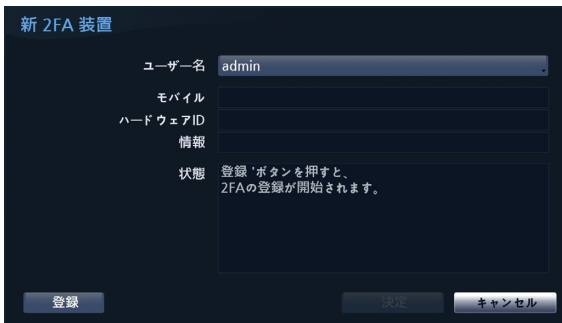
ユーザーセキュリティ (2FA使用)

2FAとは、セキュリティのために設定、検索、アップグレードをするとき、登録されたモバイルデバイスをもう一度認証する機能です。

2FA使用の項目を選択して2FA設定を押すと、次のようなウィンドウが表示されます(登録済み: モバイルデバイスが登録された時間を表示する)。



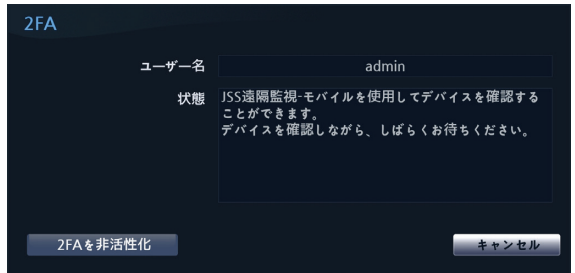
表の下部にある+ボタンをクリックすると、次のようなメッセージが表示され、2FAのデバイスを登録できます。



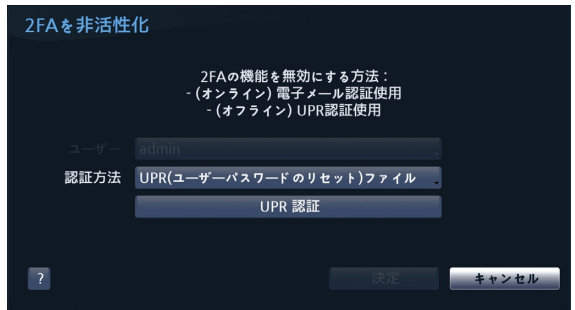
- 2FAデバイスの登録は、JSS遠隔監視-モバイル2 (Ver1.2.0以降)でのみ可能です。
- adminアカウントでのみ設定することができます。
- アカウント一つにつき、最大16個のデバイスを登録できます。

モバイルデバイスの登録が完了すると、設定、検索、アップグレードをするときに下記のようなメッセージが表示されます。

左下の2FAを非活性化ボタンを押し、adminアカウントの電子メールとUPR認証を確認することで、2FA機能を非活性化することができます。



電子メール確認機能を使用するためには、UCN設定が必要です。UPR機能を使用するためには、事前にUPRファイルを保存しなければなりません。



ネットワークセキュリティ (ホスト証明書)

ネットワークセキュリティ接続に使用する証明書管理メニューです。製品証明書の情報確認、証明書の新規生成と出力および読込機能をサポートします。

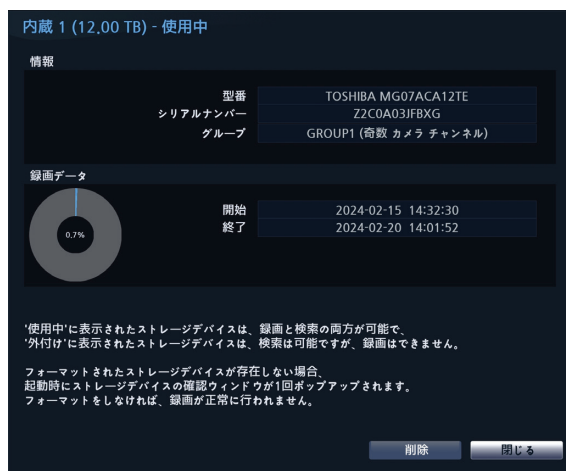


HDD

HDDに関する設定を行うことができます。



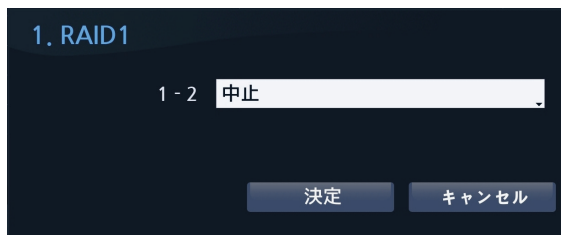
- ・ **タイプ**：実装されているディスクの種類が表示されます。
- ・ **容量**：各ディスクの容量が表示されます。
- ・ **初期化**：フォーマットされたディスクの場合、**録画**、**使用しない**のいずれか一つが表示されます。まだフォーマットされていないディスクを接続すると、**初期化されていません**というメッセージが表示されます。
- ・ **情報**：実装されているディスクが録画に使用されているかを表します。他システムで使用していたディスクを接続した場合、**外部**と表示されます。各ディスクの**情報**を選択して保存されたデータの時間情報を確認したり、**削除**を選択してデータを削除したりすることができます。



- ✓ 各ディスクの**初期化**を選択すると、録画データが保存できるようにフォーマットすることができます。
- ・ 用途は**使用しない**を選択してフォーマットすると、そのディスクは録画用として使用しません。
- ・ 本NVRはSATA3 HDDに対応します。

RAID

- ・ **内蔵HDD**：RAIDが可能なディスクが表示されます。
- ・ **設定**：RAID関連の設定情報を確認して情報を変更します。使用するRAID level (10、5、1)または中止を選択して確認を押しすと、システムを再起動してから変更された設定が反映されます。



- ✓ RAID関連の設定を変更する場合には、必ずシステムを再起動する必要があり、既存のデータはすべて削除されます。
- ✓ RAIDを使用する場合は、最低4つ以上のHDD搭載が必要です。
- ・ HDDの追加、交換、設定には専門の知識と技術が必要ですので、必ず販売店までご連絡いただき専門のエンジニアにご依頼ください。
- ・ **設定**：RAIDを構成するディスク情報を確認することができます。

ハードディスクを設置する際の注意事項

RAIDとして使用したハードディスクはRAIDを構成したセットからRAIDを削除するか、ローレベルフォーマットを行ってから使用する必要があります。そうしない場合、RAIDエラーとして認識され接続したすべてのハードディスクデータが削除されるおそれがあります。

ハードディスクの追加、除去、交換は電源をオフにしてから行ってください。

RAID構成する際の注意事項

連続しているハードディスクで奇数番目を代表としてRAID構成できます。

下記の条件を満たすと、様々な組み合わせのRAIDを構成することができます。

RAID 1 : 2つのハードディスクを連続して装着(1、3、5、7番のハードディスクを代表としてRAID構成可能)

- **RAID 5、RAID 10** : 4つのハードディスクを連続して装着(1、5番のハードディスクを代表としてRAID構成可能)

RAID状態異常情報

- **RAID破損** : RAIDを構成するハードディスクの一部に異常がある場合、または異常があるハードディスクを取り替えてもデータを復旧できない場合をいいます。
- **RAID HDD抜け** : 故障したHDDを交換すれば、リビルドされてデータを回復できます。ただし、この間はパフォーマンスが低下する可能性があります。

RAID HDD抜け状態は下記の通りです。その以外のエラーはすべて**RAID破損状態**に該当します。

- RAID 1、RAID 5 : 一つのRAIDグループで構成中だったハードディスクの一つにエラーがある場合
- RAID 10 : 一つのRAIDグループで構成中だったハードディスク1個または2個のハードディスクにエラーがある場合 ** (但し、R10(X,X,O,O)R10(O,O,X,X)はRAID破損に該当)

自己診断

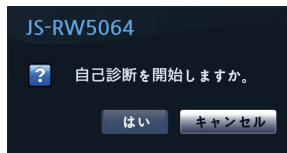
システムイベントの自己診断を設定することができます。

- 本機能は遠隔プログラムを利用してNVRに接続する場合でも使用できます。



診断結果

- **番号** : エクスポートする診断レポートを選択、または解除することができます。
- **時刻** : 自己診断を開始した時刻が表示されます。
- **レポートの表示** : 診断結果に関する情報を良い・悪いで簡単に表します。
- **+** : 表の下の+ボタンを押して、手動で自己診断を行うことができます。



- **保存** : 自己診断レポートをHTML形式の文書に変換し、USBメモリまたはNetFSに保存することができます。また、複数のレポートをまとめてエクスポートすることができます。
- **設定** : 自動生成周期とIPの重複検査を設定します。



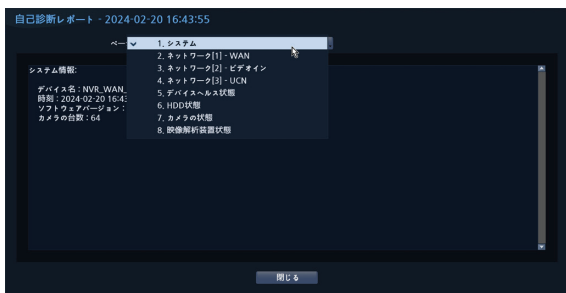
- **自動生成周期** : 6時間、12時間、一日、7日などに選択します。
- **IPの重複検査** : WAN、VIN、カメラのIPがネットワーク上で重複しているかを確認します。

- 本設定は、ネットワーク上でIPの重複を周期的に確認することができます。ただし、カメラIPの重複は確認周期が長い場合、結果をすぐ確認するには自己診断を行ってください。
- カメラIPの重複確認は、VIN網のみ確認します。
- 診断結果は最大24件まで保存されます。1日周期で自動生成設定を行った場合、最近24日間分の診断結果だけが閲覧できます。
- 診断結果はシステムの電源がOFFになると、自動で消去されます。
- 診断結果は日付の新しいレポートが一番上から表示される降順にソートされます。

- **エラー復帰** : 自己診断時、当該デバイスに対する不具合が発見された場合、**エラー復帰 ボタン**をクリックして不具合を解決することができます。

- **ターゲット装置** : 不具合を解決するデバイスを設定することができます。
- **チャンネル** : 対象デバイスをカメラに設定した場合、カメラのチャンネルを選択することができます。
- **動作** : エラー復帰で実行する動作を設定することができます。
- **エラー復帰実行** : 診断結果で不具合が見つかった場合、**エラー復帰実行...**ボタンをクリックし、不具合を解消します。

カメラに**エラー復帰実行...**を押すと、カメラは再起動されます。



- ページに**システム/ネットワーク/デバイスヘルス状態/HDD状態/カメラの状態**など自己診断ページを設定し、対象デバイスの自己診断結果を確認することができます。

本NVRの自己診断レポートはテキスト形式の文書でのみ閲覧することができます。

本機能は遠隔プログラムでNVRに接続した場合でも自己診断設定や結果を検索することができます。診断結果リスト下段の保存ボタンを押してPCウェブブラウザなどで閲覧するか、遠隔プログラムで診断結果を検索し、下図のようなHTML形式で閲覧することをお薦めします。

デバイス情報:

- 時刻: 2026-02-06 12:57:12
- サイト: JS-RW5064
- デバイス名 (UCN名前):
- MACアドレス: 00:03:22:76:B9:24
- IPアドレス: 192.168.100.24

デバイスヘルス状態:

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
カメラ番号	0																																
録画失敗	0																																
カメラ番号	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	
録画失敗																																	
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
映像解像度番号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
番号	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	
映像解像度番号																																	
録画状態	良好																																
録画されたビデオ	2012-01-07 21:40:33 - 2026-02-06 12:57:12																																
HDD#	eSATA 1: 使用中																																
ディスクエラー	良好 (0%)																																
RAID																																	
RAID 状態																																	
HDD温度	良好 (44.0°C)																																
S.M.A.R.T.	良好																																
ファン状態	良好 (1)																																
UPS 状態	なし																																

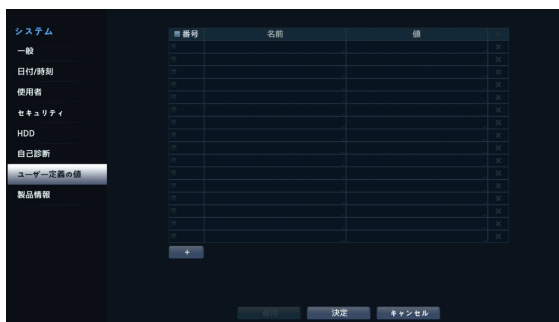
S.M.A.R.T ステータス (例:「良好」) をクリックすると、詳細な S.M.A.R.T 属性情報を表示できます。

S.M.A.R.T. 内蔵 1

id	flags	current	worst	raw	threshold	name
1	47	200	200	0,0,0,0,0,0	51	Raw_Read_Error_Rate
3	39	168	168	23,10,0,0,0,0	21	Spin_Up_Time
4	50	100	100	17,0,0,0,0,0	0	Start_Stop_Count
5	51	200	200	0,0,0,0,0,0	140	Reallocated_Sector_Ct
7	46	200	200	0,0,0,0,0,0	0	Seek_Error_Rate
9	50	99	99	37,3,0,0,0,0	0	Power_On_Hours
10	50	100	253	0,0,0,0,0,0	0	Spin_Retry_Count
11	50	100	253	0,0,0,0,0,0	0	Calibration_Retry_Count
12	50	100	100	8,0,0,0,0,0	0	Power_Cycle_Count
192	50	200	200	4,0,0,0,0,0	0	Power-Off_Retract_Count
193	50	200	200	12,0,0,0,0,0	0	Load_Cycle_Count
194	34	104	98	39,0,0,0,0,0	0	Temperature_Celsius
196	50	200	200	0,0,0,0,0,0	0	Reallocated_Event_Count
197	50	200	200	0,0,0,0,0,0	0	Current_Pending_Sector
198	48	100	253	0,0,0,0,0,0	0	Offline_Uncorrectable
199	50	200	200	0,0,0,0,0,0	0	UDMA_CRC_Error_Count
200	8	100	253	0,0,0,0,0,0	0	Multi_Zone_Error_Rate

close

ユーザー定義の値



- **名前:** HTTP通知時、伝達されるJsonファイルに含めるシステム属性の名前を設定します。
- **値:** HTTP通知時、伝達されるJsonファイルに含めるシステム属性の値を設定します。

製品情報



録画設定

設定メニューの使い方は第3章－設定－メニューの使い方を参照ください。

一般

録画に関する一般的な設定を行うことができます。



- ・ **上書**：録画用のHDDの空き容量がなくなると、ディスク単位で古いデータから削除され新しいデータが保存されます。**上書**を解除すると、HDDの空き容量がなくなったら録画は中止されます。
- ・ **録音**：映像を録画する時、オーディオを一緒に録音します。
- ・ **イベント録画時間**：イベント発生時、動作連動に録画が指定されている場合、このイベント録画時間で指定した時間だけ連動録画が行われます。
- ・ **自動削除**：一定の期間が経過した録画データは、自動的に削除することができます。削除可能な期間は1日～999日まで設定できます。

自動削除機能を使用しないためには、**しない**に設定してください。自動削除データを選択して期間を設定すると現在の時刻から設定された期間以内の録画データだけを保管し、それ以上経過した録画データは自動的に削除されます。録画データは毎日深夜0時に自動削除され、システムが起動される場合や**自動削除**設定を変更する場合にも削除されます。
- ・ **自動リカバリサービス**：ネットワーク障害が復旧されたとき、カメラのバッファが一時的に保存している映像をNVRに録画することができます。
- ・ **緊急録画使用**：緊急録画機能を使用するか否かを設定することができます。
- ・ **緊急録画期間**：緊急録画を自動的に解除することができます。緊急録画期間は5分～1時間まで設定することができます。自動削除機能を使用しないためには、期間を**制限なし**に設定してください。

- ・ **ビデオプロファイル**：緊急録画時の録画のプロファイル値を選択することができます。

高機能設定 (サイズスペースの分割)



カメラとディスクがカメラの番号に応じてデフォルトの奇数、偶数にグループ化されており、修正は不可能です。

スケジュール



<単純モード>



<高級モード>

スケジュールオンを解除すると、スケジュールに関わらずスケジュール録画が中断され、各カメラ画面の左上に🔴アイコンが表示されます。緊急録画アイコンを押すと、🔴表示とともに緊急録画が行われます。

録画スケジュールのモードは、**単純モード**と**高級モード**から一つを選択することができます。**高級モード**を選択すると、各イベントに対してそれぞれ録画スケジュールを設定することができます。

アイコンを選択して、スケジュールを削除することができます。

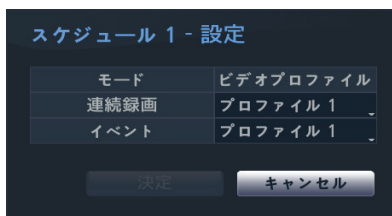
- 録画スケジュールモードを変更すると、変更時に作動していたイベント連動動作は停止します。
- 設定ウィンドウ左下の+ボタンを押すと、新しいスケジュールが追加されます。曜日を選択し、録画スケジュールを設定する曜日、または**全て**を選択することができます。範囲を選択し、時間の範囲を選択することができます。

単純モード設定

- モード：録画しない、連続録画、イベントまたは指定時間およびイベントに設定することができます。

録画しない	緊急録画アイコンを押さない限り、スケジュールで指定された曜日や時間の範囲では録画が行われません。
連続録画	画面の左上に🔴アイコンが表示され、スケジュールされた時間帯になると、🔴アイコンが表示されて録画が始まります。
イベント	画面の左上に🔴アイコンが表示され、そのイベントが発生すると、🔴アイコンが表示されて録画が始まります。 <input checked="" type="checkbox"/> イベントが設定されているとイベントが発生せずに録画されていないときは、🔴アイコンと🔴アイコンが表示されます。イベントが発生して録画されるときは、🔴アイコンと🔴アイコンが表示されます。
指定時間 および イベント	画面の左上に🔴アイコンが表示され、設定で指定した時間どおりにビデオプロファイルで録画されます。イベントが発生したらアイコンが🔴(赤)に変わり、設定でイベントに設定したビデオプロファイルで録画されます。

- チャンネル**：スケジュールを適用するカメラを選択することができます。
- 設定**：選択すると連続録画およびイベント録画モードに対してビデオプロファイルをそれぞれ設定できます。



高級モード設定

設定を選択すると、イベントの種類やビデオプロファイルなどを設定することができます。

- **種類**：時間録画及びそれぞれのイベント別の録画を表示されるアイコンは次の通りです。

	タイムラプス (時間)		オーディオ検出
	アラーム入力		トリップゾーン
	モーション感知		タンパーリング
	映像信号なし		テキストイン
	録画失敗		行列混雑
	ラインクロス検出		マスク検出
	物体検出		滞留検出
	ソーシャル ディスタンス		顔検出
	画像解析信号なし		侵入検出
	定員超過		タンパーリング スイッチ
	インターコム		車両カウント
	置き去り検出		混雑検出
	転倒検出		持ち去り検出

- **ビデオプロファイル**：録画に使用するプロファイルを設定することができます。
- **期間**：指定したイベントが発生したときに録画される期間を選択することができます。

- 1 つのチャンネルに複数のスケジュールを適用すると、最後に構成されたスケジュールの設定が適用されます。
- 現在のスケジュールに含まれていないチャンネルは、以前のスケジュールに従います。ただし、チャンネルが以前のスケジュールに含まれていなかった場合、そのチャンネルの録画は行われません。
- 特定のチャンネルで同時に複数のイベントが発生して録画が始まる状況において、各イベントの連動録画に対する**ビデオプロファイル**および**期間**の設定値が異なる場合、より上位の設定値に従います。

プライベート

イベントが発生したときに指定された期間だけ、以前の映像を含めて録画する機能です。



- **番号**：プライベートを設定するカメラを選択/解除できます。
- **ビデオプロファイル**：録画に使用するビデオプロファイルを設定することができます。
- **期間**：プライベート録画期間を設定することができます。
- スケジュール上、イベントモードのスケジュールが一つもない場合はプライベート録画のためにイベントモードスケジュールを追加するように警告ウィンドウが表示されます。
- **時間およびイベントモードの場合**にも警告ウィンドウは表示されます。

統計

NVRで設定したカメラグループ別にカメラおよび容量によって録画されているスループットと録画可能時間を表示します。



統計

- **カメラグループ**：カメラグループの名前を表示します。
- **スループット**：カメラグループに含まれているすべてのカメラのスループットの合計を表示します。この場合の

スループットは、最も長い時間蓄積された単位を基準に表示されます。...を押すと、次のようにカメラグループに含まれているカメラ別のデータを蓄積して、平均の期間単位によってデータのスループットを表示します。

ODD CAM GROUP - スループット

番号	平均 (1分)	平均 (1時間)	平均 (1日)	平均 (1週)
合計	86 kB/秒	87 kB/秒	160 kB/秒	-
1	86 kB/秒	87 kB/秒	160 kB/秒	-
3	-	-	-	-
5	-	-	-	-
7	-	-	-	-
9	-	-	-	-
11	-	-	-	-
13	-	-	-	-
15	-	-	-	-

保存 閉じる

- **容量**：カメラグループに含まれているすべてのストレージ容量の合計を表示します。...を押すと、次のようにカメラグループに含まれているストレージ別の容量とスループットを計算して録画できる残り時間を表示します。

ODD CAM GROUP - 容量

HDD	容量	残容量	スループット	残り時間 (上書きされるまで)
合計	11.99 TB	11.96 TB	160 kB/秒	約 2.4 年

保存 閉じる

- **録画可能時間**：カメラグループのスループットと容量を計算して録画可能時間を表示します。
- **リセット**：統計で使用している累積されたスループットのデータをリセットします。

- ☑ カメラ設定またはビデオ条件によって結果が異なる場合があります。

録画容量計算

カメラグループ別にスループットと容量を直接設定して、録画可能時間を計算できます。

計算ボタンを押すと、ストレージ計算機のカメラグループ別にスループットと容量を計算して録画可能時間が表示されます。

イベント設定

設定メニューの使い方は第3章－設定－メニューの使い方を参照してください。

- ☑ NVRにカメラを登録して使用する場合、カメラ登録時にカメラ設定の大部分はNVR規定値に変更されます。カメラ登録後のカメラ設定変更はNVRから行い、PCなどからカメラに直接接続して設定変更を行わないでください。設定を変更した場合、誤動作することがあります。

システムイベント

システムイベントの監視に関する設定を行うことができます。


イベント

イベント	設定	動作
システムイベント	システム	しない
カメラシステム	システムスタート	□
	システム再起動	□
	システム終了	□
ビデオ分析	異常検出	□
AIイベント	顔検出	□
	顔検出確認	オフ
	アラーム音を確認	オフ
通知イベント	ディスクフル警告	90 %
映像解像度	ディスクフル	90 %
	一部ディスクフル	90 %
	ディスクエラー	50 %
	ディスク温度	~ 10 °C / 70 °C
	ディスクSMART	□
	カメラエラー	□
	ストレージオフ	□
	ディスク構成変更	□
	保存デバイスなし	□
	パスワード承認連続失敗	□

初期値 適用 決定 キャンセル

- **設定**：各システムイベントの監視間隔および監視項目を設定することができます。
- **動作**：各イベント発生時に実行されるアラーム出力 (NVRのアラーム出力チャンネル、NVRのビープ、カメラのアラーム出力チャンネル) および通知 (メール、LAN1～5、Push、HTTP、警告ウィンドウ) 機能を設定することができます。

監視項目

システム	監視間隔が設定でき、周期的なシステムの自己点検を行います。
システムスタート、システム再起動、システム終了	システムスタート、再起動、または終了されると、設定した動作を行います。
緊急録画	緊急録画発生時には設定した動作が始まります。
録画を確認	<p>録画するようにスケジュールされている場合、設定されたスケジュール上の監視間隔の間に録画されていなければ異常になります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> スケジュールオンを選択した後、曜日や時間範囲、監視間隔を設定します。設定ウィンドウ左下の+ボタンを押すと、新しいスケジュールが追加されます。<input type="checkbox"/> アイコンを選択してスケジュールを削除することができます。</p> 
アラームインを確認	アラーム入力を使用しているとき、設定した監視間隔の間にアラーム入力が発生しない場合は異常となります。
ディスクフル警告	全体ディスク容量の80～99%まで設定することができ、ディスク容量が該当する比率以上を占めた場合にイベントが発生します。
ディスクフル	ディスク容量が満杯になったときイベントが発生します。
一部ディスクフル警告	複数の分割グループのうち一つのグループのディスク容量が指定された割合の80～99%以上を占めると、イベントが発生します。
一部ディスクフル	複数の分割グループのうち一つのグループのディスク容量が指定された割合の100%になると、イベントが発生します。
ディスクエラー	割合は10～90%まで10%単位で設定することができます。ディスク容量のうち指定した割合以上に損傷した場合イベントが発生します。
ディスク温度	高温/低温の臨界温度を設定でき、保存装置内温度が設定した低温臨界値以下、または高温臨界値以上になると、ユーザーに知らせます。(HDDモデルごとに低温環境で性能低下がある場合があります。)
ディスクS.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.に対応するディスクにエラーが発生した場合、イベントが発生します。
ファンエラー	本体内部のファンが正常に動作しないときに、イベントが発生します。
ストレージオフ	ストレージを使用中に接続が解除された場合イベントが発生します。
ディスク構成変更	HDD交換後などに、システムが再起動されると発生するイベントです。
保存デバイスなし	HDDが接続されていない時に発生するイベントです。
パスワード承認連続失敗	連続して間違ったパスワードを入力し、ログインに失敗した場合に発生するイベントです。
RAID破損	ミラーリング構成が崩れた場合に発生するイベントです。
RAID HDD抜け	ミラーリング構成中のHDDの一部にエラーが生じた場合に発生するイベントです。



- システムイベントの場合、動作で電子メール通知だけが選択できます。
- 通知(コールバック)機能を使用するためには、NVRがコールバックを受けるPCの遠隔ソフトに登録する必要があります。

カメラシステム

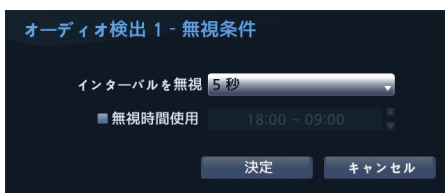
ビデオ分析を除くカメラで発生するイベントリストです。



カメラシステム：オーディオ検出



- 番号**：オーディオ検出機能を設定するカメラを選択/解除できます。
- 感度**：(低感度)~5(高感度)の間の5段階に感度を変更することができます。
- 活性化時間**：オーディオ検出をイベントとして見なすためにオーディオの継続時間を設定します。オーディオが検出されたあと設定された時間続かない場合、これをイベントとして見なしません。
- 無視条件**



- インターバルを無視**：カメラチャンネルのオーディオが感知された時間以降、一定の時間内に感知されたオーディオについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒~5秒または「しない」を選択することができます。
- 無視時間使用**：カメラチャンネルのオーディオ検出無視時間帯を設定することができます。設定した時間にはオーディオ検出機能が作動しません。
- 動作**：オーディオを検出したときの動作を設定することができます。
- 録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや時間およびイベントモードで設定されていたら、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
- アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビープを選択することができます。
- 通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1~5、Push、FTP、警告ウィンドウを設定することができます。
- PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
- イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。



コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。

カメラシステム：映像信号なし



- 活性化時間**：映像信号なしをイベントとして見なすための映像信号なしの継続時間を設定します。映像信号なしが感知されたあと設定された時間が続かない場合、これをイベントとして見なしません。
- 動作**：映像信号なしイベント発生時の動作を設定することができます。

- **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや時間およびイベントモードで設定されていたら、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
- **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビーブを選択することができます。
- **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1～5、Push、FTP、HTTP、警告ウィンドウを設定することができます。
- **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
- **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。

コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。

カメラシステム：録画失敗



- **活性化時間**：録画失敗をイベントとして見なすための録画失敗の継続時間を設定します。録画失敗が感知されたあと設定された時間が続かない場合、これをイベントとして見なしません。
- **動作**：録画失敗を検知したときの動作を設定することができます。
 - **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや指定時間およびイベントモードで設定されていたら、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
 - **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビーブを選択することができます。
 - **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1～5、Push、FTP、HTTP、警告ウィンドウを設定することができます。

ウを設定することができます。

- **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
- **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。

コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。

ビデオ分析

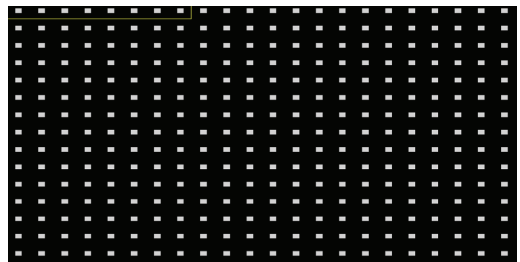
映像分析によって発生するイベントリストでモーション、トリップゾーン、タンパリング、自動追跡イベントがあります。



ビデオ分析：モーション



- **番号**：モーション感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。
- **エリア**：モーション感知をするエリアをブロック単位で設定します。



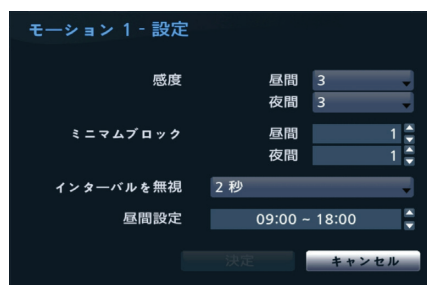
選択ウィンドウは8つのブロックの大きさの1列に該当し、カメラボタンで各ブロックを選択／解除することができます。マウスを利用してエリアをドラックしたあと、選択／解除／反転させることもできます。

マウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **選択**：選択ウィンドウで選択されたブロックを選択します。
- **解除**：選択ウィンドウで選択されたブロックを解除します。
- **反転**：選択ウィンドウで選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。
- **全て選択**：画面全体のブロックを選択します。
- **全て解除**：画面全体のブロックを解除します。
- **全て反転**：選択された画面全体のブロックを解除し、解除された画面全体のブロックを選択します。
- **決定**：変更されたブロック設定を保存し、エリア設定メニューから出ます。
- **キャンセル**：変更されたブロック設定を保存せず、エリア設定メニューから出ます。

・設定



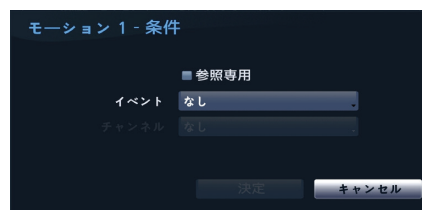
- **感度**：昼間および夜間に区分され、それぞれ1(低感度)～5(高感度)の間の5段階に感度を設定することができます。
- **ミニマムブロック**：設定されたブロックの数以上でモーションを感知しないと、モーション感知イベントが発生しません。この値を1から**エリア設定**で選択されたブロックの数以下まで選択することができます、昼間・夜間を区分してそれ

ぞれ設定します。

- **インターバルを無視**：カメラチャンネルのモーションが感知された時間以降、一定の時間内に感知されたモーションについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒～5秒または「しない」を選択することができます。

モーション感知無視期間は、イベント録画にはなんの影響も及ぼしません。

- **昼間設定**：昼間に指定する時間範囲を設定します。時間は15分単位で設定でき、指定した範囲外の時間は夜間に分類されます。
- **PTZ移動中検出**：PTZ動作時に、イベントを検知できるように設定することができます。
- ・ **モーション - 条件**：特定イベントが発生すると、他イベントの発生状況によって動作するかどうかを決定する条件を設定することができます。



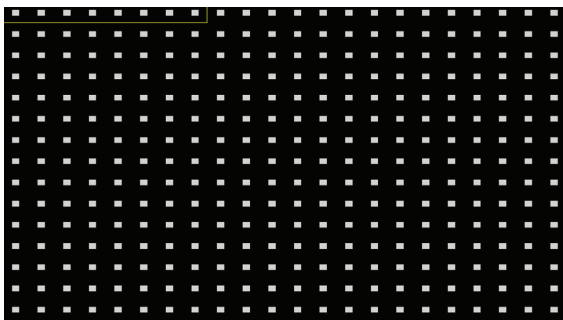
- **参照専用**：当該イベントが参照の対象になるように設定します。
- **イベント**：参照するイベントを設定します。
- **チャンネル**：参照するチャンネルを設定します。
- ・ **動作**：モーションを感知したときに実行する動作を設定することができます。
- **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや指定時間およびイベントモードで設定されている場合、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
- **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビーブを選択することができます。
- **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1～5、Push、FTP、HTTP、警告ウィンドウを設定することができます。
- **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
- **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。

コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。

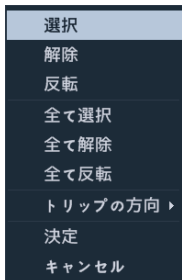
ビデオ分析：トリップゾーン



- **番号**：トリップゾーン感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。
- **エリア**：モーション感知をするエリアをブロック単位で設定します。



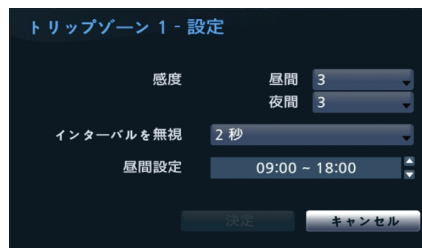
選択ウィンドウは8つのブロックの大きさの1列に該当し、カメラボタンで各ブロックを選択/解除することができます。マウスを利用してエリアをドラックしたあと、選択/解除/反転させることもできます。マウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **選択**：選択ウィンドウで選択されたブロックを選択します。

- **解除**：選択ウィンドウで選択されたブロックを解除します。
- **反転**：選択ウィンドウで選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。
- **全て選択**：画面全体のブロックを選択します。
- **全て解除**：画面全体のブロックを解除します。
- **全て反転**：選択された画面全体のブロックを解除し、解除された画面全体のブロックを選択します。
- **トリップ方向**：イベントとして見なすモーションの方向を選択します。イン側を選択すると選択エリアの外部から内部にモーションが発生する場合、アウト側を選択すると選択エリア内部から外部にモーションが発生する場合、イベントとして見なされます。
- **決定**：変更されたブロック設定を保存し、エリア設定メニューから出ます。
- **キャンセル**：変更されたブロック設定を保存せず、エリア設定メニューから出ます。

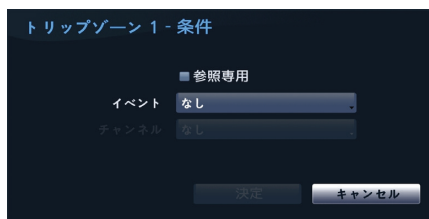
設定



- **感度**：昼間および夜間に区分され、それぞれ1(低感度)～5(高感度)の間の5段階に感度を設定することができます。
- **インターバルを無視**：カメラチャンネルのトリップゾーンイベントが感知された時間以降、一定の時間内に感知されたトリップゾーンイベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒～5秒または「しない」を選択することができます。

トリップゾーン無視期間は、イベント録画には影響を及ぼしません。

- **昼間設定**：昼間に指定する時間範囲を設定します。時間は15分単位で設定でき、指定した範囲外の時間は夜間に分類されます。
- **トリップゾーン - 条件**：特定イベントが発生すると、他イベントの発生状況によって動作するかどうかを決定する条件を設定することができます。



- **参照専用**：当該イベントが参照の対象になるように設定します。
- **イベント**：参照するイベントを設定します。
- **チャンネル**：参照するチャンネルを設定します。
- **動作**：トリップゾーンを感知したときの動作を設定することができます。
 - **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや指定時間およびイベントモードで設定されている場合、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
 - **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビーブを選択することができます。
 - **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1～5、Push、FTP、HTTP、警告ウィンドウを設定することができます。
 - **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
 - **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。

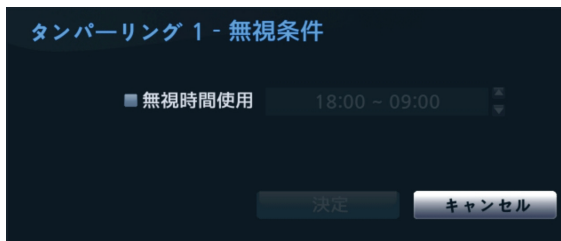
コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。

ビデオ分析：タンパーリング



- **番号**：タンパーリング感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。
- **感度**：1(低感度)～5(高感度)の間の5段階に感度を変更することができます。

- **活性化時間**：タンパーリング感知をイベントと見なすためのタンパーリングの継続時間を設定します。タンパーリングが感知されたあと設定された時間が続かない場合、これをイベントとして見なしません。
- **無視条件**



- **無視時間使用**：カメラチャンネルのタンパーリング感知無視時間帯を設定することができます。設定した時間にはタンパーリング感知機能が作動しません。
- **動作**：タンパーリングを感知したときの動作を設定することができます。
 - **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや時間およびイベントモードで設定されていたら、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
 - **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビーブを選択することができます。
 - **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1～5、Push、FTP、HTTP、警告ウィンドウを設定することができます。
 - **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
 - **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。

コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。

AIイベント

AIイベント映像分析によって発生するイベントリストで物体検出、侵入検出、滞留検出、ラインクロス検出、顔検出、混雑検出、置き去り検出、持ち去り検出、転倒検出イベントがあります。



- **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。



- コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムにNVRが登録されている必要があります。
- 映像解析装置の映像分析の種類から物体検出機能を設定した場合、無視時間使用が表示されません。
- PTZ AIトラッキング機能は、AI PTZカメラの場合にのみ表示されます。
- AIチャンネルはタイムラプスまたはプリイベント録画スケジュールを事前に設定する必要があります。設定していない場合、イベントログを検索したときに映像が表示されないことがあります。

AIイベント_設定

AIイベントを追加することができます。ただし、カメラの映像解析エンジンで当該イベントが有効になっている必要があります。



- **イベント**：追加したイベントの種類が表示されます。
- **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件はPTZ AIトラッキング 機能を設定します。
- **動作**：イベント発生時の動作を設定することができます。
 - **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや時間およびイベントモードで設定されていたら、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
 - **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネルを選択することができます。
 - **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1～5、Push、FTP、HTTP、警告ウィンドウを設定することができます。
 - **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。

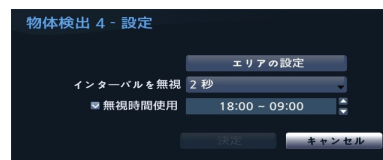
AIイベント 物体検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、物体検知イベントを選択します。

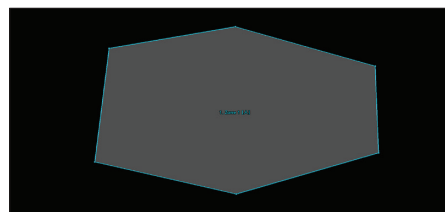


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、物体検知イベントを設定します。

- **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件と領域を設定します。



- **エリアの設定**：物体検出を行うエリアを多角形で設定します。



領域設定画面でマウスで希望するエリアを設定できます。設定されたエリアが透明色で表示されます。エリアの頂点を移動してエリアの変更ができます。

エリア設定画面からマウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **エリア名**：設定を変更したいエリアを選択します。特定エリアを選択する場合、チェックボックスにチェックを入れます。
- **解除**：選択されているエリアを解除します。
- **元に戻す**：一番最後に描いた線を取り消すことができます。
- **タイトル編集**：設定されたエリアの名前を変更します。
- **物体**：検出する対象を選択します。
- **追加**：エリアを追加します。
- **削除**：選択されているエリアを削除します。
- **すべて削除**：選択したすべてのエリアを削除します。
- **モード**：カメラで対応しているモードが表示されます。
- **プリセット**：AI PTZカメラのプリセットを選択します。
- **保存**：変更されたエリア設定を保存し、エリア設定メニューを終了します。
- **キャンセル**：変更されたエリア設定を保存せず、エリア設定メニューを終了します。

モードとプリセットは、AI PTZカメラのみ対応しています。

- **インターバルを無視**：イベントが感知された時間以降、一定の時間内に再度検出された滞留検出イベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒～5秒または「しない」を選択することができます。

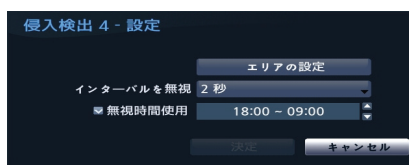
AIイベント侵入検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、侵入検出イベントを選択します。

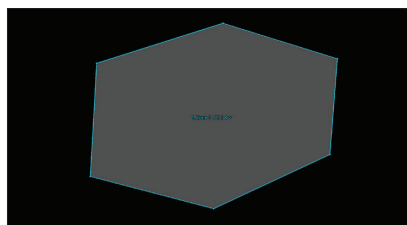


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、侵入検出イベントを設定します。

- **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件と領域を設定します。



- **エリアの設定**：侵入検出を行うエリアを多角形で設定します。



領域設定画面でマウスで希望するエリアを設定できます。設定されたエリアが透明色で表示されます。エリアの頂点を移動してエリアの変更ができます。

エリア設定画面からマウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **エリア名**：設定を変更したいエリアを選択します。特定エリアを選択する場合、チェックボックスにチェックを入れます。
- **解除**：選択されているエリアを解除します。

- **元に戻す**：一番最後に描いた線を取り消すことができます。
- **タイトル編集**：設定されたエリアの名前を変更します。
- **物体**：検出する対象を選択します。
- **ディレクション**：検出する方向を選択します。
- **追加**：エリアを追加します。
- **削除**：選択されているエリアを削除します。
- **すべて削除**：選択したすべてのエリアを削除します。
- **モード**：カメラで対応しているモードが表示されます。
- **プリセット**：AI PTZカメラのプリセットを選択します。
- **保存**：変更されたエリア設定を保存し、エリア設定メニューを終了します。
- **キャンセル**：変更されたエリア設定を保存せず、エリア設定メニューを終了します。

モードとプリセットは、AI PTZカメラのみ対応しています。

- **インターバルを無視**：イベントが感知された時間以降、一定の時間内に再度検出された侵入検出イベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒～5秒または「しない」を選択することができます。

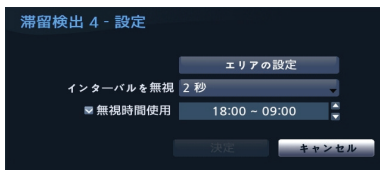
AIイベント滞留検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、滞留検出イベントを選択します。

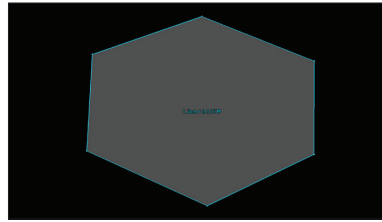


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、滞留検出イベントを設定します。

- **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件と領域を設定します。



- **エリアの設定**：滞留検出を行うエリアを多角形で設定します。



領域設定画面でマウスで希望するエリアを設定できます。設定されたエリアが透明色で表示されます。エリアの頂点を移動してエリアの変更ができます。

エリア設定画面からマウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **エリア名**：設定を変更したいエリアを選択します。特定エリアを選択する場合、チェックボックスにチェックを入れます。
- **解除**：選択されているエリアを解除します。
- **元に戻す**：一番最後に描いた線を取り消すことができます。
- **タイトル編集**：設定されたエリアの名前を変更します。
- **物体**：検出する対象を選択します。
- **活性化時間**：活性化時間を選択します。
- **追加**：エリアを追加します。
- **削除**：選択されているエリアを削除します。
- **すべて削除**：選択したすべてのエリアを削除します。
- **モード**：カメラで対応しているモードが表示されます。
- **プリセット**：AI PTZカメラのプリセットを選択します。
- **保存**：変更されたエリア設定を保存し、エリア設定メニューを終了します。
- **キャンセル**：変更されたエリア設定を保存せず、エリア設定メニューを終了します。

- モードとプリセットは、AI PTZカメラのみ対応しています。

- ・ **インターバルを無視**：イベントが感知された時間以降、一定の時間内に再度検出された滞留検出イベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒～5秒または「しない」を選択することができます。

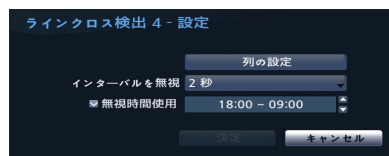
AIイベントラインクロス検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、ラインクロス検出イベントを選択します。

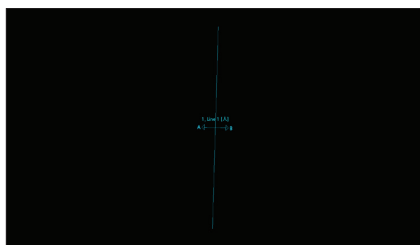


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、ラインクロス検出イベントを設定します。

- ・ **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件と領域を設定します。



- ・ **列の設定**：ラインを設定すると、対象がそのラインを通る時にイベントが発生します。



ライン設定画面でマウスで希望するエリアを設定することができます。設定されたラインが透明色で表示されます。

ライン設定画面からマウスの右クリックでライン設定メニューを呼び出すことができます。



- **ライン名**：設定を変更したいラインを選択します。特定ラインを選択する場合、チェックボックスにチェックを入れます。
- **解除**：選択されているラインを解除します。
- **タイトル編集**：設定されたラインの名前を変更します。
- **物体**：検出する対象を選択します。
- **ディレクション**：検出する方向を選択します。
- **クロス位置の設定**：物体のクロス位置を設定します。
- **追加**：ラインを追加します。
- **削除**：選択されているラインを削除します。
- **すべて削除**：選択したすべてのラインを削除します。
- **モード**：カメラで対応しているモードが表示されます。
- **プリセット**：AI PTZカメラのプリセットを選択します。
- **保存**：変更されたライン設定を保存し、ライン設定メニューを終了します。
- **キャンセル**：変更されたライン設定を保存せず、ライン設定メニューを終了します。

- モードとプリセットは、AI PTZカメラのみ対応しています。

- ・ **インターバルを無視**：イベントが感知された時間以降、一定の時間内に再度検出されたラインクロス検出イベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒～5秒または「しない」を選択することができます。

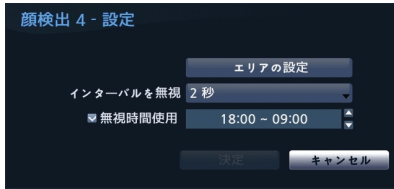
AIイベント顔検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、顔検出イベントを選択します。

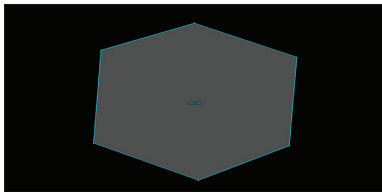


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、顔検出イベントを設定します。

- ・ **設定**： イベント発生時にイベントを無視する条件と領域を設定します。



- ・ **エリアの設定**： 顔検出を行うエリアを多角形で設定します。



領域設定画面でマウスで希望するエリアを設定できます。設定されたエリアが透明色で表示されます。エリアの頂点を移動してエリアの変更ができます。

エリア設定画面からマウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **エリア名**： 設定を変更したいエリアを選択します。特定エリアを選択する場合、チェックボックスにチェックを入れます。
- **解除**： 選択されているエリアを解除します。
- **タイトル編集**： 設定されたエリアの名前を変更します。
- **追加**： エリアを追加します。
- **削除**： 選択されているエリアを削除します。
- **すべて削除**： 選択したすべてのエリアを削除します。
- **モード**： カメラで対応しているモードが表示されます。

- **プリセット**： AI PTZカメラのプリセットを選択します。
- **保存**： 変更されたエリア設定を保存し、エリア設定メニューを終了します。
- **キャンセル**： 変更されたエリア設定を保存せず、エリア設定メニューを終了します。

モードとプリセットは、AI PTZカメラのみ対応しています。

- ・ **インターバルを無視**： イベントが感知された時間以降、一定の時間内に再度検出された顔検出イベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。1秒～5秒または「しない」を選択することができます。

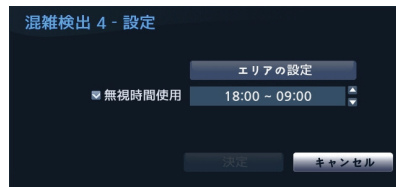
AIイベント混雑検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、混雑検出イベントを選択します。

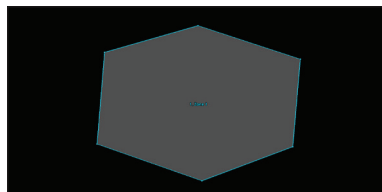


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、混雑検出イベントを設定します。

- ・ **設定**： イベント発生時にイベントを無視する条件を設定します。



- ・ **エリアの設定**： 混雑検出を行うエリアを多角形で設定します。



領域設定画面でマウスで希望するエリアを設定できます。設定されたエリアが透明色で表示されます。エリアの頂点を移動してエリアの変更ができます。

エリア設定画面からマウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **解除**：選択されているエリアを解除します。
 - **最大人数**：設定されたエリア内において、設定した人数を超えて滞留した場合にイベントが発生するよう、人数を設定します。
 - **最小滞留時間**：混雑検出を行うために必要な、人数の最小滞留時間を設定します。
 - **追加**：エリアを追加します。
 - **削除**：選択されているエリアを削除します。
 - **すべて削除**：選択したすべてのエリアを削除します。
 - **保存**：変更されたエリア設定を保存し、エリア設定メニューを終了します。
 - **キャンセル**：変更されたエリア設定を保存せず、エリア設定メニューを終了します。
- ・ **インターバルを無視**：設定した時間の間は、該当する機能が動作しません。

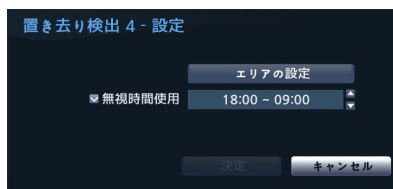
AIイベント置き去り検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、置き去り検出イベントを選択します。

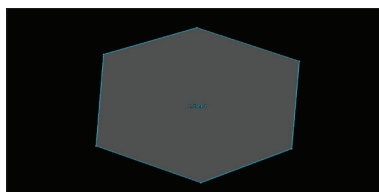


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、置き去り検出イベントを設定します。

- ・ **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件を設定します。



- ・ **エリアの設定**：置き去り検出行うエリアを多角形で設定します。



領域設定画面でマウスで希望するエリアを設定できます。設定されたエリアが透明色で表示されます。エリアの頂点を移動してエリアの変更ができます。

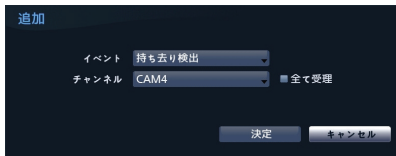
エリア設定画面からマウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **解除**：選択されているエリアを解除します。
 - **追加**：エリアを追加します。
 - **削除**：選択されているエリアを削除します。
 - **すべて削除**：選択したすべてのエリアを削除します。
 - **保存**：変更されたエリア設定を保存し、エリア設定メニューを終了します。
 - **キャンセル**：変更されたエリア設定を保存せず、エリア設定メニューを終了します。
- ・ **インターバルを無視**：設定した時間の間は、該当する機能が動作しません。

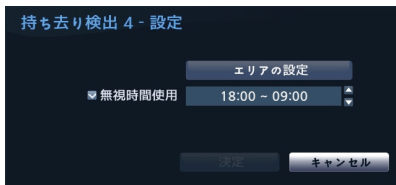
AIイベント持ち去り検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、持ち去り検出イベントを選択します。

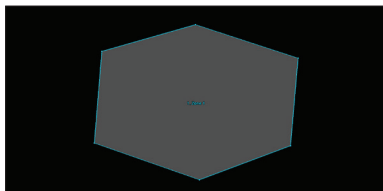


AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、持ち去り検出イベントを設定します。

- ・ **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件を設定します。



- ・ **エリアの設定**：持ち去り検出を行うエリアを多角形で設定します。



領域設定画面でマウスで希望するエリアを設定できます。設定されたエリアが透明色で表示されます。エリアの頂点を移動してエリアの変更ができます。

エリア設定画面からマウスの右クリックでエリア設定メニューを呼び出すことができます。



- **解除**：選択されているエリアを解除します。
- **追加**：エリアを追加します。
- **削除**：選択されているエリアを削除します。
- **すべて削除**：選択したすべてのエリアを削除します。
- **保存**：変更されたエリア設定を保存し、エリア設

定メニューを終了します。

- **キャンセル**：変更されたエリア設定を保存せず、エリア設定メニューを終了します。
- ・ **インターバルを無視**：設定した時間の間は、該当する機能が動作しません。

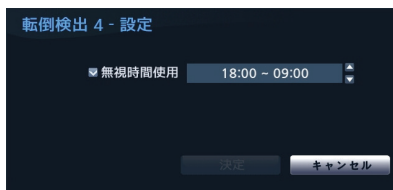
AIイベント転倒検出

AIイベント設定画面の左下にある+ボタンを選択し、転倒検出イベントを選択します。



AIイベント設定画面で設定タブをクリックし、転倒検出イベントを設定します。

- ・ **設定**：イベント発生時にイベントを無視する条件を設定します。



- 本機能は全体エリアを検出対象とするため、個別のエリア設定はできません。

- ・ **インターバルを無視**：設定した時間の間は、該当する機能が動作しません。

追加イベント

カメラ、システムまたは他の装備で発生するイベントリストです。



追加イベント_設定



- **イベント**：追加したイベントが表示されます。
- **設定**：イベント設定ウィンドウが表示されます。
- **動作**：アラーム入力を感知したときの動作を設定することができます。

- **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや時間およびイベントモードで設定されていたら、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。

- **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビープを選択することができます。

- **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1~5、Push、FTP、HTTP、警告ウィンドウを設定することができます。

- **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。

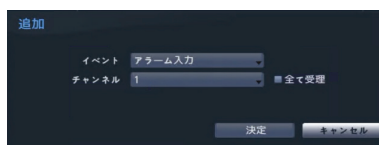
- **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。



- コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。
- **緊急録画**を選択して連動するアラーム入力チャンネルを選択することができます。該当するアラーム入力が発生したら緊急録画が開始し、アラーム入力が解除されると緊急録画も終了されます。

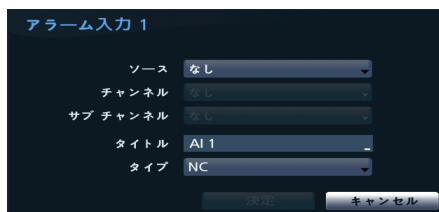
追加イベントアラーム入力

設定ウィンドウ左下にある+ボタンを選択すると、以下のようなウィンドウが表示されます。

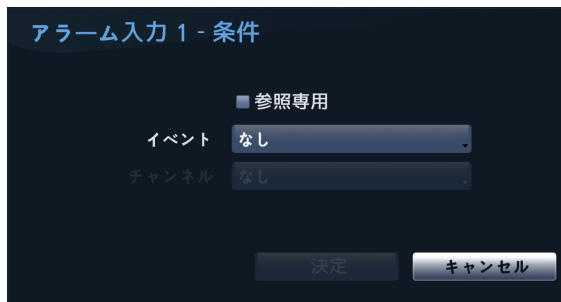


- **イベント**：イベント(アラーム入力、テキストインなど)からアラーム入力を選択します。
- **チャンネル**：追加するイベントチャンネルを選択します。
- **全て受理**：すべてのチャンネルを選択します。追加イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、アラーム入力イベントを設定します。

追加イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、アラーム入力イベントを設定します。



- **ソース**：アラーム入力イベントを使用する装置を設定することができます。
- **チャンネル**：設定したソースのチャンネルを設定します。
- **サブチャンネル**：設定したソースのチャンネルを設定します。
- **タイトル**：キーボード入力ウィンドウからタイトルを入力することができます。
- **タイプ**：アラームの種類を変更することができます。
- **アラーム入力 - 条件**：特定イベントが発生すると、他イベントの発生状況によって動作するかどうかを決定する条件を設定することができます。

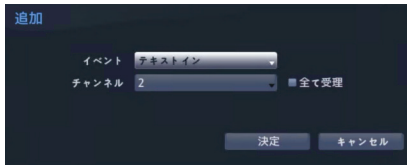


- **参照専用**：当該イベントが参照の対象になるように設定します。
- **イベント**：参照するイベントを設定します。

- **チャンネル**：参照するチャンネルを設定します。

追加イベントテキストイン

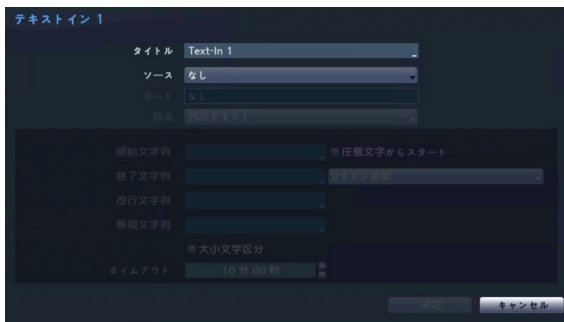
設定ウィンドウ左下にある+ボタンを選択すると、以下のようなウィンドウが表示されます。



- **イベント**：イベント(アラーム入力、テキストインなど)からテキストインを選択します。
- **チャンネル**：追加するイベントチャンネルを選択します。
- **全て受理**：すべてのチャンネルを選択します。追加イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、アラーム入力イベントを設定します。

追加イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、キストインイベントを設定します。

- **設定**：選択した番号のテキストインデバイスを設定することができます。



- 複数のチャンネルから大量のテキストインが一度に入ってくると、システムの性能に影響を及ぼす可能性があります。
- **タイトル**：テキストインデバイスのタイトルを決めることができます。
- **ソース**：テキストインイベントを使用する接続装置を設定することができます。
- **ポート**：コネクタタブから追加したりリモートコントロール接続装置のポートを表示します。
- **テキストイン製品**：ポート設定の下の部分が、そのテキストインデバイスに合うように設定ウィンドウが変更されて表示されます。現時の設定ウィンドウの内容は汎用

テキストに関する設定内容です。

- **開始文字列**：開始文字列を設定すると、これに該当する文字列が入力される時、1つのトランザクションが開始したと認識します。開始文字列を任意の文字をもって開始として指定することができます。この場合、どんな文字が入力されても1つのトランザクションが始まったと認識します。
- **終了文字列**：終了文字列を設定すると、これに該当する文字列が入力される時、1つのトランザクションが終了したと認識します。終了文字列の隣に**0ライン追加**を選択し、1～10間の値に設定することができます。終了文字列に文字列が入力されたあと、ここで設定した追加ラインだけ入力されると1つのトランザクションが終わったと認識します。
- **改行文字列**：ラインの終わりを決定する文字列を入力することができます。コントロール文字は`␣`を押して`^`に続く文字を選択すると入力することができます。例えば、Carriage Returnは`^M`であり、Line Feed(New Line)は`^J`になります。
- **無視文字列**：トランザクションを記録するとき除外される文字列を設定することができます。
- **大小文字区分**：開始文字列、終了文字列、改行文字列、無視文字列で設定した文字列が大小文字を区分するか否かを選択することができます。

- コントロール文字の場合は、**大小文字の区分**には影響されません。

- **タイムアウト**：タイムアウト期間を設定すると、最後の文字列が入力されたあとに設定されたタイムアウト期間に新しい文字列が入力されなかったら、1つのトランザクションが終わったと認識します。5秒～15分まで設定できます。

ポートをRS232C、RS485、USB-Serial 1～8、LAN 1～16の中から一つを選択するとき、ポート設定ボタンが有効化されます。設定ボタンを押して**ボーレート**、**データ**、**ストップビット**、**パリティ**値を正しく設定してください。

- ．ポートをLAN1～16に選択する場合、ポート設定ボタンを押してネットワークポート値を設定します。
- USB-シリアルポートを使用する場合、システム駆動中、USBケーブルを取り外すとテキストイン機能に誤作動が発生することがあります。

追加イベントインターコム

(現在、連携する製品を提供していません。)

追加イベントタンバリングスイッチ

(現在、連携する製品を提供していません。)

映像解析装置

AIボックス(映像解析装置)で発生するイベントリストです。



映像解析装置_設定

特定のイベントを追加することができます。ただし、装置—映像解析装置_設定で、対象イベントを設定しておくことが必要です。



- **設定**：イベントを設定することができます。
- **動作**：イベント発生時の動作を設定することができます。
 - **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや指定時間およびイベントモードで設定されている場合、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
 - **アラーム出力**：イベント発生時のアラーム出力チャンネル(NVR、カメラ各々)とピーブを選択す

ることができます。

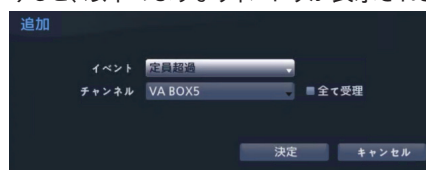
- **通知**：イベント発生時、メールやLAN1～5、Push、FTP、警告ウィンドウを設定することができます。
- **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
- **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。

- コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムにNVRが登録されている必要があります。

映像解析装置 定員超過

人のIn/Outを、AIボックスチャンネルのカウントをリアルタイムで合算して決められた条件を超過するとイベントが発生します。

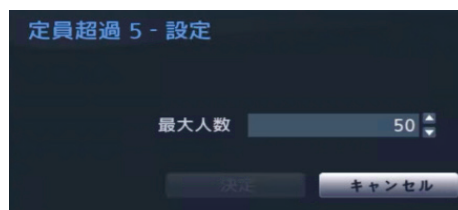
映像解析装置_設定ウィンドウ左下にある+ボタンを選択すると、以下のようなウィンドウが表示されます。



- **イベント**：イベント(定員超過、ソーシャルディスタンス、マスク検出など)から定員超過を選択します。
- **チャンネル**：追加するイベントチャンネルを選択します。
- **全て受理**：すべてのチャンネルを選択します。

映像解析装置イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、定員超過イベントを設定します。

- **定員超過 - 設定**：定員超過イベントを設定します。



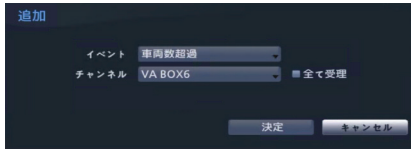
- **最大人数**：エリア内が設定した人数を超過するとイベントが発生します。

- 定員超過機能を使用するには、当該チャンネルにAIボックス(映像解析装置)のピープルカウント設定と共に指定する必要があります。

映像解析装置 車両数超過

車両を検出して入/出をカウントし、関連する映像解析装置チャンネルのカウントをリアルタイムで合算して、設定した条件を超えた場合にイベントが発生します。

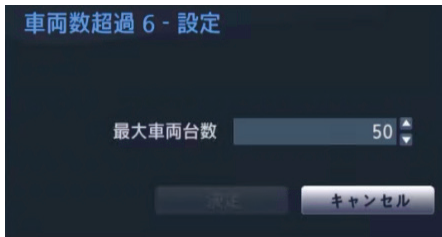
映像解析装置_設定ウィンドウ左下にある+ボタンを選択すると、以下のようなウィンドウが表示されます。



- ・ **イベント**：イベント(定員超過、ソーシャルディスタンス、マスク検出など)から車両数超過選択します。
- ・ **チャンネル**：追加するイベントチャンネルを選択します。
- ・ **全て受理**：すべてのチャンネルを選択します。

映像解析装置イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、車両数超過イベントを設定します。

- ・ **設定**：車両数超過イベントを設定できます。



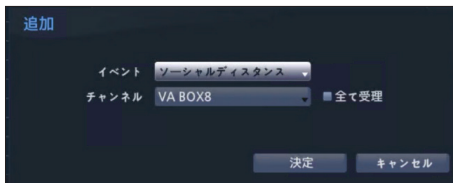
- **最大車両台数**：領域内の車両数が、設定した車両数を超えた場合にイベントが発生します。

車両数超過機能を使用するには、当該チャンネルにAIボックス（映像解析装置）の車両数カウント設定と共に指定する必要があります。

映像解析装置 ソーシャルディスタンス

検出した人同士の距離を推定して当該距離が設定された間隔より少ない場合にイベントが発生します。

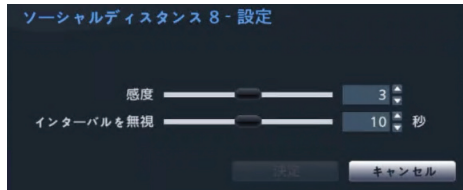
映像解析装置_設定ウィンドウ左下にある+ボタンを選択すると、以下のようなウィンドウが表示されます。



- ・ **イベント**：イベント(定員超過、ソーシャルディスタンス、マスク検出など)からソーシャルディスタンスを選択します。
- ・ **チャンネル**：追加するイベントチャンネルを選択します。
- ・ **全て受理**：すべてのチャンネルを選択します。

映像解析装置イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、ソーシャルディスタンスイベントを設定します。

- ・ **設定**：人同士の許容間隔を設定することができます。



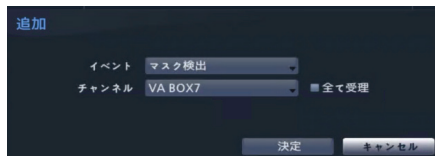
- **感度**：人同士の間隔が同じである場合、感度の値が大きくなるほどイベント検出される確率が高くなります。
- **インターバル無視**：当該イベントが検出された期間以降、一定の時間内に再度検出されたイベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。

ソーシャルディスタンス機能を使用するには、当該チャンネルに当該機能を設定する必要があります。

映像解析装置 マスク検出

選択したカメラで顔を検出し、マスク着用ルール設定によってイベントが発生します。

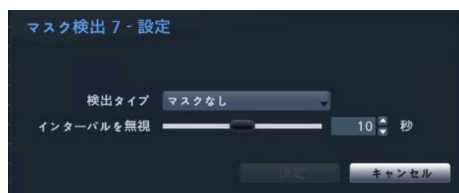
映像解析装置_設定ウィンドウ左下にある+ボタンを選択すると、以下のようなウィンドウが表示されます。



- ・ **イベント**：イベント:イベント(定員超過、ソーシャルディスタンス、マスク検出など)からマスク検出選択します。
- ・ **チャンネル**：追加するイベントチャンネルを選択します。
- ・ **全て受理**：すべてのチャンネルを選択します。

映像解析装置イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、マスク検出イベントを設定します。

- ・ **設定**：違反事項が発生すると、イベントが発生するように設定することができます。



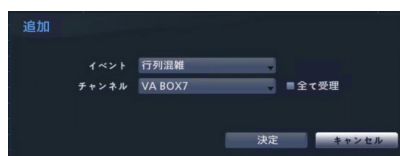
- **検出タイプ**：マスク/マスクなしルールを設定することができます。
- **無視期間**：当該イベントが検出された期間以降、一定の時間内に再度検出された該当イベントについてはイベントログおよび遠隔地通知機能を行いません。

マスク検出機能を使用するには、当該チャンネルに当該機能を設定する必要があります。

映像解析装置 行列混雑

選択したエリアの待機列の混雑度を検出し、混雑度が高い場合、イベントが発生して待機列を管理することができます。

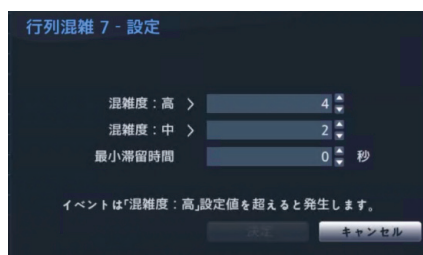
映像解析装置_設定ウィンドウ左下にある+ボタンを選択すると、以下のようなウィンドウが表示されます。



- ・ **イベント**：イベント(定員超過、ソーシャルディスタンス、マスク検出など)から行列混雑選択します。
- ・ **チャンネル**：追加するイベントチャンネルを選択します。
- ・ **全て受理**：すべてのチャンネルを選択します。

映像解析装置イベント_設定ウィンドウで設定タブをクリックし、行列混雑イベントを設定します。

- ・ **設定**：選択エリア内の待機列の人数を検出し、設定した人数によって混雑レベルを把握することができます。

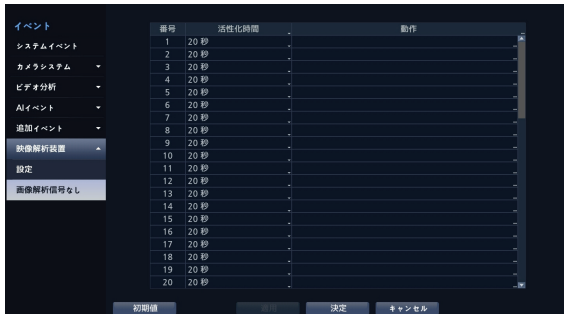


- **混雑度(高)**：高い混雑度の基準を設定します。設定された値を基準として分析された情報をリモートクライアントプログラムで確認することができます。
- **混雑度(中)**：中間の混雑度の基準を設定します。設定された値を基準として分析された情報をリモートクライアントプログラムで確認することができます。

- 混雑度(高)に達した場合にのみイベントが発生します。
- 行列混雑機能を使用するには、当該チャンネルにAIボックス（映像解析装置）の行列検出設定と共に指定する必要があります。

映像解析装置_画像解析信号なし

映像解析装置が正常に動作できない場合、イベントが発生します。



- ・ **活性化時間**：画像解析信号なしをイベントとして見なすための画像解析信号なしの継続時間を設定します。映像信号なしが感知されたあと設定された時間が続かない場合、これをイベントとして見なしません。
- ・ **動作**：映像信号なしイベント発生時の動作を設定することができます。
 - **録画**：イベント発生時、連動録画を行うカメラを選択することができます。スケジュールがイベントや指定指定時間およびイベントモードで設定されている場合、設定されたカメラに対して連動録画が行われます。
 - **アラーム出力**：イベント発生時に行われるアラーム出力チャンネル(NVR、各カメラ)とビープを選択することができます。
 - **通知**：イベント発生時に起動される通知機能として、メールやLAN1~5、Push、FTP、警告ウィンドウを設定することができます。
 - **PTZ**：イベント発生時、PTZカメラを特定のプリセットに移動させることができます。
 - **イベントモニタリング**：イベント発生時、監視するカメラを選択できます。

コールバック機能を使用するためには、遠隔プログラムにNVRが登録されている必要があります。

ネットワーク設定

設定メニューの使い方は第3章 設定 メニューの使い方

一般



- ・ **遠隔オーディオチャンネル**：選択したチャンネルのオーディオが遠隔プログラムに伝送されます。**クライアントから選択**を選択すると、遠隔プログラムで選択されたチャンネルのオーディオが伝送されます。

オーディオを伝送するときネットワーク環境によって途中で途切れることがあるため、音声との同期が合わないことがあります。

- ・ **データ伝送をするためのSSLを適用**：遠隔監視または遠隔録画のために伝送されるデータにSSL(Secure Sockets Layer)認証を利用したセキュリティ機能が適用されます。

SSL機能を使用するとき、SSL機能に対応しない遠隔プログラムでは本NVRに接続することができません。
 SSL設定を変更すると、これを適用するためにNVRへの接続が一時的に途切れます。
 本製品には、Open SSL Toolkitに使用される目的でOpenSSL Projectで開発した内容が含まれています(<http://www.openssl.org/>)。

- ・ **ネットワークバンド幅制限**：制限したいバンド幅を設定します。

- **ビットレート**：バンド幅のサイズを設定できます。
- **バースト**：バーストバイトまたはバッファバイトのサイズを設定できます。
- **遅延時間**：遅延時間を設定できます。
- **MTU**：最大伝送パケットサイズ(Maximum Transmission Unit)を設定できます。

ネットワークバンド幅制限を設定する場合、遠隔監視映像が途切れる場合があります。

- **DirectNDC** : DirectNDC (Direct Network Display Control) サービスをご使用になるためには、**DirectNDC使用**を選択してください。DirectNDCサービスとは、ネットワークを通じて遠隔地のPCやモバイルデバイスからNVRに接続して制御する機能を言います。
 - **ポート** : ポートを選択し、Direct NDCサーバのポート番号を設定することができます。
 - **パスワード** : パスワードを選択し、遠隔地からNVRに接続する際のパスワードを設定することができます。

DirectNDCサービスを利用して遠隔から接続できる人数は最大3人までです。

WEB Client 2



- **WEB Client 2** : WEB Client 2を使用するためには、**WEB Client 2使用**を選択してください。**WEB Client 2ポート**を選択し、WEB Client 2への接続に使用するポート番号を12001から14000の間の値で設定することができます。WEB Client 2に関する詳しい内容は[第5章 WEB Client 2](#)を参照ください。
- **HTTPヘッダ[サーバー]情報公開** : ネットワークシステムで必要な場合だけ使用します。通常は、セキュリティを確保するため使用しません。

WAN

ネットワークポートのIPアドレス種類をなし、手動、DHCPに選択することができます。

なし



種類をなしに選択して保存すると、WANを使用しないように設定されます。

手動



- **タイプ**を手動に選択してください。
- 手動**を選択した場合、手動で設定することができます。**IPアドレス**、**ゲートウェイ**、**サブネットマスク**の各項目を選択したあと、上下方向ボタンで数字を増減させるか、スクリーンキーボードで直接数値を入力して、設定します。
 - VINとWANのIPに同じセグメントのIPを設定しないでください。
 - JSS遠隔監視モバイル2アプリケーションにNVRを登録する場合、QRコードを使用するとNVR IPアドレスをより簡単に入力することができます。
- **DNSサーバ** : DNSサーバのIPアドレスを入力します。IPアドレスはスクリーンキーボードでも入力することができます。
- **遠隔ポート** : 遠隔地プログラムで接続するために使用するポートです。ポート番号はスクリーンキーボードでも入力することができます。

- **Pingテスト**：現在設定されている値でWAN接続ができているかをテストします。



- 1 NVRのIPアドレスを入力してください。
- 2 Pingテストの回数を設定してください。
- 3 **テストスタート**ボタンを押してテストを行ってください。テストの結果が表示されます。
- 4 **閉じる**を押して設定を終了してください。

- ポート変更はファイアウォールなどを使用する場合、ファイアウォールで許容されるポート番号を変更するときに使用します。
- ポートを変更すると、NVRへの遠隔接続が一時的に途切れます。

遠隔プログラムの遠隔地点IP/ポート設定も同様に変更しなければ遠隔プログラムから接続ができません。

- **UPnP** (Universal Plug and Play、ユニバーサルプラグアンドプレイ) サービスを使用するためには、**UPnP使用**を選択します。UPnPサービスを利用してIPルータ(あるいはNAT)を使用するとき、そのデバイスからNVRへのポートフォワーディングを自動的に実行することができます。

- 本機能はプライベートIPアドレスで構成されたポートに接近するときに活用されます。
- UPnPサービスを使用するためには、使用するIPルータ(あるいはNAT)がUPnPポートフォワーディング機能に対応する必要がある、この機能が使用可能な状態になっていなければなりません。
- **UPnP使用**を選択すると、ポート番号は変更することができません。

- **状態**：UPnPサービスを利用してIPルータ(あるいはNAT)でNVRにフォワーディングされたポート番号が表示されます。

DHCP



DHCPを選択して**適用**を押すと、DHCPサーバからIPアドレスなどのネットワーク情報を自動的に割り当てられます。ネットワーク情報が割り当てられると、IPアドレス項目にNVRの現在のIPアドレスが表示されます。

- DHCPを使用する場合、DHCPサーバがなければIPアドレスが割り当てられないこともあります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- DHCP設定を使用する場合、NVRのIPアドレスはNVRが起動されるたびに変更されることがあります。
- JSS遠隔監視モバイル2アプリケーションにNVRを登録する場合、QRコードを使用するとNVR IPアドレスをより簡単に入力することができます。

遠隔接続のとき、同時に接続できる回線には制限があります。詳細は、販売店までお問い合わせください。

VIN

インターフェースタイプ

VINのインターフェースタイプを、ネットワークブリッジ/ボンディングモード4 (IEEE 802.3ad) から選択することができます。



- **ネットワークブリッジ**：IEEE 802.1dの標準に従うネットワークブリッジで動作します。当該インターフェースタイプ

ブは、VINポートをネットワークスイッチのように使用することができます。通常は、このモードで使用します。

- **ボンディングモード 4**：IEEE 802.3adの標準に従うLACP方式のボンディングモード4で動作します。当該インターフェースタイプでは、すべてのVINポートを一つの論理的ポートに統合して、ロードバランシング(Load Balancing)で帯域幅を拡張することができます。リンクアグリゲーションに対応しているルーターやスイッチと組み合わせて使用する必要があります。
- **IP設定**：カメラがネットワークに接続されていないながらも検索されない場合、本設定を使用します。設定でNVR後面パネルにあるVIDEO INポートのネットワーク設定を変更することができます。



- 本設定を使用する前には、まずカメラのネットワーク設定を確認してください。
- VINとWANのIPに同じセグメントのIPを設定しないでください。



- **リンク - ローカルアドレス**：VIDEO INポートのデフォルト(高性能設定は無効です)。



- **手動**：IPアドレスをはじめとし、ネットワーク設定を手動で行うことができます。
- **NAT (ROUTER/VPN/ETC) 使用**：VIDEO INポートに設定したネットワークの外部にあるカメラを登録できるようになります。(本機能はネットワ

ーク管理を行っている方を対象としています。)



- **DHCPクライアントモード**：DHCPサーバからIPアドレスをはじめとするネットワーク設定が自動で割り当てられます。
- **NAT (ROUTER/VPN/ETC) 使用**：VIDEO INポートに設定したネットワークの外部にあるカメラを登録できるようになります。(本機能はネットワーク管理を行っている方を対象としています。)



- **DHCPサーバ**：NVRをDHCPサーバで動作します。同様のネットワークにDHCPサーバがあるか確認します。DHCPサーバがない場合、本オプションを選択することができます。NVRがDHCPを利用し、VIDEO INポートに接続されているカメラのIPアドレスを自動で割り当てます。IPアドレス範囲は、**10.10.0.128 ~ 10.10.254.254**です。DHCPサーバモードでは、VIDEO INポートがNVRとカメラ間の単一ネットワークで接続されているため、ゲートウェイには何の意味もありません。サブネットマスクは255.255.0.0(Class B)です。

- 同じネットワーク上に複数のNVRが存在する場合、その中の一台だけをDHCPサーバとして設定することが出来ます。もし、複数のDHCPサーバが作動すると、カメラに重複したIPが割り当てられることがあります
- 10.10.0.1～10.10.0.127のIPアドレスはNVRシステムに割り当てられているため、使用しないことをお勧めします。
- 10.10.0.1～10.10.0.127のIPアドレスはVIDEO INポートにDHCPサーバが割り当てられているため、使用しないことをお勧めします。

UCN

UCNサービスはダイナミックIPを使用するNVRを遠隔管理プログラムで接続するとき、ダイナミックIPやルータ設定などを気にすることなく簡単に接続できるようにする機能です。



- **UCNを使用**：UCNサービスを使用する場合はチェックしてください。
- **UCNサーバ**：UCNサーバのIPアドレスやドメイン名を入力することができます。

- ネットワークWAN設定でDNSサーバを設定した場合、**UCNサーバ**項目にUCNサーバのIPアドレスの代わりにドメイン名を入力することができます。
- JSS遠隔監視モバイル2アプリケーションにNVRを登録する場合、QRコードを使用するとNVR IPアドレスをより簡単に入力することができます。

- **ポート**：UCNサーバのポート番号を設定することができます。

- IPルータ(あるいはNAT)を使用する場合、ポート設定などのネットワーク機能はIPルータ(あるいはNAT)の使い方に従います。

- **UCN名前**：UCNサーバに登録するNVR固有の名前を入力したあと確認ボタンを押して、使用可能と表示されましたら、適用を押して登録してください。

- UCN名項目の確認ボタンをクリックし、入力されたデバイス名が使えるかどうかを確認しない場合UCN設定を保存することができません。

- UCN名を入力しなかったりUCNサーバにすでに登録されている名前を入力したりすると、エラーメッセージが表示されます。

- UCN名に#、\、%の記号が含まれている場合、WEB Client 2プログラムでNVRにアクセスする時にアクセスができないことがあります。

- **状態**：UCNサーバに登録したデバイスの状態を確認することができます。

設定を変更した後**適用**を選択すると、NVRのUCN名がUCNサーバに登録されます。

- UCN設定が正常に行われた場合、再びUCN設定画面に入るときに**ヘルプ**項目にUCNサーバのヘルプに関する情報が表示されます。

NetFS

下記の機能を使用するためには、FTPサイトを登録する必要があります。

- FTPサイトにアップグレード/設定ファイルインポート(エクスポート)/ログエクスポート/自己診断エクスポート/印刷用ファイルをアップロードしたり、FTPサイトから直接ダウンロードすることができます。設定の仕方は下記の通りです。

：監視モードの (設定)メニュー — システム — 一般 — アップグレード/インポート/エクスポート/システムログ — 自己診断エクスポート

：監視モードの (設定)メニュー — システム — 自己診断エクスポート

：検索モード (プリント)メニュー

- FTPサイトにクリップファイルをアップロードすることができます。設定の仕方は下記の通りです。

：検索モードの (エクスポート) — A-Bバックアップまたはバックアップ

- イベント感知のFTPアップロード(システムイベントを除く)することができます。設定の仕方は下記の通りです。

：監視モードの (設定)メニュー — 通知メニュー — FTPタブ — FTP設定

：監視モードの (設定)メニュー — イベントメニュー — アクション — イベントアップロード(FTP)設定

- FTPソリューションとしては、FileZillaまたはsmallFtpのご使用をお勧めします。
- 本機能はFTPサイトのPASV(手動モード)のみ対応します。



NetFS機能を使用するためには、NetFS使用を選択してください。

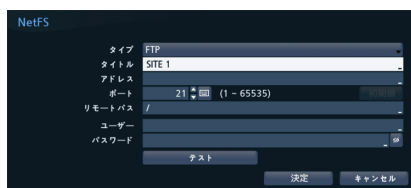
設定ウィンドウの左下にある+アイコンを選択し、FTPサイトを追加することができます。(最大16個)

- **タイトル**：スクリーンキーボードを利用してNetFSサイトの名前を入力することができます。
- **使用**：NetFS機能の用途を設定することができます。
 - **N/A**：NetFS機能を使用しません。
 - **ALL**：すべてのNetFS機能を使用します。
 - **アップグレード**：NetFSサイトにアップロードされたアップグレードファイルを使用します。
 - **設定**：NetFSサイトにアップロードされた設定ファイルを使インポートしたり、エクスポートしたりします。
 - **システムログ**：NetFSサイトにシステムログを保存します。
 - **バックアップ**：NetFSサイトにビデオクリップを手動で保存したり、イベントが感知されたビデオクリップを自動で保存します。
- **サイト**：NetFSサイト情報を入力することができます。



- ネットワーク – NetFS設定画面でFTPサイトを削除すると、通知 – FTP設定画面でも該当するFTPサイトが削除されます。
- FTPサイトの使用をALLまたはバックアップ以外の設定に変更する場合、FTP通知機能が無効となります。
- 各項目の右側の アイコンを押すと、NetFSサイトを削除することができます。

スクリーンキーボードを利用して、NetFSサイトの情報を入力します。情報を入力したあと、テストボタンをクリックすると、設定したNetFSサイトの情報が正しいかテストを行います。



- **タイトル**：スクリーンキーボードを利用してNetFSサイトの名前を入力することができます。
- **アドレス**：スクリーンキーボードを利用し、NetFSのアドレスを入力します。
- **ポート**：NetFSサイトへ接続するためのポートを設定します。
- **リモートパス**：スクリーンキーボードを利用し、NetFSサイトのフォルダーの経路を入力します。
- **ユーザー、パスワード**：スクリーンキーボードを利用して、NetFSサイトへ接続するためのユーザーやパスワードを入力します。
- **テスト**：情報を入力したあと、**テスト**ボタンをクリックすると、設定したNetFSサイトの情報が正しいかテストを行います。

RTSP

RTSP (Real-Time Streaming Protocol)、リアルタイムストリーミングプロトコルサービスを使用して、リアルタイム監視ができる機能です。



- **RTSPポート**：RTSPサーバーのポート番号を設定することができます。
- **最大セッション数**：RTSPの最大セッション数を設定することができます。



- 同時に多くのセッションが接続される場合、RTSPが誤作動する可能性があります。
- 最大セッション数は10個から16個まで設定することができます。

- **RTPポート**：RTP開始ポート及び最後のポート番号を設定することができます。



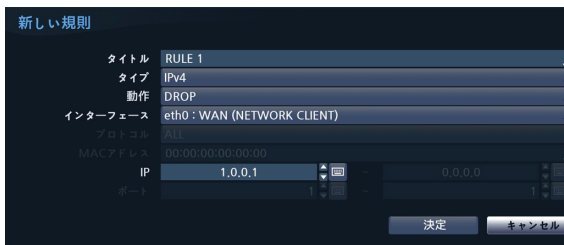
- 対応するメディアプレーヤーを經由して遠隔地からNVRに接続してリアルタイム映像を監視することができます。接続の方法は次の通りです。
 - PCからの接続: メディアプレーヤー (VLCプレーヤー等) を実行した後rtsp://ID:パスワード@IPアドレス:RTSPポートナンバー/trackID=カメラのチャンネル番号&streamID=streamナンバーを入力 (例: rtsp://admin:@10.0.152.35:554/trackID=1&streamID=2)
- 一部のメディアプレーヤーではネットワークの状態により映像再生が円滑にいかない場合があります。
- RTSPサービスは、使用しているメディアプレーヤーの種類によってサポートできない場合があります。

ファイアウォール

ユーザーが一定の規則を構成してMACアドレス、IPアドレスまたは受信 (NVR) 側のネットワークポートを許可または拒否する機能です。



ファイアウォール機能を使用するには、ファイアウォール使用を選択してください。設定ウィンドウの左下にある+アイコンを選択し、ユーザーが規則を構成することができます。



- **タイトル**: 規則の名前を決めることができます。
- **タイプ**: 規則に使用するMACアドレスおよびIPアドレスまたはネットワークポートを設定します。
- **動作**: 規則の動作を設定します。
 - **DROP**: 当該規則に従う場合、受信されたパケットをそのまま破棄します。

- **REJECT**: 当該規則に従う場合受信されたパケットを破棄し、送信側で拒否されたというACKパケットを返送します。
- **INVALID**: 無効な操作、動作の場合に表示します。ユーザーによる設定はできません。
- **ACCEPT**: 当該の規則に基づいたパケットを許可します。
- **インターフェース**: ファイアウォール規則が効力を発揮するイーサネットインターフェース装置を指定することができます。WAN (ネットワーククライアント) またはVIN (ビデオイン) のイーサネット装置を意味します。
 - **MACアドレス**: 当該規則に従う場合、受信されたパケットをそのまま破棄します。
 - **IP**: 規則の種類がIPv4またはIPv6 (範囲) で選択された場合、使用される送信側のIPアドレスを入力します。
 - **ポート**: 規則の種類がポートまたはポート (範囲) に選択した場合に使用される受信 (NVR) 側のネットワークのポート番号を入力します。

NAT

WAN網のPC (WebSetup/WEB Client 2/JSS遠隔監視システムプログラム /RTSP) で内部のVIN網カメラに接続するためのポートフォワーディングをするのに使用されます。



NAT機能を使用するには、NAT使用を選択してください。設定ウィンドウの左下にある+アイコンを選択し、ユーザーが規則を構成することができます。



- ・ **タイトル**：規則の名前を決めることができます。
- ・ **タイプ**：規則に使用するMACアドレスおよびIPアドレスまたはネットワークポートを設定します。
- ・ **動作**：規則の動作を設定します。
 - **PORT_FORWARD**：外部TCP/UDPポートと内部ポートを結合して接続を許可します。
- ・ **プロトコル**：規則に使用するネットワークプロトコルを設定します。
- ・ **インターフェース**：イーサネットのインターフェース装置を指定します。
- ・ **IP**：規則の種類がIPv4またはIPv4(範囲)で選択された場合、使用される送信側のIPアドレスを入力します。
- ・ **ポート**：規則の種類がポートまたはポート(範囲)に選択した場合に使用される受信(NVR)側のネットワークのポート番号を入力します。

VINからWAN方向のインターフェース設定は行うことができません。詳しい説明は付録を参考にしてください。

装置の設定

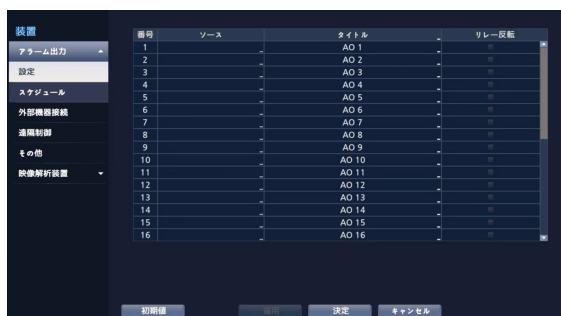
設定メニューの使い方は**第3章 設定**メニューの**使い方**を参照ください。

アラーム出力

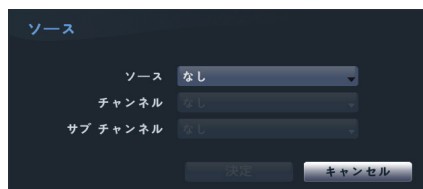
アラーム出力を設定するためのイベントリストです。



アラーム出力：設定



- ・ **ソース**：アラーム入力イベントを使用する装置を設定することができます。



- **チャンネル**：設定したソースのチャンネルを設定します。
- **サブチャンネル**：設定したソースのサブチャンネルを設定します。
- ・ **タイトル**：アラーム入力イベントの**タイトル**を設定することができます。
- ・ **リレー反転**：ソースで設定した装置のアラーム出力タイプを反転させることができます。

アラーム出力：スケジュール



スケジュールリストの左下にある+を選択し、スケジュールを追加することができます。

スケジュールは**曜日別**に選択することができます。

アイコンを選択してスケジュールを削除することができます。

- ・ **出力時間**：5秒から15分まで設定することができます。

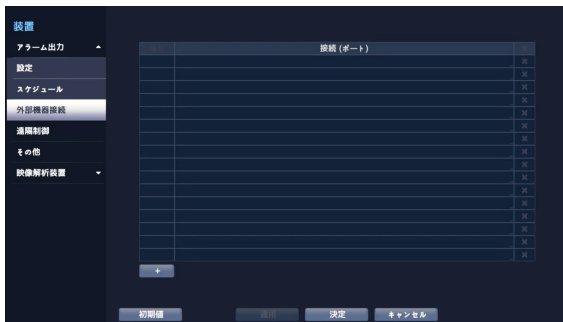
アラーム出力はここで設定された時間の間に作動します。

- ・ **タイトル**：アラーム出力の件名を設定することができます。
- ・ **範囲**：スケジュールする時間帯を変更することができます。
- ・ **モード**：**イベント**、**オン**、**オフ**を選択することができます。

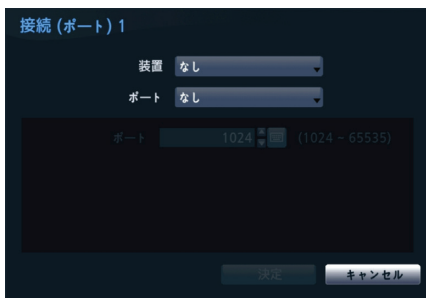
イベント	イベントに連動しアラーム出力が発生します。
オン	アラーム出力が常にオンになります。
オフ	アラーム出力が常にオフになります。

- ・ **チャンネル**：アラーム出力に使用するポートおよびビープ出力を設定することができます。

外部機器接続



接続ポートリストの左下にある+を選択して接続装置を追加することができます。



- ・ **装置**：NVRで対応する接続装置を選択することができます。
- ・ **ポート**：選択したデバイスで対応するポートを選択することができます。ポートに応じてポートの速度、データ、停止、パリティ値あるいはLANポートを設定できます。

同じLANポートを使用している場合は、ポート番号が重複しているため他のデバイスは使用できないという警告ウィンドウが表示されます。

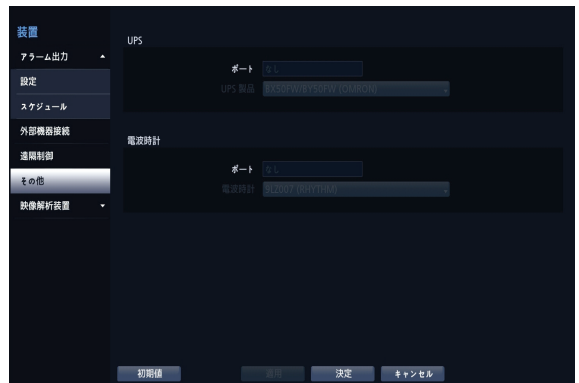
遠隔制御



- ・ **ポート**：外部機器接続タブから追加したりリモートコントロール接続装置のポートを表示します。遠隔制御製品の中から好みの製品を選択して使用することができます。

その他

装置のメニューで“その他”を選択してください。



- ・ UPSまたは電波時計を設定することができます。各装置のポートを選択するとRS232、RS485を選択することができます。この場合、PTZカメラ、またはテキストインなどの装置が同じポートを使用しているとポートが重複するので警告が表示されます。
- ・ ポートをRS232、RS485に選択し、右側の**設定...**を選択し、ボーレート、データ長、ストップビット、パリティを設定することができます。

電波時計と本NVRが正常に接続されていると30分単位に電波時計の時刻に本NVRの時刻が同期されます。電波時計との接続及び設定方法は電波時計の説明書を参照してください。

映像解析装置

カメラに登録された映像を分析してJSS遠隔監視システムプログラムでリアルタイムに分析結果を確認することができます。



画像解析装置は、H.264/H.265を使用するカメラの画像のみ解析することができます。

映像解析装置_登録

遠隔地からNVRに画像解析装置を登録することができます。



- **タイトル**：映像解析装置のタイトルを編集することができます。
- **MACアドレス**：NVRに登録されている映像解析装置のMACアドレスが表示されます。
- **アドレス**：NVRに登録されている映像解析装置のIPアドレスが表示されます。
- **型番**：映像解析装置のモデル名が表示されます。
- **スキキャン**：スキキャンを選択し、NVRに接続されているデバイスを検索して登録することができます。

デバイススキャン

映像解析装置登録—スキキャンでデバイスを検索することができます。



- **番号**：検索された映像解析装置の番号を選択した後、映像解析装置を追加をクリックすると、映像解析装置を登録することができます。
- **MACアドレス**：登録済み映像解析装置のMACアドレスが表示されます。
- **アドレス**：検索された映像解析装置のIPアドレスが表示されます。
- **型番**：映像解析装置のモデル名が表示されます。
- **登録済みデバイスのMACアドレス**：画像解析装置が登録されているNVRのMACアドレスが表示されます。
- **状態**：NVRに登録されている映像解析装置は登録に、登録されていない映像解析装置は未登録に表示されます。

映像解析装置_設定

映像解析装置の全般的な設定を行うことができます。



- **タイトル**：映像解析装置のタイトルが表示されます。
- **型番**：映像解析装置のモデル名が表示されます。

カメラのモデルによっては画像解析機能に対応できないことがあります。

- **カメラ**：画像を解析するカメラを選択します。画像解析装置1チャンネルあたり1台のカメラを設定することができます。
- **設定**：映像解析の種類によって設定項目の表示が異なります。設定項目は、各映像解析の種類の設定項目を確認してください。
- **リセット**：ポートまたは映像解析装置をリセットします。
 - **PoE リセット**：Video In/PoE端子に接続する場合、PoE Switchポートを制御することができます。**PoE リセット**ボタンを選択すると、映像解析装置を再起動することができます。
 - **ソフトリセット**：映像解析装置を再起動することができます。
- **総VA処理量**：X.X（最大：X.X）
 総VA処理量が、最大数値を超えないように、VAエンジンを使用するカメラチャンネル数やVAエンジンを使用する機能数を設定してください。
 この機能の詳細については購入先までお問い合わせください。

映像解析の結果は、J S S遠隔監視システムプログラムを通じてのみ確認することができます。

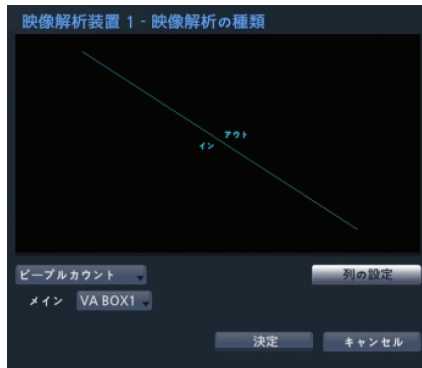
• **映像解析の種類**

- **PF-BW1504**：ピープルカウント、車両カウント、ヒートマップ、ソーシャルディスタンス、マスク検出、行列検出のうちひとつを選択することができます。
- **PF-BW1604**：物体検出、侵入検出、滞留検出、ラインクロス検出、顔検出のうちひとつを選択することができます。

<映像解析の種類>

ピープルカウント

映像の設定エリア内で指定された境界線を通過する人数を計算します。

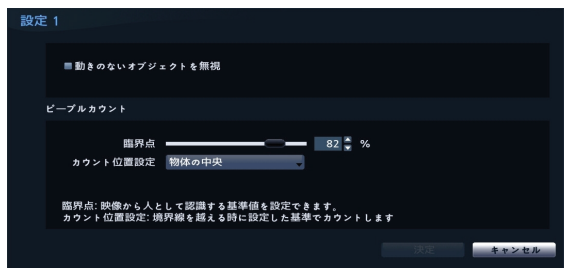


エリアの設定画面からマウスの右クリックでピープルカウントメニューを呼び出すことができます。

- **メイン**：取得した流動人数の数値を選択したチャンネルに送って合算することができます。メインに指定されたチャンネルは、定員超過イベントを使用することができます。
- **境界線**：画像に仮想境界線を設定して流動人数を計算することができます。

設定された境界線の位置によって人数の計算が正しくない場合があります。

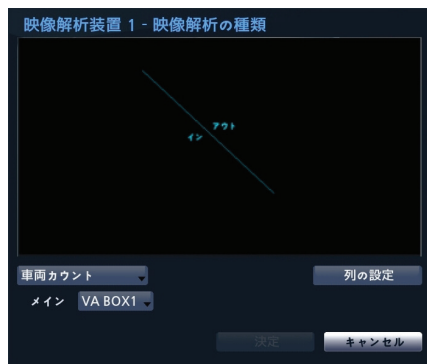
- **保存**：設定を保存して設定画面を閉じます。
- **キャンセル**：変更された内容を保存せずに設定画面を閉じます。
- **設定**：ピープルカウントの環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類からピープルカウントを選択した後、設定を選択してください。



- **動きの無いオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- **臨界点**：映像で人として認識される基準値を設定することができます。
- **カウント位置設定**：境界線を超える時に設定した基準でカウントします。

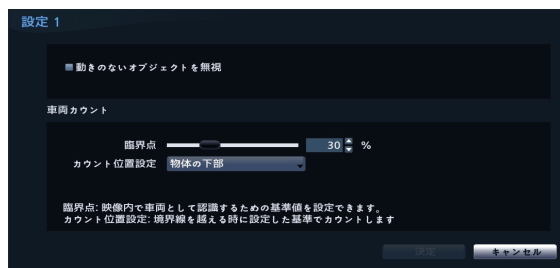
車両カウント

映像の設定エリア内で指定された境界線を通過する車両を計算します。



列の設定画面からマウスの右クリックで車両カウントメニューを呼び出すことができます。

- **メイン**：取得した車両の数値を、選択したチャンネルに送って合算することができます。メインに指定されたチャンネルは、車両台数の上限超過イベントを使用することができます。
- **境界線**：画像に仮想境界線を設定して通過車両数を計算することができます。設定された境界線的位置によっては、車両数の計算が正しく行われない場合があります。
- **保存**：設定を保存して設定画面を閉じます。
- **キャンセル**：変更された内容を保存せずに設定画面を閉じます。
- **設定**：環境設定を行うことができます。映像解析の種類から車両カウントを選択した後、設定を選択してください。

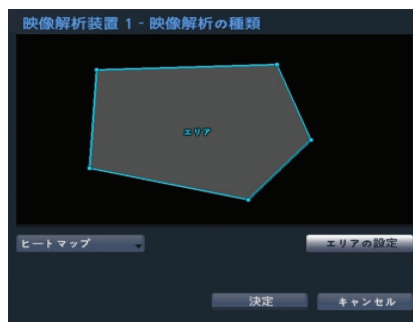


- **動的背景抑制**：背景が動いても影響を受けずに車両を認識することができます。
- **臨界点**：映像内で車両として認識される基準値を設定することができます。
- **カウント位置設定**：境界線を越えた車両をカウン

トする位置を設定することができます。

ヒートマップ

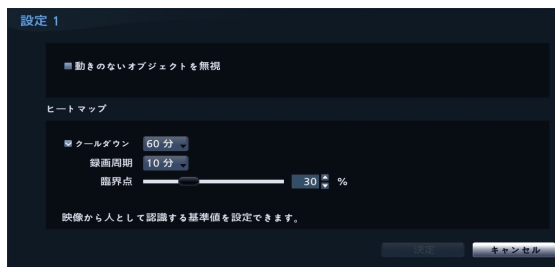
画像の設定エリア内の動きの頻度を解析することができます。マウスの左ボタンをクリックしてエリアを描くことができます。すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



- エリア設定の際、線と線は交差することができません。

エリアの設定画面からマウスの右クリックでヒートマップメニューを呼び出すことができます。

- **元に戻す**：すでに描かれたエリアを一度キャンセルします。
- **保存**：設定を保存して設定画面を閉じます。
- **キャンセル**：変更された内容を保存せずに設定画面を閉じます。
- **設定**：ヒートマップの環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像分析の種類からヒートマップを選択した後、設定を選択してください。

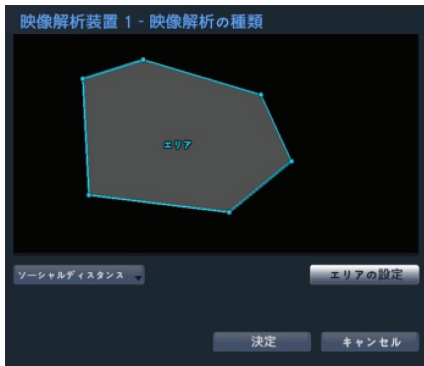


- **動きのないオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- **クールダウン**：クールダウン以前の時間まで録画したヒートマップ情報が画面に表示されます。
- **記録時間**：ヒートマップデータが保存される録画周期を設定します。

- ・ **臨界点**：映像で人として認識される基準値を設定することができます。

ソーシャルディスタンス

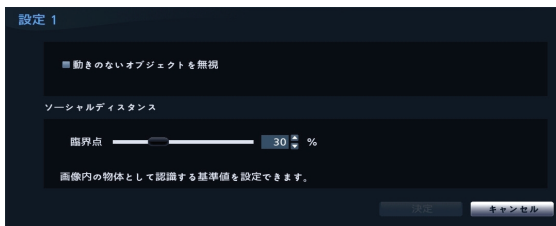
映像の設定エリア内の検出された人の間の距離を推定・分析して当該距離が設定された間隔より少ない場合に違反イベントが発生します。すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



- エリア設定の際、線と線は交差することができません。

エリアの設定画面でマウスの右ボタンをクリックしソーシャルディスタンスメニューを呼び出すことができます。

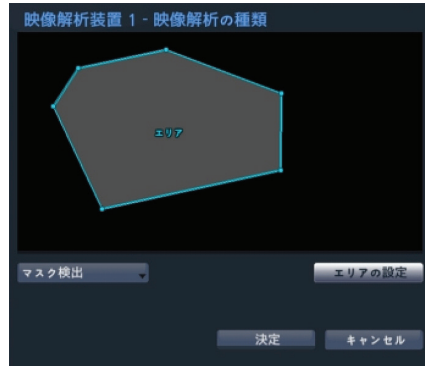
- **元に戻す**：すでに描かれたエリアを一度キャンセルします。
- **保存**：設定を保存して設定画面を閉じます。
- **キャンセル**：変更された内容を保存せずに設定画面を閉じます。
- ・ **設定**：ソーシャルディスタンスの環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類からソーシャルディスタンスを選択した後、設定を選択してください。



- ・ **動きの無いオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- ・ **臨界点**：映像で人として認識される基準値を設定することができます。

マスク検出

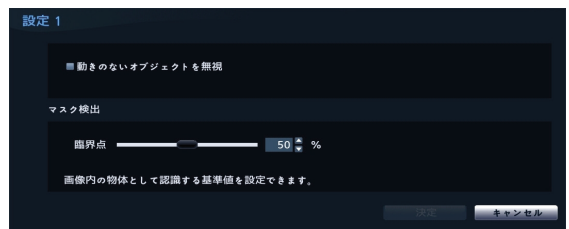
選択したカメラで顔を検出し、顔のマスク着用ルール設定によってイベントが発生します。すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



- エリア設定の際、線と線は交差することができません。

エリアの設定画面でマウスの右ボタンをクリックしマスク検出メニューを呼び出すことができます。

- **元に戻す**：すでに描かれたエリアを一度キャンセルします。
- **保存**：設定を保存して設定画面を閉じます。
- **キャンセル**：変更された内容を保存せずに設定画面を閉じます。
- ・ **設定**：マスク検出の環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類からマスク検出を選択した後、設定を選択してください。



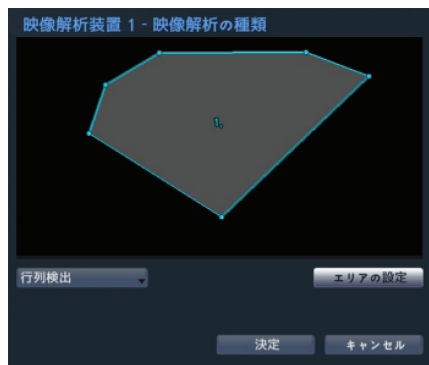
- ・ **動きの無いオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- ・ **臨界点**：映像で人として認識される基準値を設定することができます。

行列検出

映像の設定エリア内の待機列を検出して人数によって混雑度を把握します。

マウスの左ボタンをクリックしてエリアを描くことが

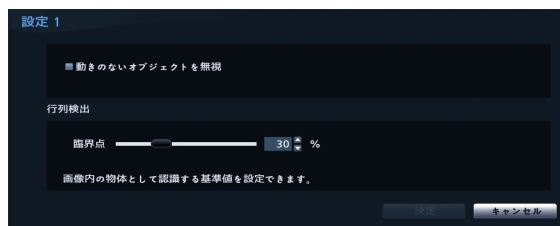
できます。すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



- エリア設定の際、線と線は交差することができません。

エリア設定画面からマウスの右クリックで行列検出メニューを呼び出すことができます。

- **解除**：当該エリアを削除します。
- **元に戻す**：すでに描かれたエリアを一度キャンセルします。
- **タイトル編集**：当該領域に名前を設定します。
- **保存**：設定を保存して設定画面を閉じます。
- **キャンセル**：変更された内容を保存せずに設定画面を閉じます。
- **設定**：行列検出の環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類から行列検出を選択した後、設定を選択してください。

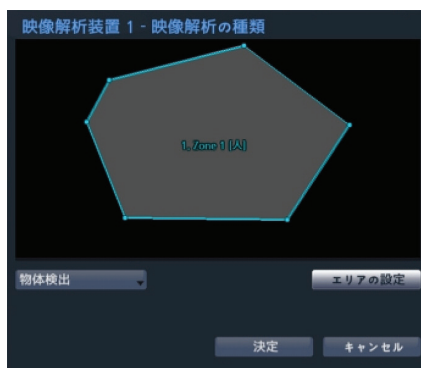


- **動きの無いオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- **臨界点**：映像で人として認識される基準値を設定することができます。

物体検出

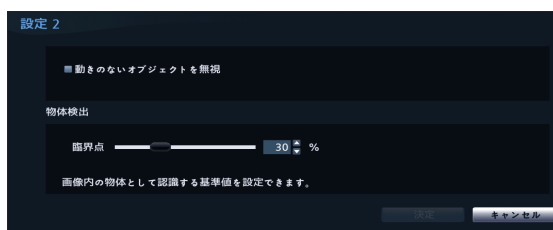
映像の設定エリア内で物体（人、車、バイク）を検出します。

すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



エリアの設定画面でマウスの右ボタンをクリックし物体検出メニューを呼び出すことができます。

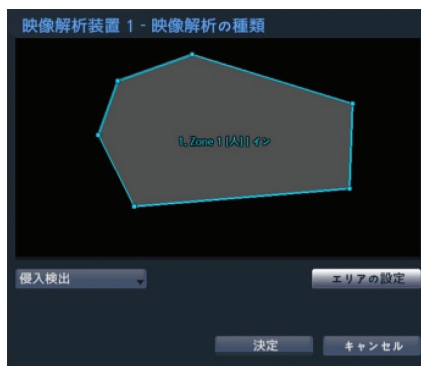
- **設定**：物体検出の環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類から物体検出を選択した後、設定を選択してください。



- **動きの無いオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- **臨界点**：画像でオブジェクトとして認識される基準値を設定することができます。

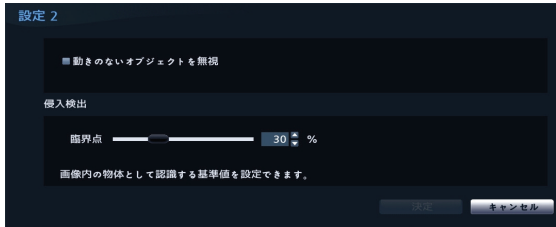
侵入検出

侵入検出方向オプション（内側、外側、内側/外側）通りに定義されたエリア内へ入ってきたり、外へ出る物体（人、車、バイク）を検出します。すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



エリアの設定画面でマウスの右ボタンをクリックし侵入検出メニューを呼び出すことができます。

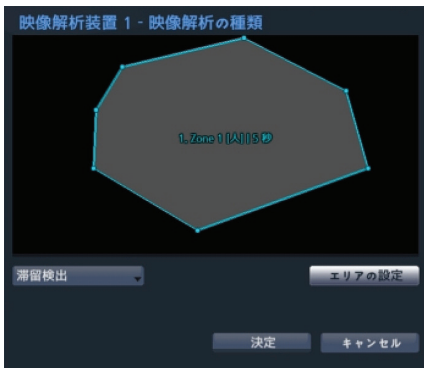
- ・ **設定**：侵入検出の環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類から侵入検出を選択した後、設定を選択してください。



- ・ **動きのないオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- ・ **臨界点**：画像でオブジェクトとして認識される基準値を設定することができます。

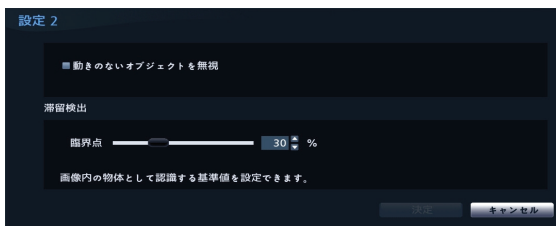
滞留検出

映像の設定エリア内で設定時間を超えて留まる対象（人、車、バイク）を検出します。すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



エリアの設定画面でマウスの右ボタンをクリックし滞留検出メニューを呼び出すことができます。

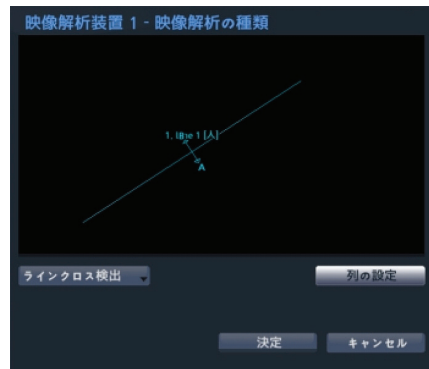
- ・ **設定**：滞留検出の環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類から滞留検出を選択した後、設定を選択してください。



- ・ **動きのないオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- ・ **臨界点**：画像でオブジェクトとして認識される基準値を設定することができます。

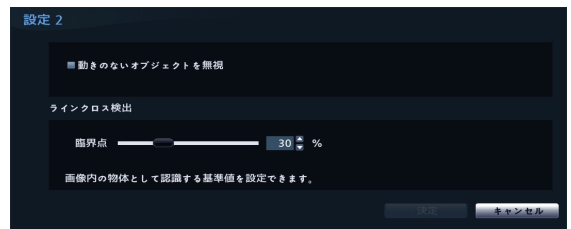
ラインクロス検出

設定ラインの方向オプション（内側、外側、内側/外側）通りに通り過ぎる対象（人、車、バイク）を検出します。マウスの左ボタンをクリックするとラインを再設定することができます。



ライン設定画面でマウスの右ボタンをクリックしラインクロス検出メニューを呼び出すことができます。

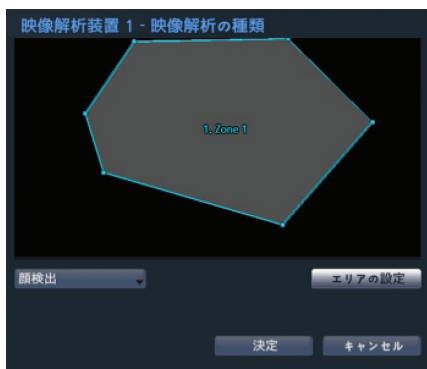
- ・ **設定**：ラインクロス検出の環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類からラインクロス検出を選択した後、設定を選択してください。



- ・ **動きのないオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- ・ **臨界点**：画像でオブジェクトとして認識される基準値を設定することができます。

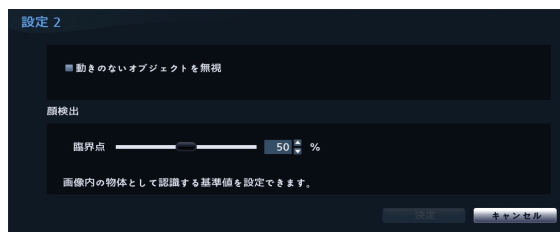
顔検出

映像の設定エリア内で人の顔を検出します。すでに描かれたエリアを修正する場合、頂点をドラッグ&ドロップするかマウスの左ボタンをクリックするとエリアを再設定することができます。



エリアの設定画面でマウスの右ボタンをクリックし顔検出メニューを呼び出すことができます。

- ・ **設定**：顔検出の環境設定を行うことができます。この設定を行うには、映像解析の種類から顔検出を選択した後、設定を選択してください。



- ・ **動きのないオブジェクトを無視**：背景が動いても影響を受けずに物体を認識することができます。
- ・ **臨界点**：画像で顔として認識される基準値を設定することができます。

映像解析装置_スケジュール

映像解析装置のスケジュール設定ができます。設定ウィンドウ左下の+ボタンを押すと、新しいスケジュールが追加されます。曜日を選択し、録画スケジュールを設定する曜日、または全てを選択することができます。範囲を選択し、時間の範囲を選択することができます。

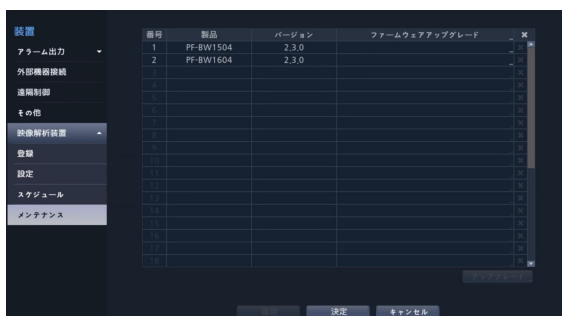


- ☑ スケジュール削除の際、リアルタイム画像解析もともに中断されます。

映像解析装置_メンテナンス

各映像解析装置のファームウェアアップグレードを選択すると、USBメモリあるいはNetFSから選択することができます。NetFSを使用しない場合には、USBメモリだけを選択することができます。USBメモリを選択した後USB検索ウィンドウが表示されたら、USBに接続されている保存デバイスから該当するアップデートパッケージファイルを選択してください。

各々の映像解析装置のアップグレードパッケージファイルを選択して適用ボタンを押すと、アップグレードができます。



- ☑ アップグレードを失敗すると失敗メッセージが表示されます。
- ・ アップグレードした後は、画像解析装置が再起動され自動的に再接続されます。

ディスプレイ設定

設定メニューの使い方は[第3章 設定メニューの使い方](#)を参照ください。

装置

解像度の設定を行うことができます。



- ・ **手動構成**：モニタの解像度情報に関わらず、ユーザーが解像度を手動で設定することができます。
- ・ **解像度**：3840×2160、1920×1200、1920×1080、1680×1050、1600×1200から設定することができます。



- ・ モニタによって対応できる解像度が制限されることがあります。
- ・ 3840 x2160@50/60Hzの解像度は、HDMI2.0、モニタのみサポートされます。
- ・ 1920×1080または3840×2160の解像度を使用することをお勧めします。
- ・ HDMI1とHDMI2は同時出力で、同一解像度で出力されます。起動時、2つの出力に異なる解像度のモニタが接続された場合、解像度が低い方に統一されます。
- ・ モニターなしで起動すると、解像度は1920×1080で出力されます。
- ・ 解像度1920×1080で出力した履歴があると、3840×2160解像度のモニタを接続しても解像度1920×1080で出力され、自動で解像度は変更されません。
- ・ HDMI deep control機能はサポートしていません。

スクリーン

リアルタイム監視モードの動作設定を行うことができます。



- ・ **BRP (Boost Remote Performance) モード使用**：BRPモードが設定されると、リアルタイム監視モードでは全カメラのライブ映像が表示されなくなり、ネットワークバンド幅制限が100Mbpsに向上します。
- ・ **優先**：カメラのライブストリームの優先度、解像度またはフレームレートを選択します。
- ・ **空のグループを省略 (監視)**：監視画面でカメラ登録されていない空グループの表示を省略します。
- ・ **画面フォーマットを含める**：設定…選択ボタンを押し、監視/検索で表示する画面フォーマットを選択します。

イベントモニタリング

イベントモニタリング動作時の表示設定を行うことができます。



- ・ **イベントモニタリング**：イベントモニタリングが設定されると、イベント発生時にイベントモニタリング設定されたカメラ画面を表示します。イベントモニタリングに関しては[第2章－設置－リアルタイム監視－イベントモニタリング機能](#)を参照ください。
- ・ **イベント警告**：イベント警告が設定されると、イベント発生時のイベントモニタリングが連動されているカメラ画面の上段に赤い線が表示されます。
- ・ **イベント状態表示 - カメラ**：状態 > カメラから表示されるカメライベントを追加することができます。

自動切替

モニタ画面の表示切替設定を行うことができます。



- ・ **モード**：フル切替または切替を選択することができます。
- ・ **カメラ切替時間**：3秒～2分まで設定できます。自動切替については[第2章－設置－リアルタイム監視－リアルタイム監視メニュー－⑥自動切替](#)を参照ください。

OSD


OSD(On Screen Display)情報を画面に表示するように設定することができます。



状態について

- **日付、時刻**：日付と時刻を表示します。
- **遠隔制御**：(リモコン操作の許可状態を表示します。)
- **ネットワーク**：装置がイーサネットでネットワークに接続されている場合、表示します。
- **残容量**：上書きモードが実行されているかを表示します。また、上書きモードが実行されていない場合に使用できる残容量を表示します。
- **ユーザー名**：現在のユーザーのログイン状態を表示します。
- **バックグラウンドパネル**：画面下段にバックグラウンドパネルを表示します。
- **RAID再構成**：RAID再構成が表示されます。

カメラについて

- **番号**：カメラ番号がカメラ画面左上に表示します。
- **タイトル**：カメラタイトルをカメラ画面の左上に表示します。
- **録画**：録画やスケジュールに関するアイコンを表示します。
- **オーディオ**：該当するチャンネルのオーディオを出力しているときは、アイコンを表示します。
- **PTZ**：カメラがPTZカメラの場合、**P**アイコンを表示します。
- **PTZ拡大**：カメラがPTZカメラに設定されていれば、拡大モードにおける拡大の倍率を表示します(×2、×3など)。
- **テキストイン**：テキストインデバイスから入力される文字列が表示されます。表示期間を選択し、テ

キストイン文字列が画面に表示される表示期間を設定することができます。テキストイン文字列は単一画面のときだけに表示します。


- **解像度(検索)**：再生モード画面に録画解像度を表示します。
- **コーデック(検索)**：再生モード画面にコーデック情報を表示します。
- **拡大**：拡大された状態を表示します。
- **フリーズ&自動切替**：フリーズ&自動切替アイコンを表示します。
- **画面グループ**：現在の画面グループを表示します。

通知設定

スケジュール

スケジュールリストの左下にある+アイコンを選択し、通知スケジュールを追加することができます。



- **曜日**：曜日別を選択することができます。
- **範囲**：イベント通知時間帯を変更することができます。
- **通知**：イベントを感知したときに実行される通知を選択することができます。**メール、LAN1~5、Push、FTP、HTTP、サマリ**などを設定することができます。
- **コールバック機能**を使用するためには、遠隔プログラムでNVRが登録されている必要があります。
- 設定されたスケジュールの右側のアイコンを押すと、設定されたスケジュールを削除することができます。
- **サマリ-Email間隔**：決められた時間ごとに、イベントの内容を要約したメールを遠隔地に伝送します。

1) デバイス情報のサマリーEmail例

デバイス情報:

- 時刻 : 2026-02-06 12:57:12
- サイト : JS-RW5064
- デバイス名 (UCN名前):
- MACアドレス : 00:03:22:76:B9:24
- IPアドレス : 192.168.100.24

2) カメライベントのサマリーEmail例

サマリー情報:

イベント - カメラ

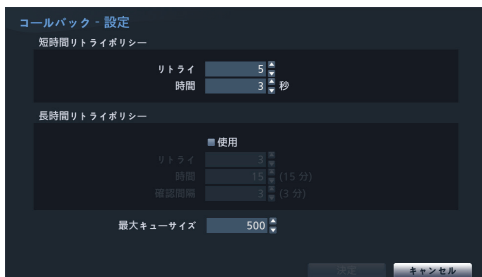
番号	モニタリングゾーン	トリップゾーン	タンバリング	映像信号なし	映像消失	オーディオ検出	顔検出	洋服検出	ラインクロス検出	物体検出	侵入検出	転倒検出	置きあり検出	持ちあり検出	盗難検出
1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

コールバック

遠隔地へのコールバック機能を設定することができます。



コールバックを受信するサーバのIPアドレスを設定し、NVRが遠隔接続に失敗したとき、**リトライ**する回数を1回から10回まで選択することができます。コールバックイベントをリトライするためのポリシーを設定します。設定ウィンドウの右下にある**設定...**ボタンを選択してコールバックリトライポリシーを設定することができます。



• **短時間リトライポリシー**：コールバックイベントをリトライするための短時間ポリシーを設定します。

- **リトライ**：コールバックイベントをリトライする回数
- **時間**：コールバックイベントのリトライ待機の秒単位の時間

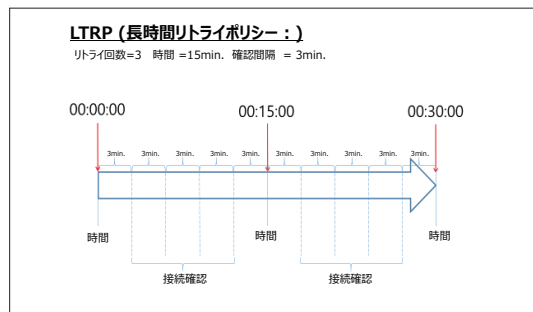
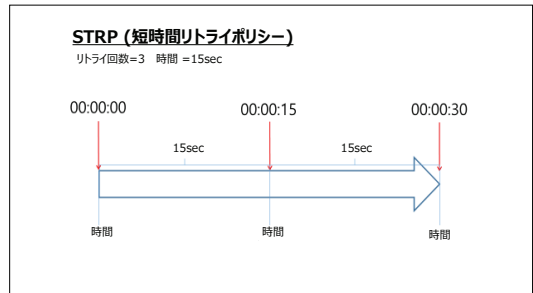
• **長時間リトライポリシー**：コールバックイベントをリトライするための長時間ポリシーを設定します。

- **使用**：長時間リトライポリシー機能を設定することができます。
- **リトライ**：コールバックイベントをリトライする回数
- **時間**：コールバックイベントのリトライ待機の分単位の時間
- **確認間隔**：障害復旧を確認する分単位の時間

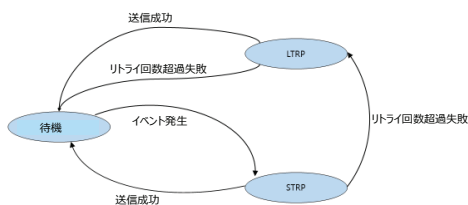
通信障害が頻繁に発生する無線(モバイル)/衛星通信環境ではなく一般の有線ネットワーク通信環境では、特別な理由がない限り長時間リトライポリシー(LTRP)を使用する必要はありません。

• **最大キューサイズ**：コールバックイベントを処理できる最大サイズを設定します。

詳細コールバックリトライポリシーの動作は、以下の図を参照してください。



コールバック状況遷移図



メール

遠隔地へのメール機能を設定することができます。



- ・ **+グループ**：メール受信者グループを追加し、電子メールに添付するイメージファイルの形式について設定することができます。



グループを選択すると、キーボード入力ウィンドウが表示され、グループ名を指定することができます。添付ファイルからCBFを選択するとビデオクリップ形式の、MP4を選択するとMP4形式のイベント映像が当該グループへのメール送信の際に添付されます。

- ✓ **メール通知機能**は、ベストエフォート (Best-effort) サービスであり、保証 (Guarantee) サービスではないため、外部 (3rd-party) ソリューションおよびシステムと同期する時にご注意ください。
- ・ **メール通知機能**は、SMTPプロトコルの特性上リアルタイムを保証しません。

+グループ：メールアカウントを追加することができます。



表示名を選択して受信者の表示名をした後、アドレス項目に受信者のメールアドレスおよびメールサーバを設定します。★を選択すると登録されたメールサーバリストから希望するメールサーバを選択することができます。

- ✓ 受信人のメールアドレスは必ず@を含む、正しい電子メールアドレスの入力しなければなりません。

設定されたメールアカウントの右側の添付ファイルアイコンを選択すると、そのアカウントにメールを送信するときにイベント映像が添付されます。

設定されたメールアカウントの右側の×アイコンを押すと、設定されたアカウントを削除することができます。

SMTPを設定する

メールアカウント設定ウィンドウの右上に**SMTP設定**を選択し、SMTPサーバを設定することができます。

- 1 SMTPサーバの**タイプ**を選択してください。
- 2 **SMTPサーバ**のIPアドレスまたはドメインネーム、SMTPサーバの**ポート番号**、**発信人**を設定してください。



SMTPサーバのポート番号の初期値は**25**です。**テスト**を選択すると、現在設定されたアドレスにメールが送信されテストすることができます。サーバが対応している接続方式に応じてSSL/TLSまたはSTARTTLSを選択して使用することができます。

- ✓ **ネットワーク - WAN**設定でDNSサーバを設定した場合、**SMTPサーバ**項目にSMTPサーバのIPアドレスの代わりにドメイン名を入力することができます。
- ・ **発信人**には必ず@を含む、正しい電子メールアドレスの入力しなければなりません。

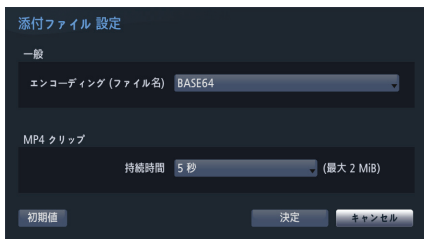
SMTPサーバにユーザー認証が必要な場合**使用**を選択し、ユーザー認証を使用するかどうかを選択したあと、**ユーザー名**と**パスワード**を設定します。



3 決定を押して設定を終了してください。

- 本製品には、Open SSL Toolkitに使用される目的で OpenSSL Projectで開発した内容が含まれています (<http://www.openssl.org/>)。

添付ファイル設定



- **エンコーディング(ファイル名)**：添付ファイル名に対するエンコーディングをBASE64またはPLAIN-TEXTに設定できます。
- **優先**：メールおよびFTP添付ファイルに対するストリーム映像をメインストリームまたはサブストリームに設定できます。
- **MP4 クリップ**：メール送信時、イベント映像が添付され、MP4クリップの録画時間を設定できます。

- カメラが発生させるイベントに関する映像だけが添付されます。

Push

遠隔地へのプッシュ機能を設定することができます。



プッシュ機能の使用するにはPushを選択してください。プッシュ機能を設定すると、イベント発生時にモバイルで開

連メッセージ受信ができます。

- NVRで発生したイベントをモバイル(Android, iOS)で受信することができます。NVRがモバイルに登録され、設定されている必要があります。

FTP通知



FTP機能を設定すると、イベント発生時にFTPサイトにイベントが感知されたイメージまたはビデオクリップをアップロードすることができます。画面の左下にある+を選択し、FTPサイトを追加することができます。

- **FTP**：スクリーンキーボードを利用してFTPサイト情報を入力することができます。
- **アップロードファイル**：FTPサイトにアップロードするファイルフォーマットを選択することができます。

- FTPサイトは最大5つまで登録することができます。



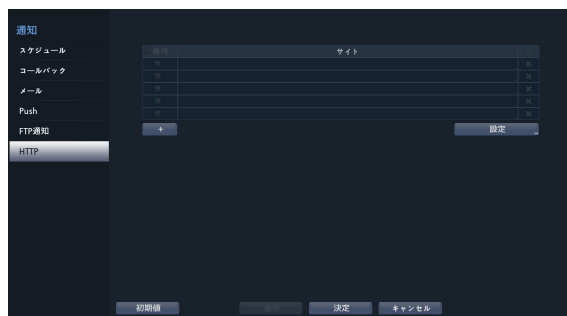
- **サイト**：登録されているFTPサイトのリストが表示されます。リストからFTPサイトを選択します。NetFSサイトの**使用設定がすべて、またはバックアップ以外の設定になっている場合、そのFTPサイトを選択することはできません。**ネットワーク-NetFS設定画面で**使用設定を変更したり、他のFTPサイトを登録したり**することができます。
- **アップロードファイル**：CBFまたはMP4を選択することができます。**CBF**を選択する場合、イベントが感知されたビデオクリップをFTPサイトにアップロードします。**MP4**を選択する場合、イベントが感知された映像フ

ファイルをFTPサイトにアップロードします。

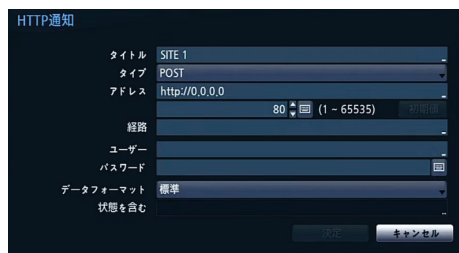
- FTP通知機能を正しく動作させるためには、ネットワークNetFSで使用設定、イベント→動作でFTP通知設定を行う必要があります。
- ネットワークNetFS設定画面でFTPサイトを削除すると、通知→FTP設定画面でも該当するFTPサイトが削除されます。
- イベントアップロード機能は、ベストエフォート(Best-effort)サービスであり、保証(Guarantee)サービスではないため、外部(3rd-party)ソリューションおよびシステムと同期する時にご注意ください。
- イベントアップロード機能は、機能設計特性上リアルタイムを保証しません。
- 短い時間にたくさんのイベントが発生した場合、ビデオクリップがFTPサイトにアップロードされないことがあります。
- システムイベントには対応しません。
- アップロードが数回失敗すると、そのビデオクリップは削除されます。
- NVR起動時にアップロードされなかったビデオクリップはすべて削除されます。

HTTP

遠隔地のHTTPサーバーにイベント発生のお知らせおよび伝達をします。HTTPサーバーには、イベントおよびNVR情報をJsonタイプで伝送します。



設定ウィンドウの左下にある+ボタンを選択してHTTP通知サーバーの情報を入力します。



- **タイプ**：HTTPメッセージの要求方法を選択します。
- **タイトル**：HTTP通知サイト名を入力します。

- **アドレス**：HTTP通知を受けるためのアドレスを入力します。
- **経路**：HTTP通知サーバーアドレスの経路を入力します。
- **ユーザー、パスワード**：HTTP通知サイトに接続するための情報を入力します。
- **データフォーマット**：送信するメッセージのデータフォーマットを設定します。
- **状態を含む**：HTTP通知に含める状態を選択します。

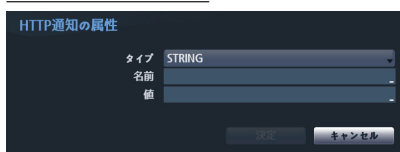
HTTP通知の設定

HTTPイベント発生を伝達する時に含む属性とパラメータを設定します。設定ウィンドウの右下にある設定...ボタンを選択してHTTP通知設定を入力することができます。下記のようなウィンドウが表示されたら、+ボタンを選択してHTTP通知属性(タイプ、名前、値)を設定することができます。



- **HTTPリクエストのパラメータ**：HTTPリクエストに対するタイムアウト、リトライ、遅延時間(リトライ)を設定します。
 - **タイムアウト**：最初の接続の試みに許容される最大時間
 - **リトライ**：接続に失敗した場合、接続をリトライする回数
 - **遅延時間(リトライ)**：リトライと次のリトライの間の時間

HTTP通知の属性

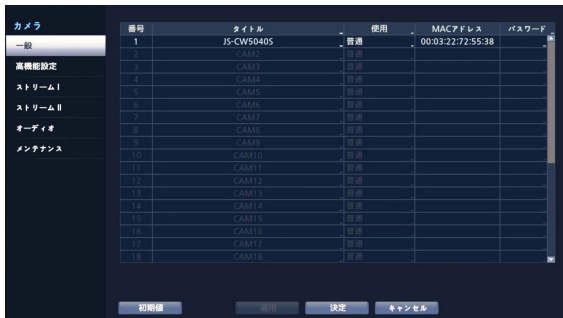


- **タイプ**：HTTP通知属性によってBOOL、INT32、FLOAT32、STRINGのうち一つを選択します。
- **名前**：HTTP通知属性名前を入力します。
- **値**：HTTP通知属性値を入力します。

カメラ設定

一般

カメラを使用するか否かを選択したり、タイトルを編集したりすることができます。



- ・ **タイトル**：カメラのタイトルを編集することができます。
- ・ **使用**：普通、隠し1、隠し2に設定することができます。隠し1または隠し2で設定する場合、隠しカメラを見る権限のないユーザーは、そのカメラの映像を監視・再生できません。隠し1の場合は映像は表示されませんが、様々なOSDは表示されます。隠し2の場合はカメラが未接続のように映像だけではなくOSDも表示されません。

高性能設定

カメラのセキュリティレベルを設定したり、カメラの全般的な設定を行ったりすることができます。



- ・ **ビデオ**：カメラの映像センサー設定、ホワイトバランス、露出などの設定ができます。カメラによって設定項目が異なる場合があります。
- ・ **プライバシーマスキング**：プライバシーマスキングの動作有無やエリア設定が可能です。
- ・ **PTZ**：機能を搭載したカメラの場合、PTZモードを使用できるように設定します。
- ・ **VAエンジン**：カメラの映像分析機能を使用すると

きの物体検出、顔検出、置き去り検出、持ち去り検出、転倒検出、混雑検出のための詳細な設定をすることができます。

VAエンジン設定は物体検出、侵入検出、滞留検出、ラインクロス検出、顔検出イベントに影響を与えます。

以下の機能の設定は実際のカメラの種類によって異なる場合があります。



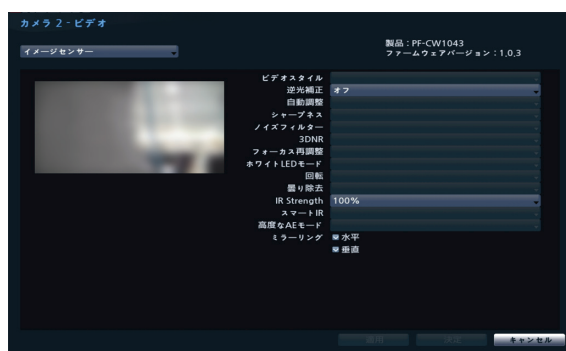
- **使用**：該当イベントを使用するかどうかを設定します。
- **メタデータ／属性**：該当イベントでメタデータおよび属性を使用するかどうかを設定します。（※属性はメタデータを有効にした場合のみ有効になります。）
- **昼間／夜間しきい値**：昼間／夜間で使用する閾値を設定することができます。（※群集検出イベントは閾値に対応していません。）
- **動きの無いオブジェクトを無視**：屋内空間における特定の固定物体に対する誤検知を回避することができます。ただし、本設定は動きの少ない屋内環境での使用を推奨しており、徘徊イベントを使用する場合には非推奨です。
- ・ **SSL**：カメラのセキュリティレベルを使用しない、標準、良い、とても良いのいずれ一つに変更することができます。標準、高、最高に設定された場合、SSL (Secure Sockets Layer) 認証を利用したセキュリティ機能が適用されます。



カメラのセキュリティレベルがとても良いに設定されたカメラが多いほど、ビデオ/オーディオなど、受信データの復号化によって、レコーダ負荷が多く発生して指定された全体録画性能が低下して設定通りに動作しない場合があります。この場合、多数カメラのセキュリティレベルを下げたり、レコーディングのビットレートを低めてレコーダ負荷を必ず改善する必要があります。

- ・ **入力**：ビデオエンコーダに接続されたカメラの入力方法と解像度を設定します。
 - **タイプ**：カメラの入力方法を選択します。
 - **モード**：カメラの解像度を選択します。
- ・ **総VA処理量**：X.X（最大：X.X）
 総VA処理量が、最大数値を超えないように、VAエンジンを使用するカメラチャンネル数やVAエンジンを使用する機能数を設定してください。
 この機能の詳細については購入先までお問い合わせください。

イメージセンサー設定

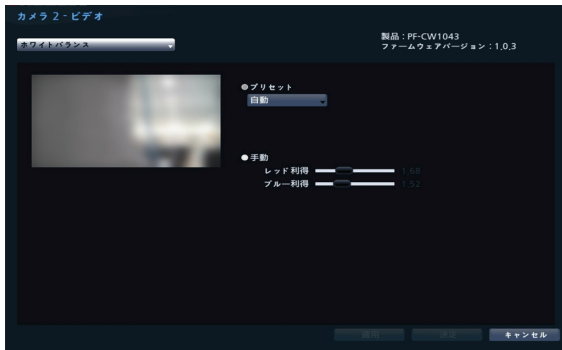


- ・ **製品、ファームウェアバージョン**：カメラ名、モデル名およびソフトウェアバージョンを表示します。
- ・ **ビデオスタイル**：TV色またはPC色を選択することができます。
- ・ **逆光補正**：逆光補正機能のON/OFFを設定します。逆光補正を使用する場合、逆光のときでも被写体をより明るく映します。
- ・ **自動調整**：自動を選択すると、システムがカメラの設置された場所の照明を感知し、適切な値を自動で設定します。手動を選択すると、ユーザーが手動で値を調節することができます。
- ・ **シャープネス**：映像の鮮明度を設定します。映像の輪廓を調節し、鮮明度を補正することができます。値が大きいほど映像が鮮明になりますが、大きすぎる場合には映像にノイズが発生することがあります。
- ・ **ノイズフィルタ**：ノイズフィルタの強度を設定します。照度が低い場所で映像のノイズを減らすことができます。値が大きいほどノイズが減りますが、大きすぎる場合には映像が全般的にぼやけることがあります。
- ・ **3DNR (3Dノイズの除去)**：3DNRを使用するか否かを設定します。3DNRを使用する場合、低照度の環境でも背景のノイズを減らすことができます。3Dノイズフィル

- タを適用すると映像がぼやける現象はなくなりますが、画面を引きずる現象(残像)が発生することがあります。
- ・ **フォーカス再調整**：昼夜間が切り替わるとカメラのフォーカスを再調整します。
 - **オン/オフ**：フォーカス再調整をオン/オフします。
 - **昼夜モードへ変更**：カメラが昼間または夜間と映像が切り替わる場合、カメラのフォーカスを再調整します。
 - **IRへ変更**：カメラがIRを感知してIR環境の場合、フォーカスを再調整します。
- ・ **ホワイトLEDモード**：PIRセンサにより動きを検出したとき、自動/On/OffにてホワイトLEDを点灯するか否かを設定します。
- ・ **回転**：回転機能を使用するか否かを設定した後、方向を選択します。回転機能を使用する場合、映像を時計回り、あるいは反時計回りに90度回転させます。ただし、垂直解像度が320より小さい場合、本機能には対応しません。本機能を使用すると、廊下や通路など細長い空間を監視するとき、より効果的に監視することができます。
- ・ **曇り除去**：本機能を使用するかどうかを設定します。本機能を使用すると霧のかかった映像を補正して表示してくれます。
- ・ **IR Strength**：IR LEDの明るさを調節します。項目を選択すればIR LEDセンサが照度を感知し、明るさを自動的に調節します。項目を選択しなければ明るさを手動で0~100%まで設定することができ、値が大きいほど明るくなります。
- ・ **スマートIR**：被写体が近づいてきた時に、赤外線の光量を調節して白とびを抑え、より鮮明にします。本機能をサポートしていないカメラの場合は、その機能は表示されません。
- ・ **高級なAEモード**：普通または番号識別の中から設定モードを設定します。番号識別モードでは照度が低い場所で逆光によって映像の特定の部分が明るすぎてそれ以外の部分が暗すぎる場合、その特定の部分の逆光を遮断しそれ以外の部分の映像をより明るくて鮮明に見ることができます。例えば、暗い駐車場の入口や夜間のガソリンスタンドの入口で車のヘッドライトに強く照らされたとき、ヘッドライトの光だけを遮断して車のナンバープレートを識別することができます。番号識別モードを選択すると映像センサの一部の設定値が番号識別モードで適切な値が自動的に適用され、ユーザーが任意で変更することはできません。
- ・ **ミラーリング**：水平または垂直項目を選択し、映像を左右または上下に反転させます。

- カメラ設定を行ったあと**適用**を選択すると、左画面で設定が適用されたカメラの映像を確認することができます。**適用**または**決定**を選択すると、ダイアログボックスで設定が成功しているか確認することができます。

ホワイトバランスの設定



- プリセット**：予め設定しておいたホワイトバランス値を環境に合わせて選択します。
 - **自動**：ホワイトバランスを自動調節します。システムがカメラの設置された場所の照明を感知し、適切なホワイトバランスに自動設定します。
 - **白熱灯～蛍光灯(ダーク)**：カメラが設置された場所の照明を選択すると、環境に合ったホワイトバランスが設定されます。
- 手動設定**：ホワイトバランスを手動で調節できます。RedおよびBlue利得が調節でき、値が大きいほどその色が強調されます。

- カメラ設定を行ったあと**適用**を選択すると、左画面で設定が適用されたカメラの映像を確認することができます。**適用**または**決定**を選択すると、ダイアログボックスで設定が成功しているか確認することができます。

露出設定



- ターゲット利得**：露出補正のためのターゲット利得を設定します。選択したターゲット利得を基準として自動的に露出が補正されます。値が大きいほど全般的に映像が明るくなります。
- ローカル露出**：逆光などにより生じる人物や被写体の黒つぶれをデジタル処理して明瞭にします。映像に暗過ぎる部分と明る過ぎる部分が同時にある場合、明るい領域を保ちながら暗い領域の明るさを上げ、全体の明暗コントラストを平均的にする機能です。
- アンチフリッカー**：カメラが設置された場所の照明が蛍光灯のように交流電源(AC)を使用する場合、照明の周波数と同じ周波数を設定します。周波数の差による画面のちらつき現象を減らすことができます(東日本：50Hz、西日本：60Hz)。
- スローシャッター**：スローシャッターモードのスピードを設定します。スピードを選択すると、照度が低い場合は電子シャッターのスピードがそのスピードに落ちて、照度が低い時でも明るい映像が得られますが、動きのある被写体はブレ易くなります。カメラモデルによって動作が異なることがあります。詳細な動作方法は、カメラの取扱説明書をお読みください。
- フォーカスモード**：フォーカス移動を自動／手動／半自動に変更することができます。この機能はモデルによって対応しない場合があります。
- WDR**：WDR(Wide Dynamic Range、広域補正)を使用するか否かを設定します。WDRを使用する場合、映像に暗すぎるところや明るすぎるところが同時に存在する場合、両エリアとも確認することができます。
- IRIS**：レンズのアイリスタイプを選択します。
 - DC-IRIS
 - **オフ**：手動絞りレンズが装着されている場合、選択します。
 - **DC IRIS(自動)**：DCタイプ自動アイリスレンズが装着されている場合、選択します。
 - P-IRIS
 - **P-IRIS(自動)**：システムが、カメラが設置された場所の照度を感知して絞りの開放の程度を自動で設定します。
 - **P-IRIS(固定)**：スライダーを使ってユーザーが絞りの開放の程度を指定します。カメラが設置された場所の照度に適切な値を設定します。
- Iris コントロールレベル**：レンズ絞りの開放の度合いを設定します。レベルが大きいほど明るく見

え、レベルが小さいほど暗く見えます。

- ・ **露光制御**：露光制御を設定します。**アンチフリッカ**および**スローシャッター**がすべて**オフ**に設定されている場合のみに対応します。
 - **自動**：システムがカメラの設置されている場所の照度を感じ、適切な速度を自動的に設定します。
 - **手動**：スライドバーを利用してユーザーがスピードを指定します。カメラが設置されている場所の照度に適切な最低速度および最高速度を設定します。(1/30秒～1/8000秒)

- カメラ設定を行ったあと**適用**を選択すると、左画面で設定が適用されたカメラの映像を確認することができます。**適用**または**決定**を選択すると、ダイアログボックスで設定が成功しているか確認することができます。

Day & Night



- ・ **白黒モード**：白黒モードでは映像を白黒にして、照度の低い場所でも映像をきれいに映すことができます。
 - **オン/オフ**：白黒モードをオン/オフします。
 - **自動**：カメラの設置環境によって、システムが自動的に白黒モードを設定または解除します。
 - **スケジュール**：白黒モードのスケジュールを設定します。昼間に設定された日付や時間の間に白黒モードが解除され、それ以外には白黒モードが設定されます。

- スケジュール機能に対応していないカメラの場合、その機能は表示されません。

- ・ **IRモード**：IRモードを使用する場合、カメラが赤外線を制御します。照度が高い場所では赤外線を遮断し、照度が低い場所では赤外線遮断を解除してどのような照度環境でも映像を鮮明に録画することができます。

- **デイモード/ナイトモード**：昼間または夜間モードに設定します。
- **自動**：カメラの設置環境によって、システムが自動的にIRモードを使用するか否かを設定します。
- ・ **スケジュール**：IRモード使用スケジュールを設定します。デイモードに設定された日付・時刻にはIRモードが解除され、それ以外ではIRモードが作動します。

- スケジュール機能に対応していないカメラの場合、その機能は表示されません。

モード切替：昼間/夜間モードの切り替え方式を設定します。一般モードでは照度センサに照射される光量を通して昼間、または夜間モードに切り替えます。高級モードでは、照度センサに照射される光量とカメラ映像を分析して、昼間、または夜間モードに切り替えます。

- ・ **感度調整**：感度レベルによって、デイモードまたはナイトモードの変更時点が調節されます。レベル値が高ければ高い照度で、低ければ低い照度でデイモード/ナイトモードが切り替わります。

ビューモード



- ・ **タイプ**：カメラのビューを変更することができます。
- ・ **モード**：リアルタイム監視モードでの画面レイアウトを変更することができます。

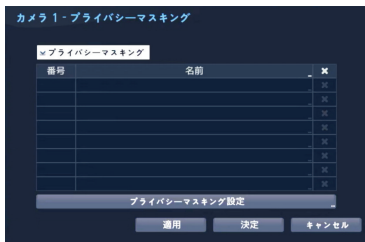
- モードをオリジナルに設定した場合はDeWarping機能には対応していません。

その他



- **イメージブレ保証**：イメージブレ保証モードを設定します。風などの外的な要因によってカメラに振動が発生する場合、映像のぶれを緩和してくれます。
- **Video Out**：アナログ映像信号出力タイプをNTSCまたはPALに選択することができます。
- **ヒーターモード**：ヒーターを使用するかどうかを設定します。オンの場合、カメラの温度がヒーター作動温度より低ければヒーターが作動します。オフの場合、温度に関係なくヒーターは作動しません。
- **映像出力ミラーリング**：アナログ映像信号出力がCVBSの場合、画面を反転させることができます。

プライバシーマスキング設定



名前を選択すると、設定されたプライバシーマスキングエリアの名前を変更することができます。設定されたプライバシーマスキングエリアは、アイコンを押して個別に削除するか全体を削除します。**プライバシーマスキング設定**を選択すると、エリア設定画面が表示されます。マウスでドラッグしてプライバシーマスキングエリアの大きさを自由に設定することができます。なお、最大16のエリアを追加することができます。

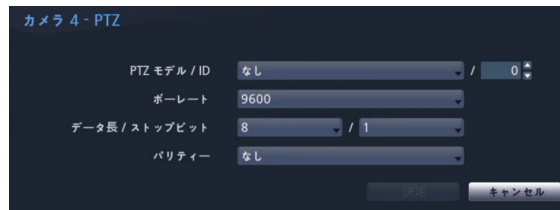


- **編集**：設定されたプライバシーマスキングエリアの名前

を変更します。

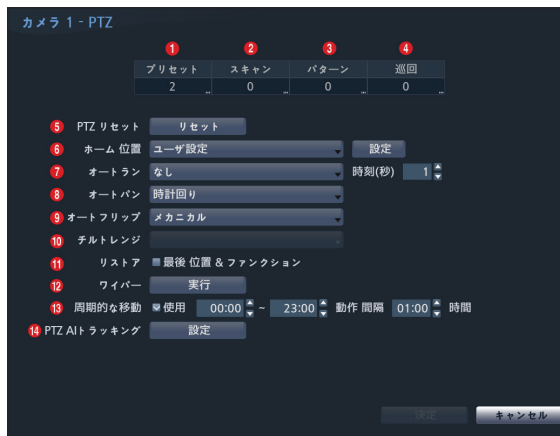
- **削除**：設定されたプライバシーマスキングエリアの名前を削除します。
- **保存**：設定を保存し、エリア設定画面を閉じます。
- **キャンセル**：変更した内容を保存せず、エリア設定画面を閉じます。

PTZ設定



- **PTZ製品**：設置されたPTZカメラの種類を選択します。
- **ID**：各PTZカメラのID番号を指定します。
- **ボーレート/データ長/ストップビット/パリティ**：値を設定することができます。

- 設定に関する詳しい内容は、PTZカメラの取扱説明書をお読みください。
- カメラが対応するPTZ種類によって表示される設定ウインドウが異なります。



- プリセット、スキャン、パターン、ツアーの各項目で表示される数字は、設定された機能の個数です。

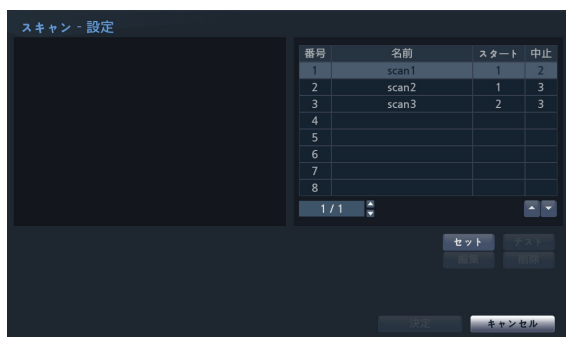
- ① **プリセット**：下のボタンを利用して、プリセットの位置を設定します。



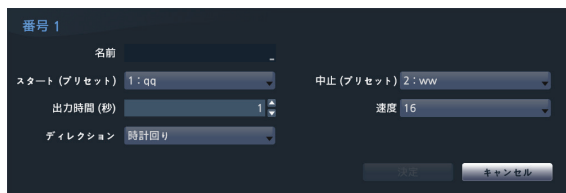
方向ボタン(): カメラをパンまたはチルトしてカメラの方向を調整します。

- 拡大(): 映像を拡大または縮小します。
- フォーカス(): 近くにまたは遠くにある映像にカメラのフォーカスを合わせます。
- 速度: カメラのパンチルトの速度を設定します。
- セット: プリセット番号を選択したあと、プリセットの名前を入力します。現在の位置がそのプリセットの番号および名前として保存されます。
- 移動: リストからプリセットを選択してボタンをクリックすると、カメラが選択したプリセットの位置に移動します。
- 編集: プリセット名を変更します。
- 削除: プリセットを削除します。

- ② スキャン: スキャン機能を設定し、予め指定した2つの地点をカメラ移動させることができます。スキャン機能を有効にするためには、プリセットは2つ以上設定されている必要があります。



- セット: スキャン機能を設定します。



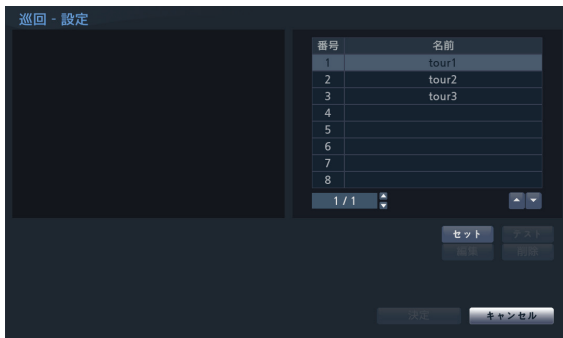
- 名前: スキャン名を入力します。
- スタート/中止: スキャンを開始/終了するプリセットの位置を選択してください。
- 出力時間(秒): カメラがスキャンをスタートして終了する位置までの時間を設定します。
- 速度/ディレクション: スキャンの速度および方向を設定します。
- テスト: スキャン番号を選択してボタンをクリックすると、スキャン機能をテストします。
- 編集: スキャン設定を変更します。
- 削除: スキャンを削除します。

- ③ パターン: パターンの機能を設定すると、予め指定されて経路でカメラを移動させることができます。



- 設定スタート: パターン番号を選択したあと、パターン名を入力し、決定ボタンを押すとカメラの動きが保存されます。方向、拡大、フォーカスボタンを利用し、カメラを動かしたあと、録画停止ボタンをクリックすると保存されます。最大2分間の動きを保存することができます。
- 方向ボタン(): カメラをパンまたはチルトしてカメラの方向を調整します。
- 拡大(): 映像を拡大または縮小します。
- フォーカス(): 近くにまたは遠くにある映像にカメラのフォーカスを合わせます。
- 速度: カメラのパンチルトの速度を設定します。
- テスト: パターンを選択してボタンをクリックすると、パターン機能をテストします。
- 編集: パターン設定を変更します。
- 削除: パターンを削除します。

- ④ 巡回: ツアー機能を設定し、カメラが複数の機能をすでに指定しておいた順番に遂行するようにできます。



- ・ **セット**: ツアー機能を設定します。

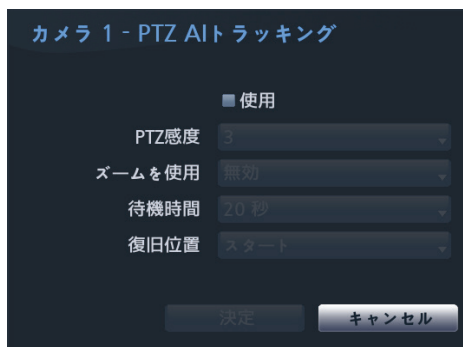


- **名前**: ツアー名を入力します。
- **番号**: 実行する機能の順番を表示します。
- **出力時間 (秒)**: その機能が維持する時間を設定します。
- **速度**: プリセット動作の速度を設定します。
- ・ **テスト**: ツアーを選択してボタンをクリックすると、ツアー機能をテストします。
- ・ **編集**: ツアー設定を変更します。
- ・ **削除**: ツアーを削除します。

プリセット、スキャン、パターン、ツアー設定を行ったあと**適用**を選択すると、左画面で設定が適用されたカメラの映像を確認することができます。**適用**または**決定**を選択すると、ダイアログボックスで設定が成功しているかどうか、確認することができます。

- ⑤ **PTZリセット**: カメラのパンチルト、または拡大設定を動作以前の状態に戻します。
- ⑥ **ホーム位置**: カメラのホームポジションを設定します。
 - ・ **初期値**: 工場出荷時に設定された初期位置をホーム位置に設定します。
 - ・ **ユーザー定義**: ユーザーが変更した位置をホーム位置に設定します。

- ・ **設定**を選択し、ホーム位置を変更することができません。
- ⑦ **オートパン**: 設定された時間の間にカメラが制御されないときに実行する機能を設定します。
- ⑧ **オートパン**: カメラのパンの方向を設定します。遠隔プログラムでオートパンを実行するとき、設定された方向にパン機能が作動します。
- ⑨ **オートフリップ**: カメラが90度以上チルトするとき、物体が反対に見えることを防止するため自動的に映像またはカメラを反転させます。
 - ・ **デジタル**: 映像を左右または上下に反転させます。
 - ・ **メカニカル**: カメラを自動でパンまたはチルトします。
 - ・ **オフ**: 自動反転機能を解除します。
- ⑩ **チルト - 範囲**: カメラのチルト範囲を設定します。
- ⑪ **リストア**: カメラの最後の位置および機能を復帰するか否かを設定します。復帰機能を使用する場合、カメラの再起動時にその直前の位置に移動したり、最後に遂行していた機能を遂行したりします。
- ⑫ **ワイパー**: カメラのワイパーを動作します。
- ⑬ **周期的な移動**: 設定したスケジュール期間の動作周期ごとにPTZカメラを動作します。
- ⑭ **PTZ AIトラッキング**: AIイベントが発生した場合に実行するPTZ AIトラッキングの設定ができます。



- **使用**: 機能を使用するか否かを設定することができます。
- **PTZ感度**: 1(低感度)~5(高感度)の間の5段階に感度を変更することができます。
- **ズームを使用**: 物体を追跡するときにズーム機能を使用するかどうかと物体のサイズを選択します。物体サ

イズを大きく設定すると、画面で物体が大きく出力されます。

- **待機時間**：物体の追跡が完了した位置を設定した時間分だけ監視して復旧位置にPTZを移動させます。
- **復旧位置**：追跡後、復旧する位置を選択します。

リセット：ポートまたはカメラをリセットします。

- **ソフトリセット**：カメラを再起動することができます。
- **ファクトリーリセット**：カメラを工場出時の初期設定に戻すことができます。本機能はJSS2プロトコル対応カメラの場合にのみ対応します。

モード：解像度モードを選択することができます。本設定はビデオエンコーダーが接続されている場合のみに対応します。

ストリーム I



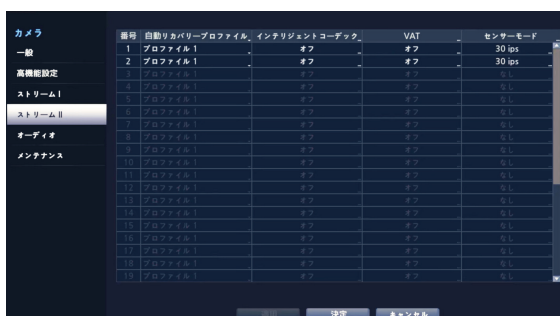
カメラの監視/録画映像の解像度、画質、フレーム数を設定することができます。

- **カメラチャンネル**：カメラごとにストリームを設定することができます。
- **ビットレート状態**：各ストリームビットレート値中に一番高い値が現れます。設定ボタンを押して各チャンネルの設定割り当てを変更することができます。詳しい内容は**第2章 ー 設置 ー カメラ登録**を参照ください。
- **■+□**：カメラチャンネルで選択されたカメラのビデオプロファイルの設定値を、他のチャンネルのカメラにコピーすることができます。
- **ビデオプロファイル**：現在設定されている監視映像の品質を確認し、遠隔ビデオプロファイルの設定を変更することができます。
- **録画ビデオプロファイル**：4つの録画品質から選択して設定することができます。
- **ビデオプロファイル**：ストリーム1、ストリーム

2、ストリーム、カスタム(録画ビデオプロファイルのみで選択可能)の中の1つを選択することができます。

- **コーデック**：H.264、H.265に対応します。
- **解像度**：カメラが対応する解像度の中から一つを変更できます。解像度は設定されたビデオプロファイルを考慮して、自動的に最大設定値が制限されます。
- **画質**：最高画質、高画質、標準画質、低画質、手動の中から一つを選択することができます。画質はそれぞれ設定することができます。
- **VBR/CBR**：CBR、VBRの中から一つを選択することができます。CBRに設定されると伝送されるデータの量が固定されます。一方、VBRに設定されると伝送されるデータ量が映像の動きによって可変的に変動します。
- **ips**：速度は1～30まで設定することができます。最大ipsは設定されたビデオプロファイルを考慮し、自動で最大設定値が制限されます。

ストリーム II



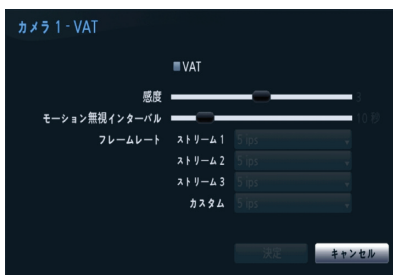
カメラの自動リカバリプロファイル、インテリジェントコーデック、VATを設定することができます。

- **自動リカバリプロファイル**：自動リカバリで使うビデオプロファイルを選択します。
- **インテリジェントコーデック**：知能型コーデックを使用してビットレートを下げます。
 - 本機能をサポートしていないカメラの場合は、その機能は表示されません。
 - インテリジェントコーデック設定時、映像分析機能の開始が最長10秒まで遅くなることがあります。
- **VAT設定**：VAT項目を選択すると、映像の転送および録画時にVAT (Video Adaptive Transmission) 機能を使用できます。



- カメラのVAT (Video Adaptive Transmission) 機能が有効になっている場合連動した画像解析装置が正常に動作しない場合があります。
- 映像解析の精度を高めるためには、連動するカメラのVAT機能を使用していないことをお勧めします。
- 本機能をサポートしていないカメラの場合は、その機能は表示されません。

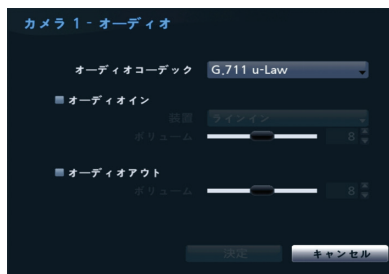
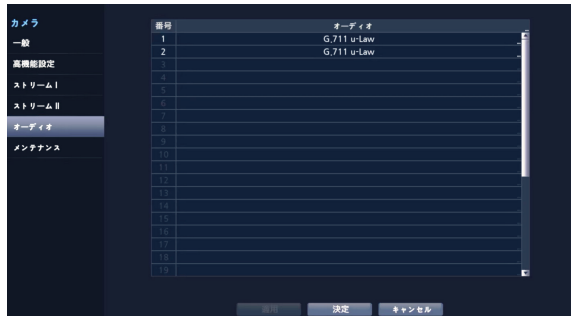
**モーション連動バンド幅制御 (VAT) 機能は画面上の動きが一定期間ないとfps (伝送フレーム数/秒) を下げてネットワークの負荷を減らしストレージ容量を節約する機能です。ユーザーは“モーション無視インターバル”を調整してモーション連動バンド幅制御 (VAT) 機能の周期を変更することができます。モーション連動バンド幅制御 (VAT) 機能が作動している間にモーションが感知されると以前のfpsにすぐ復旧されます。



- **感度**：昼間と夜間のそれぞれに対してモーション感知に対する感度を設定します。値が大きいほどモーションをより敏感に感知します。
- **モーション無視インターバル**：モーション無視インターバルを設定します。モーション無視インターバルの間モーションが感知されない場合、モーション無視インターバル以降モーションが感知されるまで、下記で設定するフレームレートで映像を配信および録画します。
- **モード**：対応しているカメラでは、カメラの解像度モード 16:9/4:3 を選択できます (設定変更するとストリームで設定可能な解像度に変更・リセットされます)。

オーディオ

カメラの録音関連機能を一括して設定することができます。



- **オーディオコーデック**：オーディオコーデックを選択します。(G.711 u-Law、G.711 a-Law、G.726、ADPCM16KHz または OPUS16KHz)



サポートされるオーディオ コーデックの種類は、カメラのモデルによって異なる場合があります。

- **連動オーディオイン (Associated Audio In)**：選択したオーディオチャンネルをカメラに連動させます。本設定はビデオエンコーダーの場合にのみ対応します。
- **オーディオイン**：オーディオ入力ソース (マイクまたはラインイン) を選択してボリュームを調節します。ノイズフィルタ機能とは、環境雑音を低減させながら、音声を強化する機能です。ノイズフィルタをつくると音声が多量歪曲されかねないし、歌声が大きな場所で使用すると性能が低下しかねないので、使用しないことを推奨します。
- **オーディオアウト**：ボリュームを調節します。



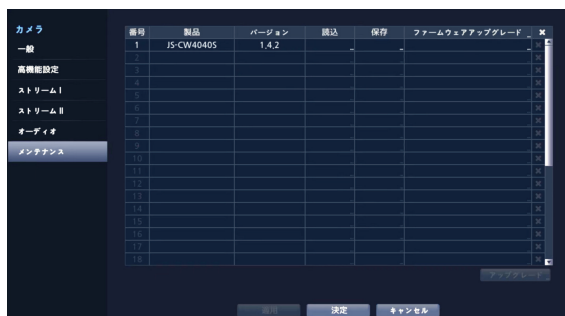
カメラはオーディオ出力アンプを実装していないため、ユーザーはアンプとスピーカを用意する必要があります。

メンテナンス

各ネットワークカメラの**ファームウェアアップグレード**を選択すると、USB検索ウィンドウが表示されます。

USBに接続されているフラッシュメモリまたはHDDからアップグレードパッケージファイルを選択してください。


各々のカメラのアップグレードパッケージファイルを選択して適用ボタンを押すと、カメラをアップグレードできます。また、カメラの設定を 読込/保存することができます。

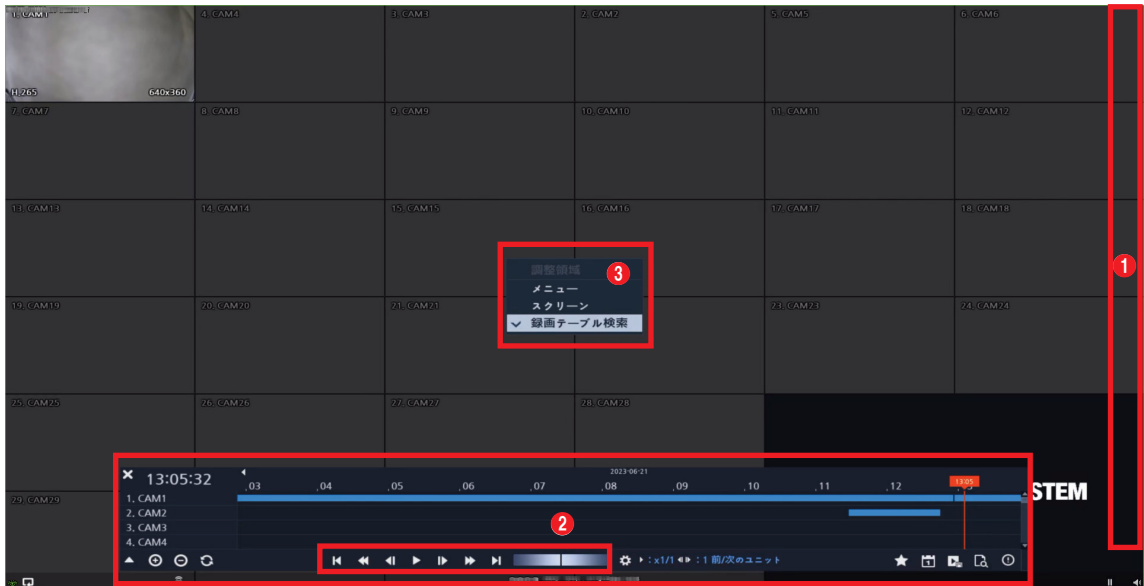


- アップグレードを失敗すると失敗メッセージが表示されます。失敗メッセージは**第6章 — 付録 — エラーコードの種類**を参照ください。
- アップグレードが終了したら、ネットワークカメラは再起動され自動的に接続されます。

第4章一検索

タイムラプス検索

リアルタイム監視モードで**検索モードアイコン**  を選択し、**タイムラプス検索**、または**イベントログ検索モード**、またはサムネイル検索モードを選択して実行することができます。



- 1 マウスを**検索メニュー**①や**録画テーブル**②のエリアに移動すると、メニューや録画テーブルが表示されます。
- 2 カメラ画面上でマウスを右クリックすると**コンテキストメニュー**③が表示されます。
- 3 各項目をマウスで選択して使うことができます。
- 4 **検索メニュー**①、**録画テーブル**②、**コンテキストメニュー**③の詳細は、次の項目で説明しています。

コーデック (CODEC) デコーダーメモリが足りない場合「OUT OF CODEC MEMORY」OSDが中央画面に表示されます。解決方法は下記の通りです。

1. 該当ビデオパネルを選択して単一画面に切り替えます。 2. または、画面のレイアウトをカメラが少ないチャンネルのレイアウトに変更し、再生するチャンネルを選択してグループ編集機能でカメラの位置を変更します。 3. または監視モードに変更した後、再度検索モードにします。

負荷が高い環境、または高機能な設定を使用する場合、システム装置（例：記録装置など）の性能が不足することがあります。この場合、システムは検索性能を一時的に制限します。

ローカル検索時に、性能制約に関するライブメッセージが頻繁に表示される場合は、システム負荷を軽減する必要があります。例えば、映像のビットレートを下げる、イベント発生頻度を減らす、または遠隔クライアント（特に検索機能を使用するクライアント）の同時接続数を減らすことで、システム負荷を軽減できます。

検索メニュー



1 レイアウト

画面のレイアウトを切り替えます。

2 ディスプレー

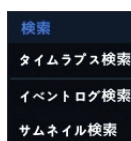
- ・ **フルスクリーン オン/オフ**：全体画面モードを設定します。
- ・ **カメラ OSD オン/オフ**：カメラOSD機能を有効化(オン)、または無効化(オフ)します。
- ・ **状態 OSD オン/オフ**：状態OSD機能を有効化(オン)、または無効化(オフ)します。
- ・ **比率維持 オン/オフ**：比率維持オン設定すると領域に合わせてカメラのオリジナル映像比率で映像を出力します。

3 前画面グループ/次画面グループ

現在の画面グループから前画面グループ、または次画面グループに移動します。

4 検索モード

タイムラプス検索/イベントログ検索/サムネイル検索を変更して検索します。

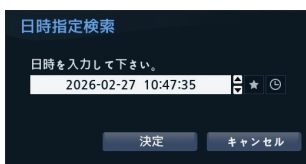


5 監視モード

リアルタイム監視モードに切り替わります。

6 移動

日付と時間で録画映像を検索することができます。移動する日時を設定して移動を押すと、検索にヒットした録画映像に移動します。右側の★(ブックマーク)ボタンを選択すると、保存されたブックマークの位置に移動することができます。⌚(時間移動)ボタンを選択すると、現在の時刻を基準に、10秒～1時間前に移動することができます。



7 カメラ

カメラチャンネルを選択し、そのチャンネルを単一画面に切り替えます。

8 拡大

映像を拡大することができます。

9 緊急録画

緊急録画機能を使用できます。(設定で、緊急録画使用を有効にしている場合)

10 アラーム

アラームが動作している間、内部ブザーを含むNVRのアラーム出力をリセットします。

11 データベース

- ・ **録画**：本装置の保存デバイスに録画されたデータを検索することができます。
- ・ **外部**：他装置で使用していたディスクを接続すると、録画されているデータを検索することができます。

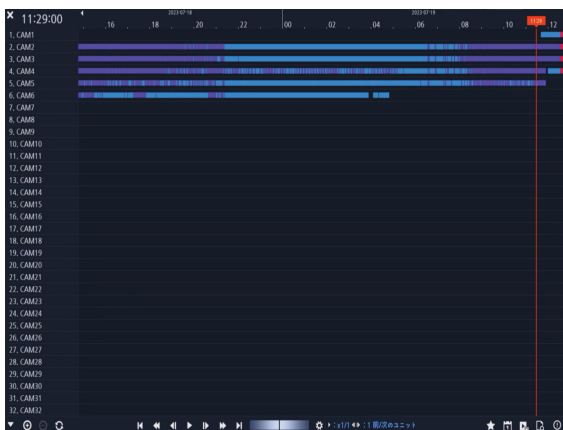
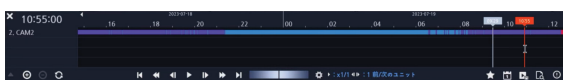
タイムラプス検索メニュー



1	録画テーブル	2	再生ボタン	3	ブックマーク	4	カレンダー検索
5	バックアップ	6	テキストイン検索	7	ヘルプ	8	ライブメッセージ

1 録画テーブル

現在の画面に表示されるチャンネルの録画情報を表します。



検索ウィンドウ上段に録画された日付/時間情報が表示されます。録画テーブルの灰色の縦の線は現在の再

生位置を表します。マウスで再生位置を自由に移動させることができます。



- 録画テーブルで後方に表示されるほど、最新のデータです。
- システム時間を過去の時間に変更して録画すると、同じ時間帯に1つ以上の映像が存在することがあります。重なる時間帯は黄色い線で区分された録画テーブルに表示されます。

タイムラプス検索ウィンドウの左下の または を選択すると検索ウィンドウの大きさが変更され、全体チャンネルまたは最小限のチャンネルだけが確認できます。最小の大きさのタイムラプス検索ウィンドウでは、スクロールを利用して表示されていない他のチャンネルの情報まで確認できます。

(拡大表示) を選択するとより狭い時間範囲を表示することができ、 (縮小表示) を選択するとより広い時間範囲を一つの画面で見ることができます。

画面に表示される日付や時間より以前または以後の録画データが存在する場合、日付/時間情報を表示するウィンド

ウの両側にスクロールバーが表示されます。スクロールバーをマウスでクリックしてドラッグし、選択した録画データの情報を確認することができます。

🔄 (リロード)を選択するたびに、最新にアップデートされた録画情報が確認できます。

ℹ️ (ヘルプ)を選択するたびに、録画データのカラー情報を確認できます。



ご希望の種類の録画データのみを選択して表示することができます。また、分単位検索ウィンドウでマウスを右クリックすることで、該当録画時点の録画タイプを確認することができます。

② 再生ボタン

映像を再生・探索することができます。

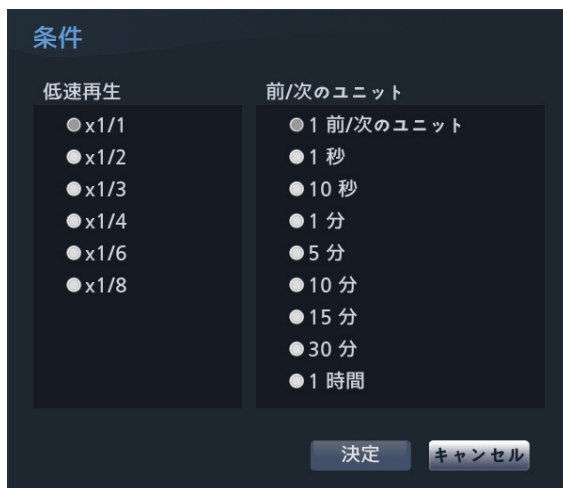
・ ジョグシャトル

再生方法および速度を調節することができます。

ジョグシャトルの縦の表示線は、現在の再生方向や速度を表します。縦の表示線が中央から右方向にあれば映像を正方向に再生し、左側にあると逆方向に再生します。縦の表示線が中央から遠くなるほど再生速度が速くなります。縦の表紙線をクリックし、ジョグシャトルをマウスでドラッグすることで映像の再生速度を調節することができます。マウスボタンを離すと縦の表示線が中央に戻り、映像再生が止まります。

・ 条件

⚙️ アイコンを選択して低速再生と前/次のユニットを設定できます。



・ 低速再生

再生速度を遅くして検索することができます。(x1/1、x1/2、x1/3、x1/4、x1/6、x1/8)の低速再生の速度を設定し、再生ボタンを押すと設定した倍速で映像が再生されます。

・ 前/次のユニット

再生画面の前/次のユニットの移動範囲を設定できます。1フレームから1時間まで移動範囲を設定できます。

③ ブックマーク



・ **現在位置追加**を選択すると、現在の再生位置をブックマークに登録します。タイトルを選択して登録したブックマークの名前を入力します。

ブックマークは12件まで保存できます。

・ ブックマーク設定ウィンドウで特定のブックマークを選択し、登録された再生位置に移動することができます。

- ブックマークリストを選択し、アイコンを選択してそのブックマークを削除することができます。

4 カレンダー検索



特定の日付の映像をカレンダー検索で探すことができます。カレンダーの年/月をクリックして、希望する年/月に移動することができます。録画された映像がある日付は水色で表示されます。日付を選択すると、その日付のもっとも早い時間に録画された映像が静止画の状態が表示されます。選択された日付は黒い背景にオレンジ色で表示されます。

5 バックアップ

- ツータッチクリップコピー**：任意の2つの位置を指定して両位置間のデータをコピーすることができます。バックアップ設定ウィンドウが表示されます。指定した2つの位置の範囲が開始と終了時刻に自動設定されます。
- バックアップ**：バックアップの設定ウィンドウが表示されます。開始と終了時刻をデータの最初や最後に決めることができます。



- チャンネル**：カメラの映像を保存するチャンネルを選択することができます。
- パスワード**：保存したビデオクリップを再生するとき、パスワードを使用するか否かを選択し使用する場合はパス

ワードを設定してください。

- メディア選択**：保存するメディアを選択することができます。
- ファイル名**：保存するファイルの名前を設定してください。最大63文字まで入力できます。

ファイル名には、\、/、:、;、*、?、!、"、<、>、|などの文字は使用できません。


- JSS-Playerを含む**：当該録画映像でJSS-Playerと共に、.exeファイルに保存して別途のJSS-Playerがなくても映像を再生することができます。
- テキストインデータを含む**：録画映像にテキスト入力情報がある場合、テキスト入力情報を映像とともに保存します。
- VAメタデータ含む**：録画映像にVAメタデータ情報がある場合、VAメタデータ情報を映像とともに保存します。
- サイト名使用**：バックアップのファイル名にサイト情報を追加します。

バックアップのファイル名に場所情報を追加する場合、場所情報に使用された\、/、:、;、*、?、!、"、<、>、|などの特殊文字は、_に代替されます。

開始を押すと指定した保存範囲のデータ量が計算されて表示されます。容量を確認し、**続ける**を選択するとバックアップが始まります。バックアップが始まると、**キャンセル**を押してバックアップを取り消すことができ、**閉じる**を押して画面を消すことができます。**閉じる**を選択してもバックアップは続けられ、コピーが完了するとこれを確認するウィンドウが表示されます。

ワンタッチバックアップモードでは保存されるドライブのメディア容量に合わせて保存範囲を自動的に設定します。選択したメディアに空き容量が足りない場合、空いている容量だけバックアップができます。


- NVRは実際のディスク容量と関係なく30GBと表示し、バックアップのためのファイルサイズは30GB以下に制限されます。
- 2GBを超える映像区間をバックアップする場合、システムが2GB単位に分けて保存します。
- バックアップで作成したファイルは、WindowsのPCで、すぐに再生することができます。再生方法に対する詳しい説明はJSS遠隔監視システムの取扱説明書を参照ください。
- USBフラッシュメモリはFAT32フォーマットのみに対応します。
- USB HDDはFAT32フォーマットのプライマリパーティションのみに対応します。

 USBバックアップの途中でUSBケーブルを取り外したり、USBメディアの電源を切ったりしないでください。USBバックアップ中にケーブルが抜けたりメディアの電源が切れた場合、NVRシステムが誤作動を起こしたり、外付けUSBメディアのファイルシステムが損傷し再びバックアップを試みたときバックアップができないというエラーメッセージが表示されることがあります。このエラーメッセージを表示させないためには、NVRを再起動する必要があります。USBメディアのファイルシステムが損傷していた場合は、NVRを再起動してバックアップを試みてもこのエラーメッセージは消えずに表示されます。この場合はメディアをもう一度フォーマットするか、復元プログラムを利用して損傷したUSBメディアのファイルシステムを修正しなければなりません。

6 テキストイン検索



特定**トランザクション**を選択すると、選択された日付と時間に該当する映像が静止画の状態が表示されます。

 1倍速の再生時には画面にテキストイン情報が重なって表示されますが、他の速度で再生すると表示されません。

左下の**条件...**を選択すると、テキストイン検索で検索する条件を決めることができます。



・ **開始**で**始め**を選択すると、保存されているデータの中で最初の時刻に設定され、**終了**で**終わり**を選択すると保存されているデータの中で最後の時刻に設定されます。**始め**

や**終わり**のチェックを解除すると検索する期間を直接変更することができます。

- ・ **チャンネル**：検索するテキストインチャンネルを選択することができます。
- ・ **テキストインデバイス**を選択し、テキストインデバイスのタイプを選択することができます。
- ・ **+ボタン**：検索変数設定を追加することができます。
- ・ **大小文字区分**：大小文字の使用設定ができます。
- ・ **読込**：保存しておいた検索条件の設定値を読み込むことができます。
- ・ **保存**：現在の検索条件の設定値を保存することができます。設定が**終わり**検索を押し、検索を実行したあと、**テキストイン検索**設定ウィンドウに戻ります。

7 ヘルプ

データの色情報を確認することができます。

8 ライブメッセージ

リアルタイムで発生する大事なイベントおよびシステム情報をユーザーが認識しやすいようにメッセージ表示します。

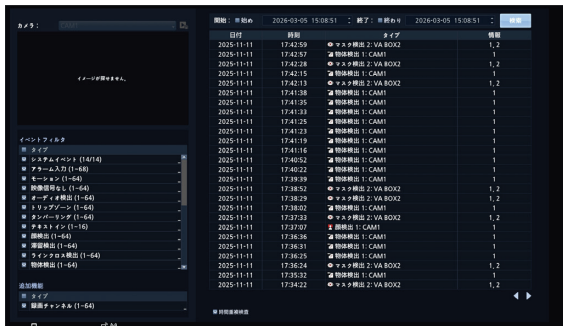
コンテキストメニュー

カメラ画面でマウスの右クリックでコンテキストメニューを実行することができます。

- ・ **拡大**：映像を拡大することができます。
- ・ **オーディオ**：オーディオ再生をON/OFFできます。録音されたオーディオの再生は、全体画面で再生したときだけが可能です。
- ・ **歪補正**：魚眼カメラの映像をDeWarpすることができます。（一部製品のみ）
- ・ **テキストイン表示/非表示**：録画映像にテキスト入力情報がある場合、テキスト入力情報を映像と一緒に表示したり、非表示したりすることができます。
- ・ **グループ編集**：グループ編集では、分割画面上でカメラの位置が変更できます。
- ・ **ライブメッセージ**：リアルタイムのメッセージ情報を確認できます。

イベントログ検索

メニューで**検索モード>イベントログ検索**を選択すると、イベントログ検索ウィンドウが表示されます。



- 特定のイベントを選択すると、連動録画が行われるチャンネルの選択された日付と時間に該当する映像が静止画の状態が表示されます。画面の真ん中の再生ボタンで映像を再生でき、画面上で連動カメラを変更すれば他のカメラを再生することができます。
- イベントログの検索ウィンドウの上にある**始め**や**終わり**の選択を解除し、検索する期間を直接変更することができます。



開始で始めを選択すると保存されたデータの中で、最初の時刻に設定され、終了で終わりを選択すると保存されたデータの中で最後の時刻に設定されます。

- 開始または終了時間をユーザーが指定する場合には、**時間重複検査**を選択/解除することができます。



システム時間が変更されユーザーが指定した**開始**時間または**終了**時間が2つ以上ある場合、これらから1つを選ばなければなりません。選択した**開始**と**終了**時間帯に発生したイベントだけが検索されます。**時間重複検査**が選択されていない場合は、全ての**開始**と**終了**時間帯に発生したイベントを検索します。

- 緊急録画、録画エラー、アラーム入力エラー、ディスクフル警告、ディスクエラー、ディスク温度、ディスク S.M.A.R.T.、ファンエラー、ストレージオフ、ディスク構成変更、RAID破損、RAID HDD抜けなどのシステムイベントを検索するときイベントフィルタを選択して選定することができます。

設置フィルタ

- システムイベント**：システムイベントを検索するチャンネルを選択します。
- アラーム入力**：アラーム入力イベントを検索するアラーム入力チャンネルを選択します。
- モーション**：モーション感知を検索するカメラチャンネルを選択します。

- 映像信号なし**：映像信号なしイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。
- オーディオ検出**：オーディオ感知イベントを検索するカメラチャンネルを選択します。
- トリップゾーン**：トリップゾーンイベントを検索するチャンネルを選択します。
- タンパーリング**：タンパーリングイベントを検索するチャンネルを選択します。
- テキストイン**：テキストインイベントを検索するチャンネルを選択します。
- 顔検出**：顔検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- ラインクロス検出**：ラインクロス検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 物体検出**：物体検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 侵入検出**：侵入検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 滞留検出**：滞留検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 定員超過**：定員超過イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 車両数超過**：車両数超過イベントを検索するチャンネルを選択します。
- ソーシャルディスタンス**：ソーシャルディスタンスイベントを検索するチャンネルを選択します。
- マスク検出**：マスク検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 行列混雑**：行列混雑イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 画像解析信号なし**：画像解析信号なしイベントを検索するチャンネルを選択します。
- 録画失敗**：録画失敗イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 転倒検出**：転倒検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 置き去り検出**：置き去り検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 持ち去り検出**：持ち去り検出イベントを検索するチャンネルを選択します。
- 混雑検出**：混雑検出イベントを検索するチャンネルを選択します。



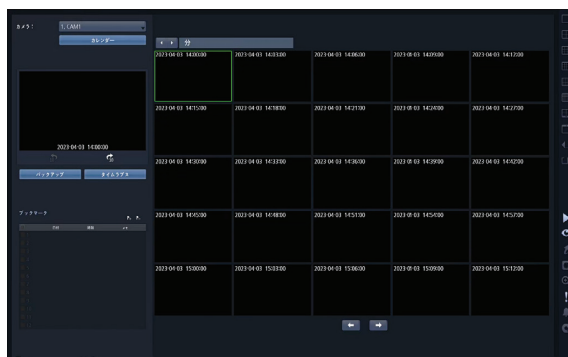
設定された録画チャンネルのうちで少なくとも1つの連動録画が発生したイベントだけを検索します。どのカメラも選択しなければ、連動録画カメラが1つもないイベントだけを検索します。

追加機能

- 録画チャンネル：イベントを検索する録画チャンネルを選択します。

サムネイル検索

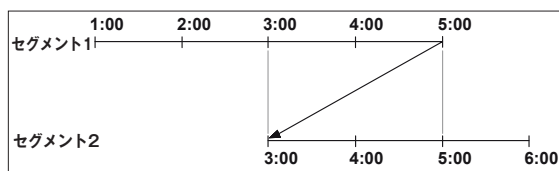
メニューで検索モード>**サムネイル検索**を選択すると、**サムネイル検索**ウィンドウが表示されます。



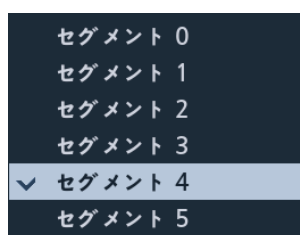
- 画面左側の**カレンダー**を押すと、録画が行われたチャンネルの、検索したい日付の映像をカレンダーから探すことができます。録画された映像がある日付は水色で表示され、選択した日付はオレンジ色で表示されます。
- カレンダーボタン右側の**◀ ▶**ボタンを押すと、日->時間->分->秒、または秒->分->時間->日の単位で精度が変更できます。
- 選択した日付と時間に該当する映像が静止画の状態が表示されます。画面中央にある再生ボタンで映像が再生でき、画面下段の**◀ ▶**、または**⏪ ⏩**ボタンを押して、10秒単位で映像を前後に移動することができます。
- バックアップを押すとバックアップの設定ウィンドウが表示され、開始と終了時刻をデータの最初と最後に設定したり自由に調節したりすることができます。
- タイムラプス**を押すと、タイムラプス検索モードに移動します。
- 🔖**アイコンを押すと、現在の再生位置をブックマークに登録します。タイムラプス検索モードの画面右側のブックマーク設定ウィンドウで特定のブックマークを選択し、登録された再生位置に移動することができます。ブックマークリストで、**🔖**アイコンを選択してそのブックマークを削除することができます。

重複した時間の映像検索

ユーザーがシステム時間を過去に戻して録画した場合、同じ時間帯に1つ以上の録画映像が存在する時間重複現象が発生する可能性があります。この場合、重複した時間の録画映像は、セグメントを区分して検索する必要があります。例えば1時から5時までの録画映像が存在する場合、システムユーザーがシステム時間を5時から3時に変更したあと6時まで録画すると、3時から5時までの録画映像が2つ存在することになります。このとき、3時から5時までの時間には2つのセグメントが発生します。

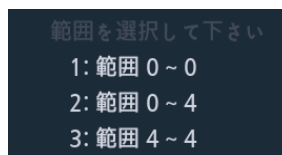


重複した時間の録画映像を検索するとき、特定の時刻または時間範囲を選択することができます。もし時間が重複した区間である3時から5時までの区間で**日時指定検索**などの検索メニューを利用し、ある特定の検索時間を指定する場合、例えば**4時**の録画映像を検索したいなら重複した2つのセグメントの中からどのセグメントの**4時**であるかを選択しなければなりません。



もし時間が重複した3時~5時の区間で**イベントログ検索**を利用して検索時間範囲を指定する場合、例えば**4時~5時**の間の録画映像を検索したいなら重複する2つの検索開始と終了の時間の中から1つを選択しなければなりません。選択可能な検索範囲は下記のとおりです。

- セグメント1の4時~セグメント1の5時
- セグメント1の4時~セグメント2の5時
- セグメント2の4時~セグメント2の5時



第5章—WEB Client 2

WEB Client 2

WEB Client 2はインターネット上で遠隔地の映像を監視及び検索できるもので、ウェブブラウザ(Google ChromeあるいはMicrosoft Edge)を用いて簡単に接続できます。WEB Client 2を実行するために必要なPCのシステム要求事項は、下記の通りです。

- **OS** : Microsoft® Windows®11
- **CPU** : Intel Pentium IV 2.4GHz以上 (Core 2 Duo E4600推奨)
- **RAM** : 1GB以上 (2GB推奨)
- **VGA** : 128MB以上 (1280×1024、24bpp以上)
- **Microsoft Edge** : 98.0.1108.43以上
- **Chrome** : GoogleChrome 22.0.1229.0以上 (59.xxx以上推奨)

1 ウェブブラウザを実行してからアドレス入力欄へ以下の情報を入力してください。

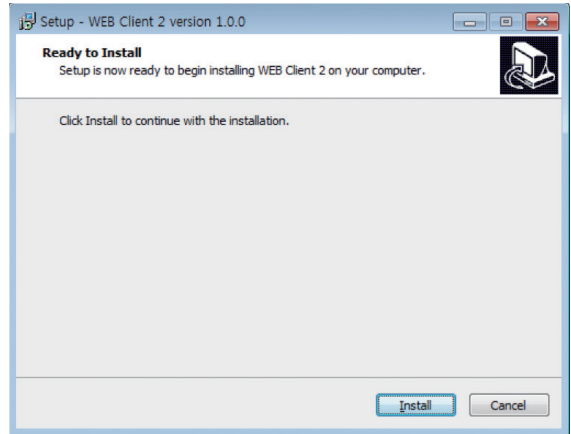
- “http://IPアドレス : ポート番号” (DVRシステムIPアドレス及びネットワーク - WEB Client 2設定から設定したWEB Client 2接続ポート番号 (デフォルト値 : 12088) 入力)
- 或いは “http://UCNサーバアドレス/UCN名” (UCNサーバアドレス及びUCNサーバへ登録されたDVR名入力)

- 接続するDVRのIPアドレス及びWEB Client 2のポート番号はネットワーク管理者へお問い合わせください。

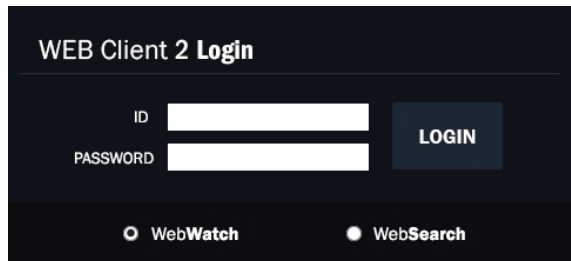
2 初めてWEB Client 2を使用する場合、「インストールが必要です」の画面が表示されます。
• 次の画面が表示されたら、ボタンをクリックして「installCWG_Jss.exe」ファイルをダウンロードします。



- ダウンロードしたファイルのあるフォルダまで移動してから、installCWG_Jss.exeファイルを実行します。



3 WEB Client 2のログイン画面が出たら、“WebWatch” (ウェブ監視) または “WebSearch” (ウェブ検索) を選択します。ID及びパスワードを入力して[LOGIN]ボタンをクリックすると選択したモードに接続されます。















- Microsoft® Windows®では映像転送速度の低下によりWEB Client 2のスクリーンの画面が表示されなかったり、更新しなかったりする恐れがあります。本症状の場合は、ご使用のPCのオートチューニング機能の解除をお勧めします。
- 管理者権限でコマンドプロンプト実行 (“スタート”メニュー⇒“すべてのプログラム⇒“コマンドプロンプト” ⇒マウスの右ボタンを利用し、“管理者として実行”選択)。
“netsh int tcp set global autotuninglevel=disable”を入力してからENTERキーを押してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。
- オートチューニング機能を再度復旧するためには管理者権限でコマンドプロンプトを実行してから “netsh int tcp set global autotuninglevel=normal” を入力してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

ウェブ監視モード

遠隔地の映像をリアルタイムで監視できる遠隔地ウェブ監視プログラムです。



1	マウスのポインタをWebWatchのロゴ部分に置くとWEB Client 2のバージョンを確認することができます。
2	現在の時間情報を表示します。(使用しているPCの時刻)
3	ログイン情報を表示します。
4	画面モードを選択します。画面モードを変更する場合、現在のスクリーンで選択したカメラが変更されるレイアウトの1番目のセルに位置します。
5	現在見ている映像をPCに接続されているプリンターで印刷します。監視したいカメラを選択します。
6	現在みている映像を画像ファイルで保存します。
7	描画モードおよびOSD表示およびアラームアウトの警告音を設定することができます。描画モードを選択して映像を出力する速度を調節ことができ、OSD表示リストから画面に表示されるOSD情報を選択することができます。アラームアウト警告音をOn/Offから選択できます。
8	遠隔地のNVRイベント、カメラ、ストリーム設定などの設定ができます。
9	ウェブ検索モードに切り替えます。
10	監視したいカメラを選択します。矢印ボタンを利用して以前のカメラグループまたは次のカメラグループに移動します。
11	遠隔地のPTZカメラを制御します。

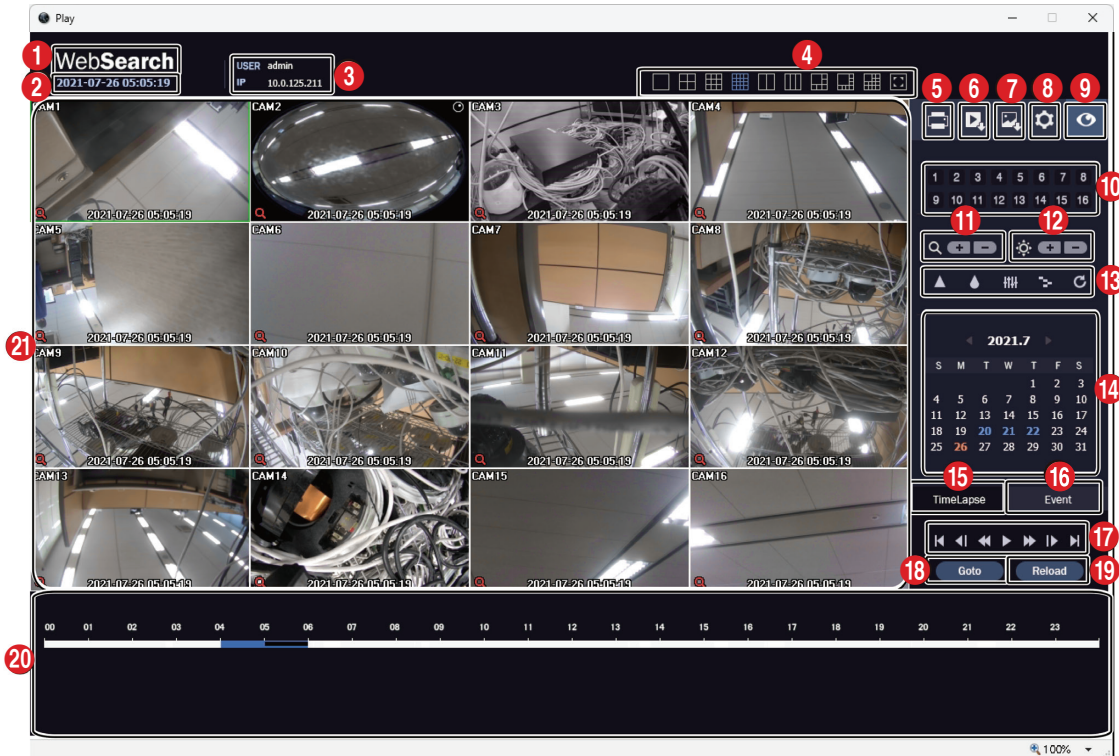
12	監視映像の画質を調節します。								
13	<p>カメラの簡単設定を行うことができます。映像モードをデイ/ナイト別にプリセットまたはユーザー設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - プリセット：Natural(自然)、Vivid(鮮明)、De Noise(ノイズ除去)の中から選択できます。 - カスタム：手動に各々の値を設定できます。Sharpness(シャープネス)、Contrast(コントラスト)、Colors(色の濃さ)、Brightness(明るさ)を設定できます。 								
14	遠隔地のアラーム出力装備を制御します。矢印ボタンを利用して以前のアラームグループまたは次のアラームグループに移動します。								
15	<p>下段部のイベントステータスウィンドウは、遠隔地で感知されたイベントリストを表示します。</p> <p>スクリーンからカメラを選択しマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 魚眼映像歪み補正：全方位カメラの映像の歪みを補正します。 • カメラタイトル変更：カメラ名を変更することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ウェブ監視モードで変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響を与えず、カメラ名を入力しなければ遠隔地で設定したカメラ名が画面上に表示されます。 • オーディオ有効化：遠隔地とのオーディオ送受信機能を提供します。項目を選択すると、オーディオ  ボタンが表示されます。 <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td>マイクで遠隔地へオーディオを伝送することができます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td>スピーカーで遠隔地のオーディオを再生することができます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td>遠隔地との双方向オーディオ送受信が可能です。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">×</td> <td>オーディオ送受信が無効化されます。</td> </tr> </table> <div style="float: right; margin-top: 10px;">  </div>		マイクで遠隔地へオーディオを伝送することができます。		スピーカーで遠隔地のオーディオを再生することができます。		遠隔地との双方向オーディオ送受信が可能です。	×	オーディオ送受信が無効化されます。
	マイクで遠隔地へオーディオを伝送することができます。								
	スピーカーで遠隔地のオーディオを再生することができます。								
	遠隔地との双方向オーディオ送受信が可能です。								
×	オーディオ送受信が無効化されます。								
16	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 接続した遠隔地がオーディオ送受信に対応する場合、カメラスクリーンに  アイコンが表示されます。 • 画面アスペクト比：画面上に表示される映像のアスペクト比を変更することができます。 <ul style="list-style-type: none"> - 画面に合わせる：カメラスクリーンのエリアに合わせて映像を出力します。 - アスペクト比に合わせる：オリジナル映像の縦横比でカメラスクリーンのエリアに合わせて映像を出力します。 - 半分の大きさ(x0.5)～4倍の大きさ(x4)：オリジナル映像の大きさを基準にメニューで指定した大きさとカメラスクリーンに映像を出力します。例えば実際の大きさ(x1)を選択すると、オリジナル映像の実際の大きさと出力します。半分の大きさ(x0.5)～4倍の大きさ(x4)メニューはカメラスクリーンに選択した大きさと映像を出力できるだけのエリアが確保された場合のみに活性化します。 • マルチストリーム：ひとつ以上のストリームに対応します。 • ブロック現象改善：拡大映像で発生するブロックノイズを除去し、画面上に表示される映像の出力品質を高めることができます。 • マウスPTZコントロール：カメラを動かすことができ、マウスのホイールで映像を縮小/拡大することもできます。 								

ウェブ検索モード

遠隔地の録画映像を検索できる遠隔地ウェブ検索プログラムです。



- ウェブ検索スクリーンでの遠隔地へのアクセスは30分以上操作がなければ自動的に解除されます。



1	マウスのポインタをWebSearchのロゴ部分に置けばWEB Client 2のバージョンを確認することができます。
2	現在の時間情報を表示します。
3	ログイン情報を表示します。
4	画面モードを選択します。画面モードを変更する場合、現在のスクリーンで選択したカメラが変更されるレイアウトの1番目のセルに位置します。
5	現在見ている映像をPCに接続されているプリンターで印刷します。 <input checked="" type="checkbox"/> 映像調整は一時停止状態でのみ適用されます。

<p>6</p>	<p>録画映像を実行ファイルとして保存します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実行ファイルで保存する時、“プレーヤー”オプションを選択すると保存ファイルのサイズや保存時間を減らすことができます。ファイル再生に必要な専用ビューアープログラムはブラウザのURL入力欄に下記の情報を入力してダウンロードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - UCNを使用する時：“http://UCNサーバアドレス/UCN名前/ JSS-Player.exe”（UCNサーバアドレス及びUCNサーバに登録されたUCN名前入力） - UCNを使用しない時：“http://IPアドレス：ポート番号JSS-Player.exe”（DVRシステムIPアドレス及びネットワークWEB Client 2設定で設定したWEB Client 2接続ポート番号（基本値：12088）入力）
<p>7</p>	<p>現在見ている映像を画像ファイルで保存します。</p>
<p>8</p>	<p>描画モード(Drawing Mode)、OSD表示(OSD Setup)、時間精度と応答性の選択(Others Setup)、そしてデュアルストリームの再生優先順位の設定をすることができます。描画モードを選択して映像を出力する速度を調節ことができ、OSD表示リストから画面に表示するOSD情報を選択することができます。その他の設定を選択して、時間精度より応答性を優先するように設定できます。デュアルストリームの再生優先順位はDynamic Control、Main Stream Priority、Sub Stream Priorityの中から選択できます。</p>
<p>9</p>	<p>ウェブ監視モードに切り替えます。</p>
<p>10</p>	<p>検索したいカメラを選択します。矢印ボタンを利用して以前のカメラグループまたは次のカメラグループに移動します。</p>
<p>11</p>	<p>映像を縮小・拡大します。</p>
<p>12</p>	<p>映像の明るさを調節します。</p>
<p>13</p>	<p>映像に様々なイメージフィルター(Sharpen(鮮明)、Blur(ぼかし)、Equalize(画質補正)、Interpolation(補間)、Revert(元に戻す))を適用します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 映像調整は一時停止状態でのみ適用されます。</p>
<p>14</p>	<p>特定の日付の映像をカレンダー検索で探すことができます。録画された映像がある日付は水色で表示されます。日付を選択すると、その日付のもっとも早い時間に録画された映像が静止画の状態が表示されます。選択された日付はオレンジ色で表示されます。</p>
<p>15</p>	<p>“TimeLapse”を選択するとタイムラプス検索モードを利用し、録画映像を時間順に従って検索・再生します。タイムラプス検索モードでの検索は日付の単位で行われ、カレンダーで検索する日付を選択することができます。画面下のタイムテーブルではカレンダーで選択した日付の録画映像の時間情報を表示します。時間を選択すると、その時間帯の映像を画面に表示します。選択した時間帯に1つ以上の映像がある場合、セグメントを選択することができます。</p>
<p>16</p>	<p>“Event”を選択するとイベント検索モードになり、ユーザーが指定する特定な条件に満足するイベントを検索することができます。</p>
<p>17</p>	<p>再生ボタンを押すと指定した状態で映像を再生することができます。</p>
<p>18</p>	<p>“Goto”を押すと検索する、特定の時間帯の映像にすぐ移動することができます。</p>
<p>19</p>	<p>“Reload”を押すと遠隔地の最新録画映像を再び読み込みます。</p>
<p>20</p>	<p>選択したカメラの録画情報を時間単位で表示します。カメラのシステム時間が過去に変更され同一の時間帯に1つ以上の映像が存在する場合、タイムテーブルの右上のセグメントメニューでどのビデオセグメントを検索するか指定することができます。</p>

画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。

- **魚眼映像歪み補正**：全方位カメラの映像の歪みを補正します。
- **データソース**：検索する録画画像の位置を選択します。
 - **ローカル検索**：NVRのメイン保存装置の録画画像を検索します。
 - **アーカイブ検索**：NVRのアーカイブ保存装置の録画画像を検索します。
 - **外付け検索**：NVRにつながっている他のシステムで録画された保存デバイスの録画映像を検索します。(仕様及び、バージョンにより、使用できない場合があります。)
- **カメラタイトル変更**：カメラタイトルを変更することができます。
- **オーディオオン**：当該映像を保存しながらオーディオも一緒に録音している場合にチェックするとオーディオを出力します。(単一画面再生時に限る)
- **画面レート**：スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
- **ブロック現象改善**：拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。



ウェブ検索モードより変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響しません。また、カメラ名を入力しない場合、遠隔地より設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

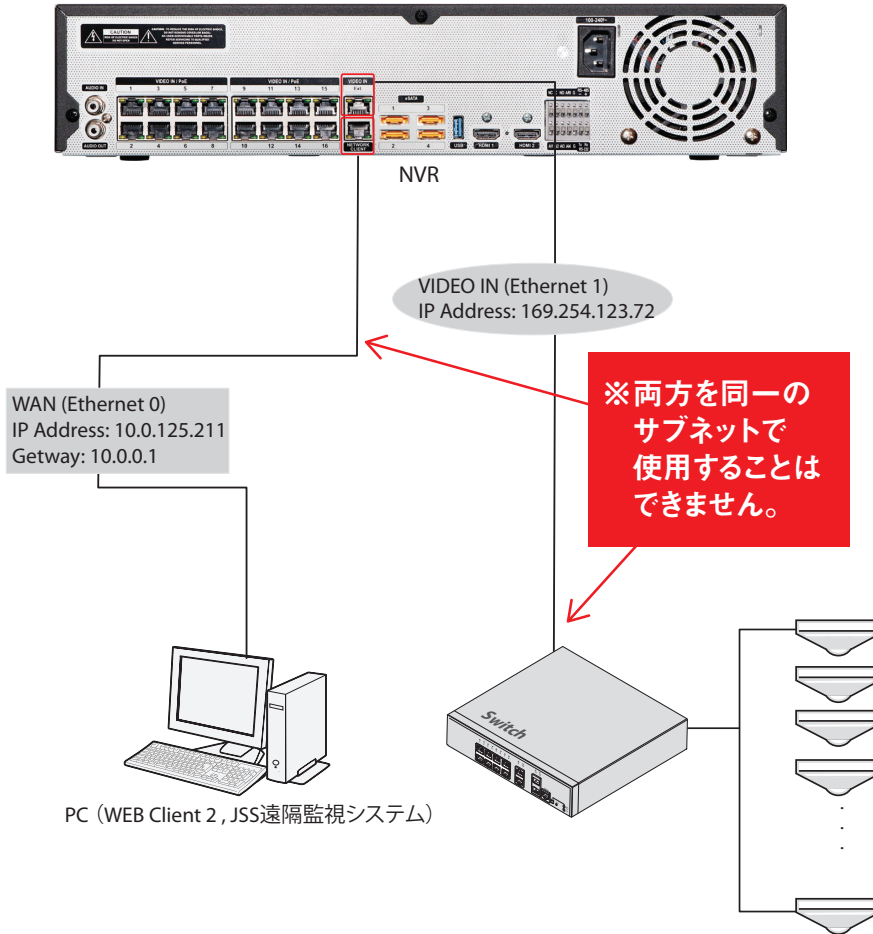


第6章一付録

NAT機能の使用例

NAT機能は物理的に分かれているWAN網PC (WebSetup / WEB Client 2 / JSS遠隔監視システム / RTSP) から内部VIN網であるカメラに接続するための機能です。カメラのWebSetup/WEB Client 2 / JSS遠隔監視システム / RTSP に接続するためには、NVRポートの番号がカメラのポート番号にポートフォワーディングするNAT規則を構成しなければなりません。

NATの構成図



- NAT機能を利用するためには、当該カメラのゲートウェイアドレスがNVRのVIN網のIPアドレスに設定されていなければなりません。
- カメラのIPアドレスおよびポート番号はカメラのWebSetupを参考にしてください。またはNVRでカメラのIPアドレスを確認するか、カメラマニュアルの基本ポート番号を使用してください。

Web Setup 接続の方法

カメラWeb Setup接続：PCにおける内部VIN網のカメラのWeb Setupに接続します。

設定方法：NVRの設定ポート番号とカメラのHTTPポート番号のポートフォワーディング

- Eth 0 : WANポート : 11001
- Eth 1 : VINのIP : カメラのIPアドレス
- Eth 1 : VINポート : カメラのHTTPポート番号

アクセス方法

http://NVR IPアドレス : 設定したカメラのHTTPポート番号/setup/setup.htmlを通じてWebSetupページに接続することができます。WebSetupで接続する場合はカメラのHTTPポート番号とポートフォワーディングした11001です。



WEB Client 2接続方法

PCにおけるVIN網のカメラのWEB Client 2に接続します。

設定方法 1 : NVRの設定ポート番号とカメラのHTTPポート番号のポートフォワーディング

- Eth 0 : WANポート : 11001
- Eth 1 : VINのIP : カメラのIPアドレス
- Eth 1 : VINポート : カメラのHTTPポート番号

設定方法 2 : NVRの設定ポート番号と遠隔ポート番号のポートフォワーディング

- Eth 0 : WANポート : 11002
- Eth 1 : VINのIP : カメラのIPアドレス
- Eth 1 : VINポート : カメラの遠隔ポート番号

eth0ポート番号とカメラの遠隔ポート番号が同じでなければなりません。

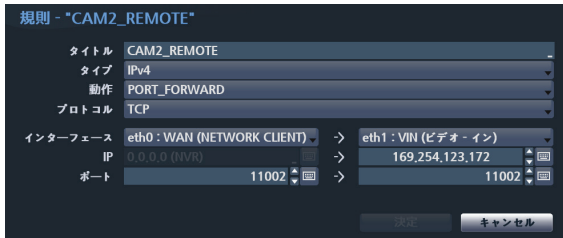
アクセス方法

http://NVR IPアドレス:設定したカメラのHTTPポート番号を通じてWEB Client 2の映像を確認することができます。WEB Client 2で接続する場合はカメラのHTTPポート番号とポートフォワーディングした11001です。

カメラのJSS遠隔監視システム接続

PCのJSS遠隔監視システムでVIN網のカメラ映像が見られるように接続します。

設定方法：NVRの設定ポート番号とカメラの遠隔ポート番号のポートフォワーディング

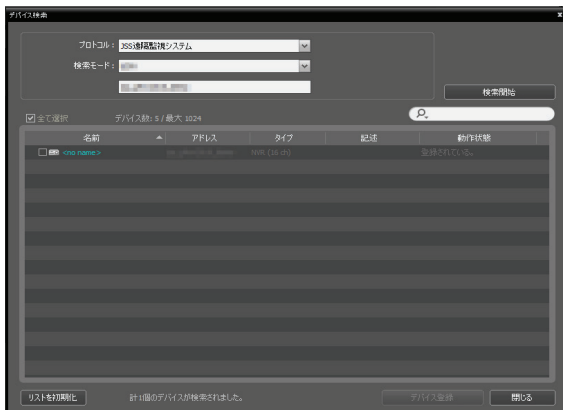


- Eth 0：WANポート：11002
- Eth 1：VINのIP：カメラのIPアドレス
- Eth 1：VINポート：カメラの遠隔ポート番号

eth0ポート番号とカメラの遠隔ポート番号が同じでなければなりません。

アクセス方法

JSS遠隔監視システムプログラムを利用してカメラ映像を確認することができます。

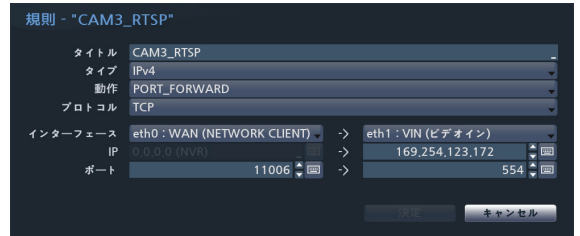


JSS遠隔監視システムプログラムで接続した場合にはカメラの遠隔ポート番号とポートフォワーディングした11002です。

カメラのRTSP接続

PCのRTSPプレーヤーでVIN網のカメラ映像に接続します。

設定方法：NVRの設定ポート番号とカメラのRTSPポート番号のポートフォワーディング

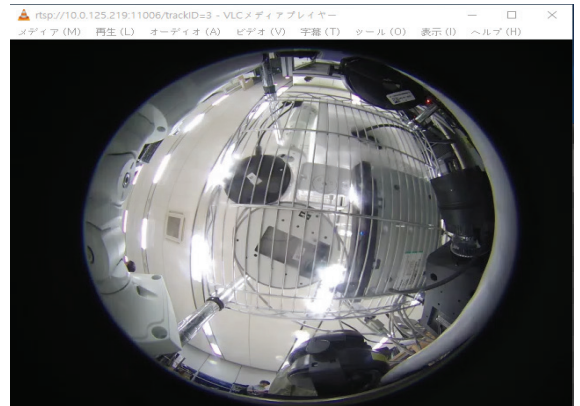


- Eth 0：WANポート：11006
- Eth 1：VINのIP：カメラのIPアドレス
- Eth 1：VINポート：カメラの遠隔ポート番号

アクセス方法

VLCメディア再生機を利用してRTSPに接続します。

rtsp://NVR IPアドレス：設定したカメラのRSTPポート/trackID=stream番号を通じてRTSP映像を確認することができます。



RTSPで接続する時には、カメラRTSPとポートフォワーディングした11006です。RTSPアドレスの設定方法は第3章－設定－ネットワーク設定－RTSPを参照ください。

システムログの種類

システムスタート	緊急録画スタート
システム終了	緊急録画終了
システム再起動	全ての録画データ削除
アップグレード成功	ディスク削除
アップグレード失敗	ディスクフォーマット
電源エラー	ディスクフル
スケジュールオン	自動削除
スケジュールオフ	検索開始
時間変更	検索終了
標準時間帯変更	バックアップスタート
タイムサーバー	バックアップ終了
時間同期化失敗	バックアップ取消
ディスクエラー	バックアップ失敗
ログイン	バックアップユーザー
ログアウト	バックアップスタート
設定スタート	バックアップ終了
設定終了	バックアップ映像再生時間
遠隔設定変更	バックアップカメラ
遠隔設定失敗	コールバック失敗
設定読込	ファクトリーリセット
設定読込失敗	カメラアップデート
設定保存	カメラアップデートスタート
設定保存失敗	カメラアップデート終了
設定保存取消	カメラアップデート失敗
	カメラアップデート ユーザー






エラーコードの種類

アップグレードエラーコード			
番号	タイプ	番号	タイプ
0	原因不明なエラー	301	遠隔ネットワークエラー
1	ファイルバージョンが合致しない	302	遠隔アップグレードの権限がない
2	OSバージョンが合致しない	303	遠隔アップグレードファイルの保存失敗
3	SWバージョンが合致しない	304	ユーザーが遠隔アップグレードをキャンセル
4	カーネルバージョンが合致しない	400	USBメモリでマウントエラー
100	メモリマウントエラー	401	USBメモリでファイルロードエラー
101	ファイルが見つからない	402	USBメモリでファイルコピーエラー
102	圧縮ファイルの解凍エラー	403	USBメモリが接続されていない
103	リロ(LILO)実行失敗	404	USBメモリ使用中
104	再起動失敗	405	サポートされないファイルシステム
105	正しくないファイル	500	バックアップ中であるためアップグレードできない
300	遠隔接続失敗		

バックアップエラーコード			
番号	タイプ	番号	タイプ
0	原因不明なエラー	12	ディスクエラー発生
1	デバイスエラー	13	JSSプレイヤーの実行ファイルなし
2	デバイス接続失敗	14	JSSプレイヤーの実行ファイルオープン失敗
3	CDメディアなし	15	JSSプレイヤーの実行ファイル保存失敗
4	間違ったメディア	16	イメージ作成失敗
5	同じ名前のファイルがある	17	コピー失敗
6	残容量不足	18	コピー時間オーバー
7	臨時ファイル作成失敗	19	デバイス接続失敗
8	ディスクオープン失敗	20	デバイス使用中
9	ディスクフォーマット失敗	21	サポートされないファイルシステム
10	データベースが変更される	22	データ検証失敗
11	保存失敗	23	範囲に保存されたデータがありません。

ネットワークエラーコード			
番号	タイプ	番号	タイプ
0	エラーの原因が分からない	20	ユーザーによって接続がキャンセルされる
1	正常なログアウト	21	ネットワークデバイスホストの応答なし
2	全チャンネルで使用中のため接続が拒否される	22	ネットワーク上にノイズ信号が多い
3	間違った製品のバージョン情報	23	転送キューがいっぱい
4	間違ったユーザー名あるいはパスワード	24	間違ったOEM情報
5	管理者が接続を強制的に終了させる	25	検索権限なし
6	タイムアウト	26	ポートがすでに使用中
7	ネットワークデバイスが終了	27	SSL接続失敗
8	使用可能なポートがないため接続できない	28	ネットワークタイムアウト
9	サーバが作動していないため接続できない	29	ネットワークデバイスホストタイムアウト
11	ネットワーク使用不可	30	ネットワークデバイスホストがTCPによるRTPに対応しない
12	ネットワークエリアが違うためアクセス不可	31	ソケットエラー発生
13	接続タイムアウト	100	不明なコーデック
14	ネットワークデバイスから強制的に接続が解除される	101	JPEGコーデック(対応しない)
15	ネットワークデバイスホストが終了	103	MPEG4コーデック(対応しない)
16	ネットワークデバイスホストでルーティングできない	400	サポートされない解像度
17	接続が中断される	-1	正常な接続

故障時の確認事項

不具合	確認事項
本体の電源が入りません。	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードの接続を確認してください。 コンセントの電源を確認してください。
リアルタイム映像が映りません。	<ul style="list-style-type: none"> カメラビデオケーブルとの接続を確認してください。 モニタビデオケーブルとの接続を確認してください。 カメラの電源を確認してください。 カメラレンズの取り付け状態を確認してください。
NVRが録画中に止まりました。	<ul style="list-style-type: none"> カメラのハードディスクがフルになっている可能性があります。録画された映像を削除して録画エリアを確保してください。 NVRを上書きモードに設定してください。詳しい内容は第3章－設定－システム設定－一般を参照ください。
 アイコンが画面に表示されていますが録画がされません。	<p>プリイベント設定がされている場合、イベントが発生せず、録画されていない時には () アイコンと () アイコンが表示されます。</p> <p>イベントが発生して録画されるときは、 () アイコンと () アイコンが表示されます。</p> <p>詳しい内容は第3章－設定－録画設定－スケジュールを参照ください。</p>
システムアップグレードの途中でNVRが再起動を繰り返し作業を完了しません。	<p>アップデートしているファイルのバージョンを確認してください。現在装置にインストールされているバージョンより下のバージョンにアップアップグレードしている場合、装置にあるファクトリーリセットスイッチを押してファクトリーリセットを先に行わなければなりません。ファクトリーリセットを使用する場合、ユーザーが保存したNVRのすべての設定値が失われます。ファクトリーリセットに関する内容は第1章－製品紹介－各部分の名称および機能－後面パネルの接続－ファクトリーリセットを参照ください。</p>

製品の仕様

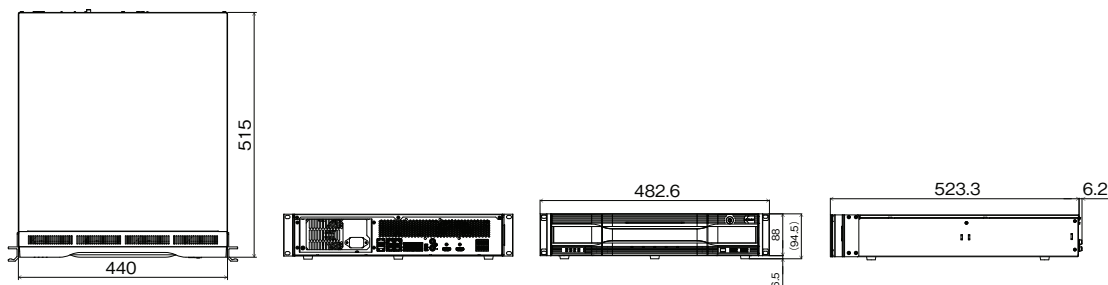
JS-RW5064 本製品の仕様は、製品改良のため、事前予告なしに変更されることがあります。

仕様

ビデオ	ビデオ入力	64ch
	対応カメラプロトコル	JSS、ONVIF(Profile S、ver22.12)
	ビデオ出力	HDMI (Ver.1.4b) : × 2
	最大入力処理能力(ライブ+録画+遠隔)	540Mbps (90 + 400 + 50)
	ディスプレイ解像度	HDMI : 3840 × 2160、1920 × 1200、1920 × 1080、1680 × 1050、1600 × 1200
	最大ディスプレイ速度	最大 1080ips
	最大ディスプレイ処理能力	90Mbps、480ips@ フル HD、120ips@UHD
録画	最大処理能力	400Mbps、1920ips@UHD
	最大録画解像度	12MP (ネットワークカメラに依る)
	画像圧縮方式	H.265、H.264
	録画モード	タイムラプス、イベント、プライベート、パニック
再生	性能	64ch synchronous playback
	検索モード	タイムラプス (カレンダー日時指定)、イベントログ、テキストイン、サムネイル
保存	HDD	内蔵 : 24TB (標準) / 48TB / 72TB / 96TB (最大)
	バックアップ	USB 記録装置 (USB HDD、USB メモリなど)
	RAID	RAID 1、5、10
ネットワーク	本体内蔵 PoE カメラポート	—
	外部 Video ポート	Gigabit Ethernet (Video In) × 3 + SFP (Video In) × 2
	クライアント接続ポート	Gigabit Ethernet (Client) × 1
	転送速度	50Mbps / 100Mbps (BRP Mode)
	PoE 電源供給能力	—
	イベントアラーム	Email (添付ファイル (.cbf、.mp4))、コールバック (遠隔ソフトウェア)、Push 通知 (モバイルアプリ)、FTP 通知 (添付ファイル (.cbf、.mp4))、HTTP
インターフェース	オーディオ入力 / 出力	Local (NVR) : 1RCA / 1RCA + 2HDMI、IP Camera : 64 / 64 (カメラに依る)
	アラーム入力	4TTL、NC/NO Programmable、2.4V (NC) or 0.3V (NO) threshold、DC5V / IP Camera64 (カメラに依る)
	アラーム出力	1 接点出力 (NC / NO)、2A@AC 125V、1A@DC 30V / IP Camera64 (カメラに依る)
	アラームリセット入力	1TTL、Terminal Block
	内蔵ブザー	有り
	シリアルインターフェース	RS232 (Terminal Block)、RS485 (Terminal Block)
	USB 端子	USB 2.0 × 2、USB 3.0 × 1
	外形寸法	約 440 (幅) × 88 (高) × 515 (奥) mm ※突起物含まず
一般	質量	約 11,160g (HDD2 個装着時)
	使用温度範囲	0 ~ 40°C (湿度 90% 未満 ※結露しないこと)
	電源 / 消費電力	AC100-240V、50/60Hz、3.0-6.0A / 145W
	同梱物	NVR本体×1、電源ケーブル×1、ケーブルクランプ×1、簡易マニュアル×1、ドアロックキー×2、マウス×1、HDMIケーブル×1、保証書×1

外形寸法図

単位 : mm



アフターサービスについて

この製品は「保証書」を別途添付しております。所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

■ 保証について

正常な使用状態で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書記載内容により、お買い上げの販売店（または工事店）が修理いたします。その他の詳細は保証書をご覧ください。

- 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 本製品が故障した場合、稼働していない時間に対する営業損失は補償対象外になります。

■ 定期点検・保守について

特に監視用などでご使用の場合は、定期点検の実施をおすすめします。詳しくは、お買い上げ販売店（または工事店）にご相談ください。

- 万一故障が発生した場合はお買い上げの販売店にお申し出ください。
本製品は当社保証規定に基づいて保証させていただいております。

修理を依頼されるときは

下記事項をお買い上げ販売店にご連絡ください。

- ① 故障の状況(できるだけ詳しく)
- ② 品名と品番(4K対応 64ch
ネットワークビデオレコーダ【JS-RW5064】)
- ③ お買い上げ年月日(保証書に記入)
- ④ 製造番号(保証書に記入)
- ⑤ お名前、おところ、電話番号

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

株式会社 ジャパン・セキュリティシステム

〒105-5111 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービルディング南館 11階

www.js-sys.com/

本製品の仕様は製品の質を高めるために事前の予告なく変される場合があります。

ご購入元メモ欄